

働する事二ヶ月、後ちサクラメントに至り、居る事一ヶ月ならずして、ワッソンビル地方に來り、木村作三の部下に屬して、材木製造所に働く事一年、爾後諸所の農園に働き、時々砂糖大根園の耕作を請負ひ屢々巨利を博したる事あり、已にして明治二十八年、ワタスと云へる白人の植木屋に入り、労働を繼續する事實に九ヶ年の久しきに至り、配下に數十人の労働者を管理し、彼れ此間に於て主人の信用を得る事厚く貯蓄する事また少なからず、是に於て明治三十六年、ワッソンビル、サンオンロードに家屋を借りて旅館を開業し、之を福本旅館と稱し、現にワッソンビルに於ける人氣ある旅館として知らる、彼れ旅館營業の傍ら、白人ワタスの農園を管理し、之に労働者を入れて庭園を經營せり、東、田尾と共に、ワッソンビル日本人社會の先輩に推され、殊に同縣人の此地に事業を爲すもの少なからざるを以て、隱然此地方に重きを措かる。

△小川武一郎 岡山縣阿耆郡上市村の産、明治五年生る、明治三十年渡米し、間もなくワッソンビルに入る、是より先實兄西村仙左衛門來りてアロマスに在り、乃ち兄の事業を助けて庭園を經營す、後ち仙左衛門の死去するや、其事業を繼ぎ、以て今日に至れり、現時の耕作地は八十英町にして、内六十七英町に苺を植え、一英町の借地料一ヶ年貳拾五弗を支拂ひ、明治四十二年の如き、一ヶ年の水代五百弗なりしと云ふ、別に二十馬力の揚水器械を設置す、此費用千五百弗を投せり、使用の馬六頭を有し、苺の種類十五種あり、ワッソンビル庭園の獨立經營者として、恐ら

く彼の右に出づる者なからむ。

△藤本寅彦 熊本縣上益城郡濱町村大字千瀧の産にして、明治八年十二月生る、明治二十九年英領ヴィクトリヤに上陸して、直ちに加州ワッソンビルの地に來り、ミセスオースチンの紹介にて、某白人の家庭に入り、夫妻共に久しく其内に労働するに至れり、妻ミチ子は性最も温和にして忍耐に富み、白人主婦の彼女を愛すること尋常に非ず、ミチ子は初め月給貳弗を以て其内に入り、三ヶ月にして五弗となり、六ヶ月にして拾弗となり、一ヶ年にして拾五弗となり、一ヶ年以後は貳拾弗宛の月給を得、爾後五年間よく其任務を繼續して、勤勞一日の如く、其忠實なる事殆んど婦人労働者の模範と稱するも可なり、此間に於て夫寅彦は、主家の農園を借りて之に苺を植ゑ、以て其事業を起さんとせしも、彼未だ苺作の経験なかりしを以て貳千弗の損失を蒙り、三年の後遂に之を他に譲りて、明治二十九年、妻の貯蓄貳百弗を資本として、旅館及び洋食店を開業するに至れり、之れ乃ち現時の肥後屋旅館及び肥後屋洋食店にして、開業後家屋の建築に費したる金貳千弗に達したりと云へり、明治四十年更に日本料理店及び風呂屋を開業し、現時華村日本人街の經營者中、最も成功せる者とせらる、夫妻の間三子あり、弟政彦は三年前渡米し、現にサンタクローズに於て土地を所有し、盛に農業に従事す。

△山本又雄 山口縣熊毛郡伊保庄村の産にして、明治十三年生る、明治三十五年渡米し、ボート

ランドに上陸して直に加州ワツソンビルに來り、ツイスキヒルに於て、岡山縣人西村仙左衛門の
 荷園に勞働する事一ヶ年、已にして西村の共同者梶尾某の別に、荷園の經營を爲すに至り、其共
 同者として、之に従事する事五ヶ年、頗る利益を得、弟二人あり一は平穂と稱し、明治三十二
 年に渡米し、一は種一と稱す、明治三十七年に渡米せり、彼等二人また農園に勞働して貯蓄する
 所少なからず、乃ち兄弟三人及び同縣人、富田太郎一、村上熊次郎を加へ、五人の共同にて、ワ
 イ興産社を組織す、ワイは英字山口縣の首字を取りて、之に名けたるものにして、其共同者五人、
 悉く山口縣人なるを以てなり、之れ明治四十一年の事にして、其經營する所、荷園五十英町、豆
 畑三十英町あり、一ヶ年の借地料貳千四百弗にして、荷園の植付費用壹萬千貳百五拾弗に上り、
 家屋及び納屋の建築費七百弗、高架水渠架設費千五百弗、井戸及揚水器械の設置費千〇五拾弗を
 支出し、使用の馬四頭を有し、其他農具費一切に貳千弗餘を支出したりといふ、明治四十二年の
 如きは荷の價廉なりしと雖も、荷園十五英町より、三千三百チャストの荷を收穫し、一チャスト
 の價平均參弗貳拾仙にして、壹萬〇六百六拾弗を得、他に豆、荷苗、玉葱、等にて、貳千五百弗
 餘を得たりと云ふ、又穂及び平穂共に故國より妻を迎へて愛兒あり、共同者富田、村上の二人ま
 た、妻を迎へて各一子あり、互に親睦にして以て事業に精勵す、ワツソンビル日本人農家中の成
 功者として知らる。

△森安丈之助 岡山縣都窪郡庄村の産にして、明治十一年十一月十一日生る、明治三十二年渡
 航し、桑港に上陸して直にサンノゼに入り、居る事一年、三十四年ワツソンビルに至り、シーシー
 モーアの種物園に、勞働者の供給を契約し、傍ら加藤某、若林某等と共同して、東洋商會なるも
 のを設立し、また森安旅館を開業し、盛に其營業に従事したりしが、明治三十八年サリナスに於
 て西博夫と共同し、砂糖大根園二百四十英町を經營し、ワツソンビル市に其事務所を置く、斯く
 て明治四十一年十一月サンオンに入り、一英町拾五弗の借地料を拂ひて、三十一英町の地を借り
 之れに荷を植付け、收穫折半の契約を以て、之を日本人勞働者に耕作せしむ、此園地に使用する
 馬五頭を有し、また千四百弗を投じて、十五馬力の揚水器械を設置せり、此荷園の收穫一ヶ年貳
 萬弗内外なり、此外砂糖大根園の收穫毎年千弗内外あり、其荷園に投じたる資金は前後壹萬千七
 百弗に達し、加州荷園經營者として最も大なるものに屬す、曾て岡山縣尋常中學校を卒業し、税
 關官吏を奉職したる事あり、最も英語に熟達し、白人の信用頗る厚く、地方同胞社會に重き
 を捐かる。

△藤本正孝 熊本縣玉名郡大野村字野口の産にして、明治十年生る、明治二十九年布哇に渡航し
 居る事二年半、美以教會内に寄宿し、牧師奥村多喜衛に依て英語を修め、また米國陸軍大佐ゼー
 ムスコニーの家庭に勞働して、深く信用せらる、三十一年桑港に轉航し、居る事三週間、同年五

月よりアラメダ郡サンジョークイン、コール會社の鐵山部、煉瓦製造部、陶器、磁器、玻璃製造部に於ける、日本人勞働者の監督に採用せられ、月給七拾五弗を受け、配下に百八十人の勞働者を管理し、月給の外多額の収入ありしと云ふ、已にして明治四十一年二月二十四日、經濟界恐慌の際、會社は其の取引銀行の閉鎖せるを以て、事業縮少の結果、藤本もまた一般の傭人と共に解職せらる、彼れ其職に在る事十年間、深く會社の用ゆる所となり、配下の信頼を得たり、已にして明治四十一年十一月十七日、サンベニト郡ホリスターの地に入り、白人ローナの農園を請負ひ會てコール會社に於て管轄せし配下を使用し、現に種子園の耕作に従事す、彼の管理せる農園四百英町、之に玉葱、蕎、砂糖大根、ラデス、スイートピー、アスター等を作り、成績最も佳良にして、年々の利益少なからず、彼れのホリスターに於て、農園經營を爲すや同胞の此地に入る者大に其數を増加し、此地方同胞の發展に資する所、少からず。

△谷村吉五郎 廣島縣安藝郡矢賀村の産にして、慶應二年生る、明治二十五年の渡米にして、タコマに上陸し、アイダホ州の鐵道に働か事三年、其後加州に出でサンオンに來り、砂糖大根園の耕作を契約したりしが、明治二十九年一旦歸國し、間もなく再渡米して、明治三十年及び三十二年は、主として、受負耕作を爲したりしが、明治三十二年、三十英町の地を現金借地し之を經營する事三年、更に九十英町の農園を經營する事二年、已にしてサンオン地方日本人居住者の増加せ

るを以て、明治四十年同地に旅館及び商店を開業し、年々利を得る事少からず、偶々同地に、セメント製造會社の起るあり、乃ち會社と契約して、之に百人の日本人勞働者を供給するに至り、其所得また少なからず、彼れ此外明治四十二年、種子物園三百英町と葎園六英町を契約し、之を他に耕作せしむ、サンオンに於ける同胞社會の元老と稱せらる。

△横田彦四郎 岡山縣吉備郡總社町の産にして、明治四年十月生る、明治三十三年二月十五日、タコマに上陸し、オクゼン、ワイオミング等にて鐵道に勞働する事八ヶ月間、之れ日本人の鐵道工夫に使用せられたる最初なり、已にして同年九月加州ワツソン地方に來りて、甘菜園及び伐木事業に従事する事八ヶ月、三十四年四月、再び鐵道に入りて勞働する事一ヶ月再び華村に歸り、同年五月大根園七十英町を受負ひ、爾後年々借地及び受負耕作を爲して、盛に大根園の經營を爲し、屢々巨利を得たり、其後ワツソンビル市に出て、一時旅館及玉突場を開業したるが、後ち之を他に譲りて、明治四十二年四月更にサンオンロードに旅館を開業し、頗ぶる人氣を有す。

△俵野光治郎 岡山縣都窪郡撫川町の産にして、明治七年十二月生る、曾て陸軍歩兵縫工たり、三十三年六月渡米してタコマに上陸し、アイダホ州の鐵道人夫たりし事五ヶ月、同年十一月加州華村に來り、白人の農園に勞働する事九ヶ月、三十四年八月、メーン街に旅館を開業し、之を俵野旅館と稱す、三十八年十一月、日露の戰爭酬なるや、召集に應じて歸朝し、補充大隊に編

入せらる、三十九年五月、除隊となり、同年八月再び渡米し、以前の旅館を繼續し、四十一年四月別に家屋を借りて、寫眞業を開き、此地方唯一の寫眞師たり。

△行徳仙吉 福岡縣起羽郡船越村の産にして、慶應三年一月生る、明治三十五年布哇に渡航し砂糖耕地に勞働する事四ヶ年、三十九年桑港に上陸し、サンタクラ、郡ギルロイに來り、洋食店を開業したるが、後ち之を他に譲りてワツソンビルに來り、メーン街皿井旅館を譲り受けて、其規模を擴張し、大黒屋旅館と名け、之を經營して今日に至れり、彼れ此外五英町の葎園と三十英町の馬鈴薯を栽培せり、現にワツソンビル株式會社日本商會の大株主として其取締役に推される。

△鳥越文吉 岡山縣津野郡萬壽村字富久の産にして、明治十七年七月生る、三十三年バンクーバーに上陸し、砂市に至り居る事二年、鐵道勞働に従事す、後ち桑港に來り、明治三十六年二月華村に來り、サンマークスの農園に入りて、勞働する事三年、其れよりサリナネに至り、株式會社豊國商會の店員として店務に従事したるが、後ち華村に來り、資本金八百五十拾弗を以て、時計店及び自轉車店を開業し、營業繁昌して、明治四十二年度の如きは、一ヶ年の賣上高五千弗に上れり。

△本道仁吉 熊本縣宇都郡網津村の産にして、明治二年生る、明治二十八年夫妻相伴ふて、布哇に渡航し、砂糖耕地に勞働する事三年、三十一年ホル、に於て、熊本亭と云へる日本料理亭を

開業したるが、越へて三十三年黒死病猖獗を極めたるを以て、家屋を焼拂はれ、後ち、ハワイ島ヒロ市に於て、和洋染物店を始め、三十五年オーラウ鐵道工事の起るに際し、延長三哩の工事を請負ひ、十一ヶ月にして之を竣工し、利益を得たる事少からず、三十九年染物業を他に譲りて、米國桑港に轉航し、直ちに華村に來り、日本亭と云へる料理店を開業し、傍ら多額の資本金を投じて、盛に麵類の製造を營みて、今日に至れり、現に同地株式會社日本商會の取締役及び華村佛教會の相談役たり。

△増本秀吉 廣島縣安佐郡西原村の産にして、明治九年十二月生る、明治二十九年渡米して桑港に上陸し、米國軍艦内のコックたる事二年、一旦歸國して三十三年再び渡米し布市及びサクラメント地方の農園に勞働したるが、三十四年サンオンに入り、砂糖大根園百二十五英町を受負ひて利益を得、爾後年々農園事業の受負を爲し、明治四十三年一英町七弗の借地料を拂ひ、七十五英町の借地を爲し、玉葱、馬鈴薯、牧草、ラデス等を作り、盛に種子園の經營に従事す、サンオン地方の老農として知らる。

第三節 サンタクラ、郡

サンタクラ、郡日本人發展地の調査

サンタクラ、郡は、東はマーシド郡及びスタニスロー郡に界し、南はサンベニト郡、北はアラメダ郡に接し、西は斜にサンタクローズ郡、サンマテオ郡及び桑港灣の一部に沿ふ、郡内にハミルトンの高山あり、西南部は一帶の平野にして、之をサンタクラ、平原と稱す、果樹最も多く、郡内百二十五方哩の地殆んど果樹園ならざるなし、果物箱詰所四十五、果物罐詰製造所八、酒醸造所二十あり、果物の外、家畜、牛乳、牧草、穀類を産し、また水銀の鑛區は米國中最大なる量を産し、材木製造所は州中最も規模の大なるものとす、サンノゼ、ミルピタス、キャンベル、エデニビル、サンニベル、アグニユー、ペリヤサ、キユバチノ、アルビソ、サラダガ、ロスガトス、モルガンヒル、ギロイ、カヨテ等の各地、日本人の散在するもの少なからず、明治四十二年度に於ける、郡内同胞の經營せる農業反別は、三千八百八十英町にして、内所有八百四英町、現金借地千五百二英町、歩合耕作千〇五十四英町、請負耕作五百英町なり。

サンノゼ サンタクラ、平原の中央にあり北加州有名の都會にして、人口三萬を有し、市街整然、電氣、水道、瓦斯等の供給備はらざるなく、人家稠密にして、商業取引の盛なる事、羅府、桑港の間に於て此所に優るものならず、通路四方に達し、市の東は五哩、西は八哩を距て、山脈之を圍繞し、鐵道の線路頗る多く、南は羅府に達し、北は半島を縦貫して、桑港に達するエスビー線あり、西はサンタクローズ山を超へて海岸に達する狭軌鐵道あり、またナイルスを通過する

ものと、アルバラドを通過する二線、アラメダ及びオークランドに達するあり、市役所、寺院、學校、圖書館、皆壯宏美麗にして、有名なるホテルに、ベンドム及びセントゼームス等あり、アリユーラックカンヨンの温泉は、市の東五哩の所にあり、附近の平地六百英町、岩石巉峨として、之を圍遶し、其上部は乃ちハミルトン山の麓に連れり、風景佳美にして、士女の遊覽する者少からず、リック天文臺は、ゼームスリックの七拾五萬弗を投じて建設せるものにして、市より二十七哩、海拔四千四百四十呎の所にあり、サンタクラ、郡は之が爲に、建築費及び山路開修費として拾萬弗を支出したり、市街より、馬車及び自轉車にて登山する事を得、此大望遠鏡は三十六吋の屈折力を有し、世界中第二のものなりと云へり、日本人街は市の南東に偏し、ジャクソン街を中心として、北第二街と北第六街の間に發展し、純然たる日本人街を爲し諸種の便利備らざるなし、市内の營業者としては、新聞支社三、病院三、齒科醫一、會社一、食料雜貨店十、自轉車店一、時計店二、書籍店一、洋服店一、靴屋一、旅館及下宿屋十八、湯屋三、玉突場十、射的場一、料理店五、うどん蕎麥飯屋五、洋食店一、運送店二、豆腐屋一、魚店二、寫眞屋二、洗濯所四、理髮店五、酒醸造所一、菓子屋一、薪屋一、裁縫店一、喫茶店一あり、明治四十二年度の調査に依れる市内日本人の勞働者は、コック三十三、スクールボーイ十六、給仕人三、園丁一、家屋掃除人四あり、日本人の營業者中、北米商會は、食料雜貨店の大なるものにして、廣島縣人飯田

國藏、田川甚六の共同酒造場は、加州日本人社会唯一の清酒醸造所にして、今より四年前新築を起し、明治四十二年度の清酒醸造高二百石なり、旅館業者中、蓬萊屋と云へるは山口縣人白石良介の經營する所にして、此地最も人氣ある旅館なり、労働者俱樂部は、戸田保吉の建築せるものにして、労働者の爲に便利なる宿所を設備せるものなり、家屋は長さ百二十呎、幅六十呎にして附屬の劇場あり、此經費壹萬千五百弗と稱す。

△サンタクラ、同胞會 初め協議會と稱し、明治三十七年、之を組織し、小室篤次、最初の理事たり、後ち佐市日本人協議會と改めたりしが、別に共和會と云へる一團體の起るあり、已にして明治四十一年、土地の旅館同盟會は、サンタクラ、郡に散在せる、同胞社會の歩調を一にせんが爲に、諸方を遊説して、同年九月二十八日、各部落の代表者會議を開き、白石良介を座長と爲し、從來の二團體を合同する方針を決議し、十月十日委員會を開き、同月十八日、サンタクラ、郡、同胞大會の發會式を舉げ、白石良介司會者となり、島山喜久治座長となり、始めて第一回の總會を終り、爾後繼續して現時に至れり、會員は一年壹弗の會費を納じ、理事に岡本新吉、副理事に白石良介を選擧し、會の所轄及び地方評議員の定數左の如し。

- (サンジョセ)五名、(アルビン)三名、(アグニユー)二名、(サンニベル)貳名、(マウンテンヴィエ)
- 一)二名、(キユバチノ)三名、(キャンベル)三名、(サラトガ)一名、(ロースゲトス、アルマ、ライ

ツ)三名、(エデンビル)二名、(カヨラ)一名、(ギロイ、モーガンビル)二名、(東サンジョセ、エバ

ーグリーン)一名、(ベリヤサ)一名、(ミルピタス)二名、(サンジョセ附近)二名、合計三十二名

△新聞支社 明治三十四年福井文藏、新世界の支社を創め、三十五年、日米新聞支社を置き、之を兼務す、後ち福井の新聞社と關係を絶つや、林憲三、日米新聞支社の主任となれり、其他に新世界新聞、桑港新聞各支社を有す。

△佐市日本人佛教會 北五街六八一番にあり、西本願寺派に屬す、明治三十九年桑港佛教會此地に出張所を置きたりしが、明治四十一年六月、始めて佐市日本人佛教會を置き、佐々木行應を聘して開教師と爲す、會員百九十名あり、會の事業として、日本人兒童の爲めに小學校を設け、尋常科三學年迄の課程を置く、現時の生徒十名以上あり。

△サンジョセ獨立佛教會 北五街六三〇番にあり、明治四十一年六月一日、福井縣人高橋豊念の設立せるものにして、現時二百六十名の會員を有し、附屬事業として小學校、婦人會、幼稚園、英學校、慈育預部、稚兒預部、寄宿學校等あり、小學校はサンジョセ市の教場に十五名、アルビ

ン教場に四十名あり、婦人會は會員三十人、幼稚園の兒童十六名あり、千貳百弗の土地及び家屋を有し、高橋豊念自ら會長たり、高橋開教師は東京高輪佛敎大學の卒業者にして、會て本願寺より派遣せられ、佐市日本人佛教會を管掌し來りたるが、後ち桑港佛教會の所置不當なりと稱

し、獨立して之を創立するに至れり、之れ佐市に二箇の佛教會ある所以なり。
△美以教會 明治三十年の創立にして、最初の牧師を木村清松と爲す、赤澤元造、三浦金吉、小室篤次、那須生平等を経て、現時の牧師吉田賢秀に至る、會員二十六名あり、パロアルトに支部を有す。

△サンジョセ市附近の農業 市の附近にある日本人農家は、果物及び蔬菜の耕作に従事し、土地所有者六名、所有地面積八十九英町半、現金借地者五十六名、借地面積五百七十九英町、歩合耕作者六名、此面積百九十英町あり、土地所有者は左の如し。

- 阪上若松 (和歌山縣) 二十英町 果物
- 山川彌市 (廣島) 十九英町 蔬菜
- 堀尾兄弟 (廣島) 三十四英町 果物
- 乙黒波太郎 (山梨) 十英町 果物
- 小林繁松 (香川) 五英町 果物
- 田中鶴吉 (東京) 一英町 蔬菜

「モルガンヒル」カヨテ驛より南二驛を隔てたる所にして、マルハイ山の附近、ノーブヒルとして知られたる孤山の麓に位置し、市街は僅かに十二三年前よりの發達なれども、此附近最も發達の

急速なる新殖民地たり、市街風景に富み、水道を設置し、寺院四、學校三、週間新聞一あり、果物、葡萄酒、秣草、薪材、麥、牛乳等を産す、現時此附近の地、一英町拾五弗より百五拾弗の間にあり、少數の勞働者の外未だ日本人の農家を見ず。

「エデンビル」サンノゼ市の南數哩エスビー鐵道に添ひ、美なる米人の邸宅多く、附近の地肥沃にして、土壤の深さ三十呎あり、白人の好住地にして、日本人農業者の發達すべき餘地乏しく、僅か三人の歩合耕作者あり、其耕作地三十英町、トメトー及び種子物を作れり。

「カヨテ」エデンビルの南に接し、ウイリアム農園に少數の日本人勞働者あり、自ら農園を經營するものわらず。

「ギロイ」エスビー鐵道線路の停車場にして、サンジョセより南三十哩の所にあり、サンタクラ、平原最南の小都會たり、人口五千あり、市街に瓦斯及び電氣を供給し、銀行一、新聞社一、寺院六あり、附近邱陵起伏し、桃、アモンス、梨、林檎、麥、野菜等を産す、土地の價格一英町五十弗より參百弗の間にあり、西方にサンタクローズ山の大深林地ありて、多くの材木を産す、東十三哩にして、有名なるギロイの温泉あり、此地日本人の定住する者百五十人内外、現金借地者八、借地面積百七十二英町、歩合耕作者二、作地面積百七十英町、受負耕作者三、作地面積二百四十英町あり、麥、野菜、豆、砂糖大根等を作る、市内營業者は旅館二、玉突場二、理髮店

一あり、同胞の始めて此地に入りたるは、明治二十九年和歌山縣人立野梅吉、千英町の農園を請負ひたるを初めと爲す、現時農園經營者の大なるものとしては、廣島縣人中敷谷廠の現金借地百英町を以て最大なるものとす、種子物園人夫供給者としては、竹内武道、竹中龜太郎等あり、市内營業者中、横山旅館は明治三十七年の開業にして、之を市内營業者の率先者とす、現時他に一の貴志旅館あり。

「キヤンベル」サンノゼ市の西南四哩にして、サンタクローズに通ずる狭軌鐵道線路に添ひ、ロスガトスの東北五哩の所にあり、人口七百五十、公園、圖書館、寺院、學校等あり、ベツパーツリー、アーカシヤ、橄欖、胡桃、等の樹木街路に並立し、好當なる居住地の一なり、地は悉く果樹園にして、パーキングハウス鐘詰製造所等あり、明治三十五年の頃廣島縣人進藤某等始めて此地に入り、明治二十九年より日本人定住者の數を増加し、現時二百人の定住者あり、此地は同胞の獨立農家極めて少數にして、多くは白人の果樹園に勞働するものに屬す、市内營業者として沖田商店あり。

「ロスガトス」キヤンベルの西に隣し、サンタクローズ山の麓にある風景好き小都會にして、人口二千五百を有す、瓦斯及び電氣の供給あり、氣候は千九百年の二十九度、千九百一年の三十二度を以て最低と爲す、絶て降霜なく、多くの果物を産す、日本人の市街營業者としては、廣島縣

人竹樹彦五郎の商店、熊本縣人田上直八の下宿屋あるのみ、市内に於ける日本人の家内的勞働者二十五名、他に農園勞働供給者三名あり。

「アルマ」ロスガトスの南四哩にして、人口六百、果樹栽培及び山林伐木を以て生業とす、此地また石腦油を産す、日本人の定住者數十人あり、此中多くは農園勞働者及び家内勞働者なり、日本人土地所有者三名の面積五百三十二英町、受負耕作者三名、面積四十五英町あり、土地所有者は左の如し。

- 秋山豊次郎 (福岡) 山林 百二十英町
- 前田新太郎 (廣島) 山林 四百英町
- 山田楠松 (和歌山) 果物 十二英町

「サンタクラ」サンノゼ市の西北四哩にして、兩市の間電車の便あり、此地は千七百七十七年一月十二日、キヤンリック教徒の發見せる都市にして、舊き寺院及びキヤンリック派の宗教大學あり、人口四千、市街清潔にして、附近に美麗なる邸宅多く、サンノゼ市との間、殆んど壯麗閑雅の庭園を見ざるなし、日本人の現金借地者九、借地七十英町、歩合耕作者九、作地百〇三英町、玉葱、苺、蔬菜等を栽培す、人夫供給者として熊本縣人下川直彦のキヤンズ、常に五六十八人の勞働者あり、他に一の商店あり、白人の好住地たるを以て、日本人發展地にわらず。

「マウンテンビュー」サンタクラ、の北東に接し、サンジョセ市より十一哩を隔つ、エスビー鐵道半島線の停車場を有し、人口三千五百、砂糖大根、果物、麥、牧草、葡萄酒等を産出す、日本人の此附近に在住するもの少からず、果樹園、野菜、花園等を營むもの多し、土地所有者四名、此面積五英町、現金借地者一名、借地十英町、歩合耕作者五名、作地九十二英町あり。

「アグニユー」アラメダに通ずる鐵道線路に添ひ、サンノゼ市の北五哩の所にあり、人口二百、林檎、梨、アスパラガス、苺等を産す、サンノゼ地方日本人發展地として、多くの農業者あり、苺、トマト、玉葱等を栽培する者多く、現金借地者十六名、借地二百六十三英町、歩合耕作者十三名、作地八十八英町半、就中山口縣人白石良介、神奈川縣人岩崎常三郎、山口縣人藤川音吉等の農園を大なるものと爲す。

「アルビン」サンノゼ市の東北八哩の所にあり、サンフランシスコ灣に近く、サンノゼに對する港を爲す、オークランドに達する狹軌鐵道を有し、野菜、苺等の産地にして、また果物、雜貨會社あるを以て、今より二十年前、日本人労働者の此地に入り來る者多く、現時の定住者三百人餘あり、殊に日本人の苺栽培者は、殆んど密集的部落を爲し、恰も南加州に於けるモノタ、トロピコの状態と同じく、農家の數六十五戸、殆んど苺栽培者にあらざるなし、現金借地者三十四人、借地二百九十二英町、歩合耕作者二十二名、作地百六十二英町あり、借地料は一英町貳拾弗を普通

とす、商店としては兵庫縣人船引三一の船引商店あり、サンジョセ市獨立佛敎會の附屬小學校あり、現在の兒童四十人にして未だ不就學者は、之れに三倍すと云へり、白人の居住者極めて少數なり。

「ミルピタス」アルビソの東に隣り、エスビー鐵道オークランド線路の停車場あり、アルビソと畧ぼ土地の状況を一にし、白人の居住者少く、また日本人の苺村たる觀を爲す、現金借地者十人、借地七十九英町、歩合耕作者七人、借地百十三英町あり。

「サンニベル」サンジョセ市を距る事六哩、サンタクラ、の北西にあり、日本人の定住者百人内外にして、櫻、林檎、桃等の果樹園あり、殊に櫻園は年數を経過し其價の高價なるもの多し、日本人にして、苺を作るものまた少ならず、現金借地者四人、借地八十英町、歩合耕作者四人、作地百六十英町あり、三重縣人今井三太郎、山梨縣人古屋椋吉、廣島縣人若野米太郎等其中の大きなものなり。

「ライト」サンタクローズ山中の一邑にしてアルマの南に接す、多くの材木を産す、日本人の土地所有者四人、地所百七十九英町、現金借地者二名、借地二十五英町あり、土地所有者左の如し。

- 米地 三郎 (和歌山) 一二五英町 果物
- 佐々木喜作 同 二〇英町 葡萄

松下平三郎 (和歌山)

松下岩市同

三四英町

葡萄

「サラトガ」郡内西端の部落にして、ロスガトスの北五哩、サンジョセの西十哩の所にあり、サ
ンタクラ、平原を一望に瞰下すべく、現金借地者一人、作地二英町、歩合耕作者二人、作地百二
十英町あり、野菜及び果物を栽培す、市内営業者としては、下宿屋一、洗濯業兼食料雜貨店一、
理髪店一あり。

サンタクラ、郡成業列傳

△岡本新吉 廣島縣安佐郡西原村の産にして、明治十一年三月生る、年甫めて十四、父岡本今三
郎之を携へて桑港に來り、彼をして同地の小學校に入學せしめ、父今三郎は所々の農園に入りて
勞働に従事す、新吉早くも自立獨行の精神を起し、勞働の餘暇小學校に通學して、遂に之を卒業
し、更に高等學校に入りて學業の進歩大に見るべきものあり、而も皇天何の無情ぞ、今三郎は
フレスノに於て激勞の餘、該地の熱病に罹り、天涯の客士一愛兒を遺して黃泉の客となりぬ、新
吉天を仰で哭し、深く人生の悲惨を嘗ひ、彼れ嘆じて曰く、父已に逝けり、兒何ぞ悠々として高
遠なる學術を修むるの違わらむやと、即ち高等學校を退きて、直に商業學校に轉じ、切々盤雪の
苦勞を積み、明治三十五年遂に優等の成績を以て之を卒業するに至れり、後ちオークランド富士

商會支店に入り勤務する事一年、偶々支配人中野百太郎の東部に去るに當り、爾後二年間其支
配人となり、田中某の其商店を譲り受くるに至り、尙ほ支配人として店內の事務を輔くる事二年
已にして明治三十九年二月、サンノゼ市に來り、大和商會を買受けて、名を、みかど商會と改め、
専ら白人に對する美術品の販賣を爲し、毎月屋賃八十弗を拂ひ、白人の婦人を備ひて、顧客の應
接を助けしむ、彼れ已に英語の素養あり、其志行の正廉なる、よく同胞の信頼を得、サンノゼ同
胞、親和會なるものを設立するや、其行事に推され、日本人會の設立せらるるや、選ばれて會計と
なり、サンタクラ、同胞會の起るや推されて其理事となり、以て現時に至れり、近年同胞の美術店
頗ぶる經營の困難なるに抱らす、みかど商會の事業は毫も其影響を蒙らず、年々の収入少から
ずといへり。

△白石良介 一名を馬來電三と稱す、山口縣阿武郡萩町の産にして、幼にして儻大志あり、四
方に遊學し久しく東京に在りて、長州出身先輩の間に出入し、慨然として爲す所あらむとす、
已にして時勢の趨向を看取し、海外の事情に精通するの必要なるを感するや、渡米して、一時心を
潜めて、語學の研究に従事し、後ち加州の農業界、男子奮闘の餘地あるを見るや、身を投じて農
界に入り、サンノゼ地方に至りて、果樹園の受負事業に従事し、同縣人中本仙助と共に、一時果
樹園の經營を爲したりしが、中本のサクラメント川下地方に去るや、白石は彼の共同事業たり

し、サンノゼ市の旅館蓬萊屋を引受け、傍らアグニユーの地七十五英町を現金借地し、之れに赤
 茄子を栽培して、盛に農作に従事す、蓬萊屋はサンノゼ市日本人旅館の最も人気あるものにして
 營業常に繁榮し、利益少からず、彼れ軀幹長大、最も奮闘の趣味を解し、屢々艱境に處して、益
 益前進の勇氣を有するもの、米國農園の事業固より穩健なる性質を有するものに非ざれども、彼
 れの氣概を以て其事業に當る、吾人は必ずしも他日の大成を疑はざるなり、彼れの地方同胞社會
 に於けるや、常に公共の事務に奔走し、人其熱心に感ぜざるなし、曾て日本人會の組織せらるゝ
 や、一度其會長に擧げられ、今尙此地に於ける代表的人物として重きを措かる。

△中村熊吉 和歌山縣日高郡稻原村の産にして、明治五年十一月生る、明治二十五年四月、ワイ
 クトリヤに上陸し、加州バカビルに來りて果樹園に勞働し、其れよりサクラメントに出で、更に
 サンノゼに來り、附近の農園に勞働する事四年、貯蓄また少なからず、乃ちサリナスに於て百英
 町の地を借り、砂糖大根の耕作を爲すに至れり、之れ此地方に於ける日本人借地耕作者の嚆矢と
 爲す、而も天運未だ至らず、此大根事業は給水不足の爲に、一大失敗に歸し、多年の貯蓄一朝に
 して煙散雲消し、身また半仙の餘裕なきに至れり、是に於て更にサンノゼ市に歸り、農園其他に
 勞働の供給を爲し、奮闘屈せず再び貯蓄を作り得て、兵庫縣人山本幾太郎と共に、ライトと云へる
 地に果物園の經營を始む、已にして明治三十四年一旦歸國して郷里に老母を見舞ひ、翌三十五年再

び渡米し、サンノゼに來り同志と共に、エヌ、ケー、エヌ會社と云へるを組織し、野菜園を經
 營する事三年、更に兒玉辨三郎等と紀農會社を組織して、同様の經營を爲す事また一年、明治四
 十二年始めて北米商會を起して、食料雜貨店の事業を創め、營業日に盛にして、サンジョセ日
 本人社會唯一の大商店たるに至れり。

△有田庄平 廣島縣佐伯郡石内村の産にして、慶應元年六月生る、明治二十三年布哇に渡航し、
 砂糖耕地に勞働する事數ヶ月、多少の貯蓄を作りて麵粉製造業を開き、業務盛大となり、忽ち
 して資産を有するに至り、乃ち明治二十六年一旦歸朝し、印刷業及び石炭商たりし事ありしも、
 事失敗に歸して、明治三十三年再び渡米し、ポートランド附近の鐵道に人夫を供給し、更にネバ
 ダ州に入りて此等の事業に従事したりしが、其後サンノゼ地方キユバチノに入りて果樹園の勞働
 に努む、園主クラウツ彼を愛し、時計及び自轉車の販賣を勸む、乃ち彼に示すに、地方卸賣店の
 名と其元價とを以てす、彼れ是に於て時計卸商店に就きて時計及び自轉車を求め、勞働の餘暇自
 轉車を驅て、附近のキャンプに至り、切に其販路の擴張を始め、大抵一日の哩程十五哩に達し、
 而かも其間一日も晝間の勞働を怠りたることあらず、已にしてクラウツの園地を去り、サンニバ
 ールに於て、チャールース、トールベルの果樹園に入りて勞働する事二ケ年、依然餘暇を以て時計
 の販賣に努む、後ち遂にグレースアベニューと云へる所に、小き店舗を設け、時計の傍ら自轉

車の販賣を始め、サンノゼに來りて有田商店を開くに至れり、彼れ篤志の人物を見るや、自己商業の秘訣を教へ自ら商品の仕入を爲して、彼等をして所々に賣捌店を開業せしむ、現に彼が爲めに其業を開きたるもの少からず。

△山川彌市 廣島縣安佐郡久地村の産にして、明治十四年生る、曾て廣島縣立中學校を卒業し明治二十九年渡米し、桑港に來りて白人の小學校に通學する事一年、爾後農園に勞働する事三年、後ちサリナス地方にて砂糖大根園を契約し、始め九十英町の地より千四百弗を利し、後ち三百英町にて貳千六百弗を得たり、明治三十三年サンノゼに來り、一時現金千弗にて百五十七英町の野菜作を爲したるが、大計畫の農業は往々危険なる事業たるを知るや、爾後白人ホームズと云へる者の農園に入り、四五十人の勞働者を供給して之を監督するに止まり、傍ら美以教會に入りて英語の研究を怠らず、明治四十年サンジョセ、マックローリンアベニューに十九英町の土地を六千五百弗にて買受け、之に家屋及び納屋を作り、井を掘り、揚水器械を設備するまで、凡そ貳千餘弗を投じ、胡桃、桃等の苗木植付費千參百七拾餘弗を支出し、現時其地の市街邸宅地として騰貴するや、壹萬弗の價を稱するに至れり。

△船引三二 兵庫縣佐用郡大廣村の産にして、明治十二年生る、幼にして丹波篠山の漢籍塾に學び、後ち明治三十年京都に遊びて同志社に入りたるが、間もなく外遊の志を生じ、渡米して桑

港に上陸し、サンタクラ、の農園に勞働する事三年、此間常に配下に數十人の勞働者を使用し、貯蓄を爲す事少からず、應に大に事業を經營せんとす、偶々病に罹り、一時危篤に瀕す、然れども、名醫の診療と看護の周到なりしが爲に、遂に藥効を奏して九死に一生を得たり、而かも彼れが數年の貯蓄は、此病の爲に、煙散霧消してまた幾弗を剩さず、彼れ是に於て天を仰で活噴する事久し、已にして豁然大悟して曰く、金錢は輕く、生命は重し、余數年の辛苦よく早死を拯ひ得たりとせば、千金また何かあらむと、乃ち再び舊主人の農園に入り奮闘する事暫時、已にして其附近アルピソの地、日本人の海園を經營する者多く、同胞の居住者年々其數を増加するを見明治三十七年五月、喜久間某と共同して、此地に食料雜貨店を開業し、後ち一年にして喜久間の共同を去るや、爾後獨立經營を爲して、年々其事業を盛大にし、現にサンタクラ、郡に於て、沖田商店、北米商會と共に地方の大商店と稱せらる、彼れ商業の傍ら此地の鐘詰會社と契約して、常に七八十人の勞働者を供給し、是より得る所の利益また少なからず。

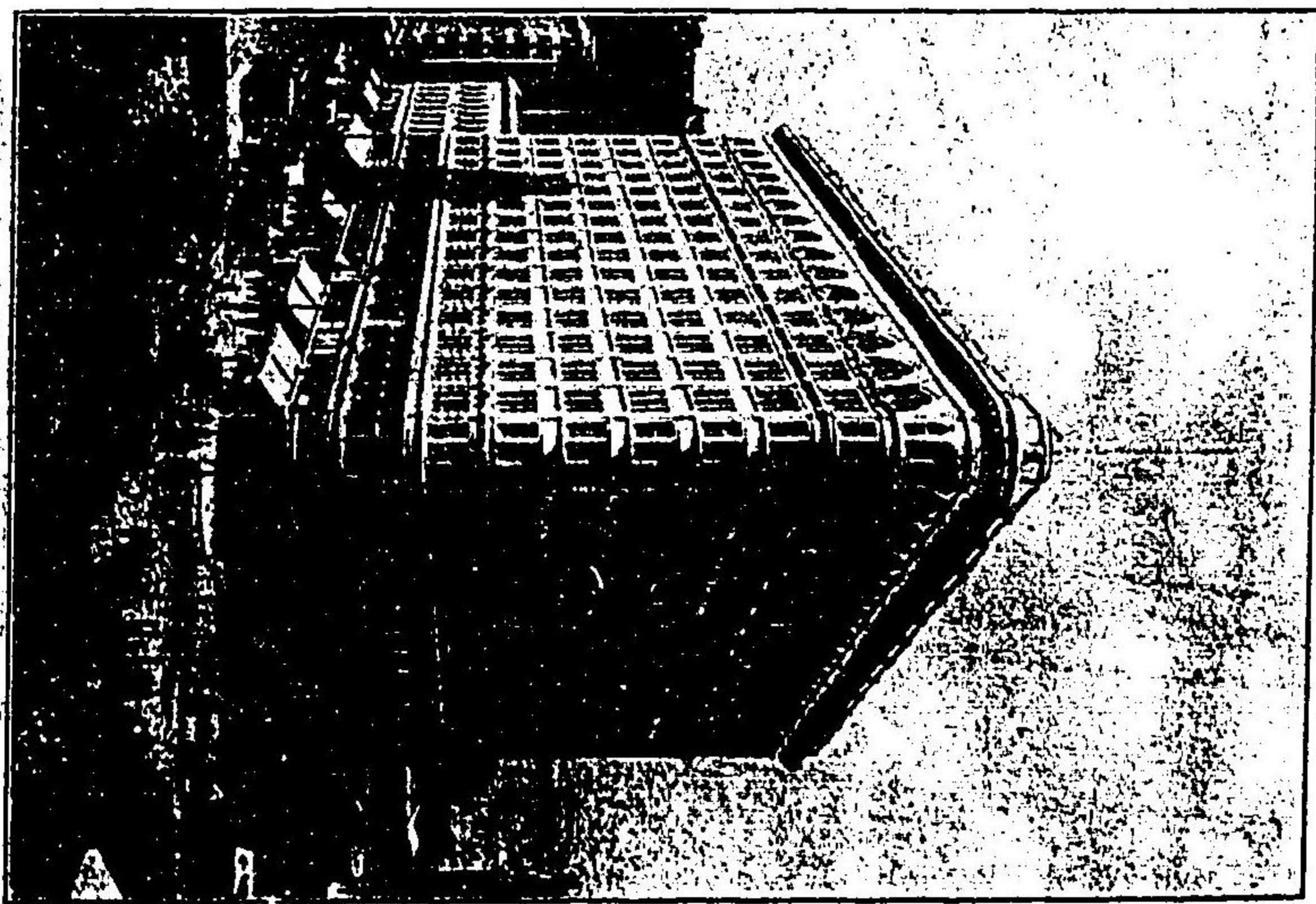
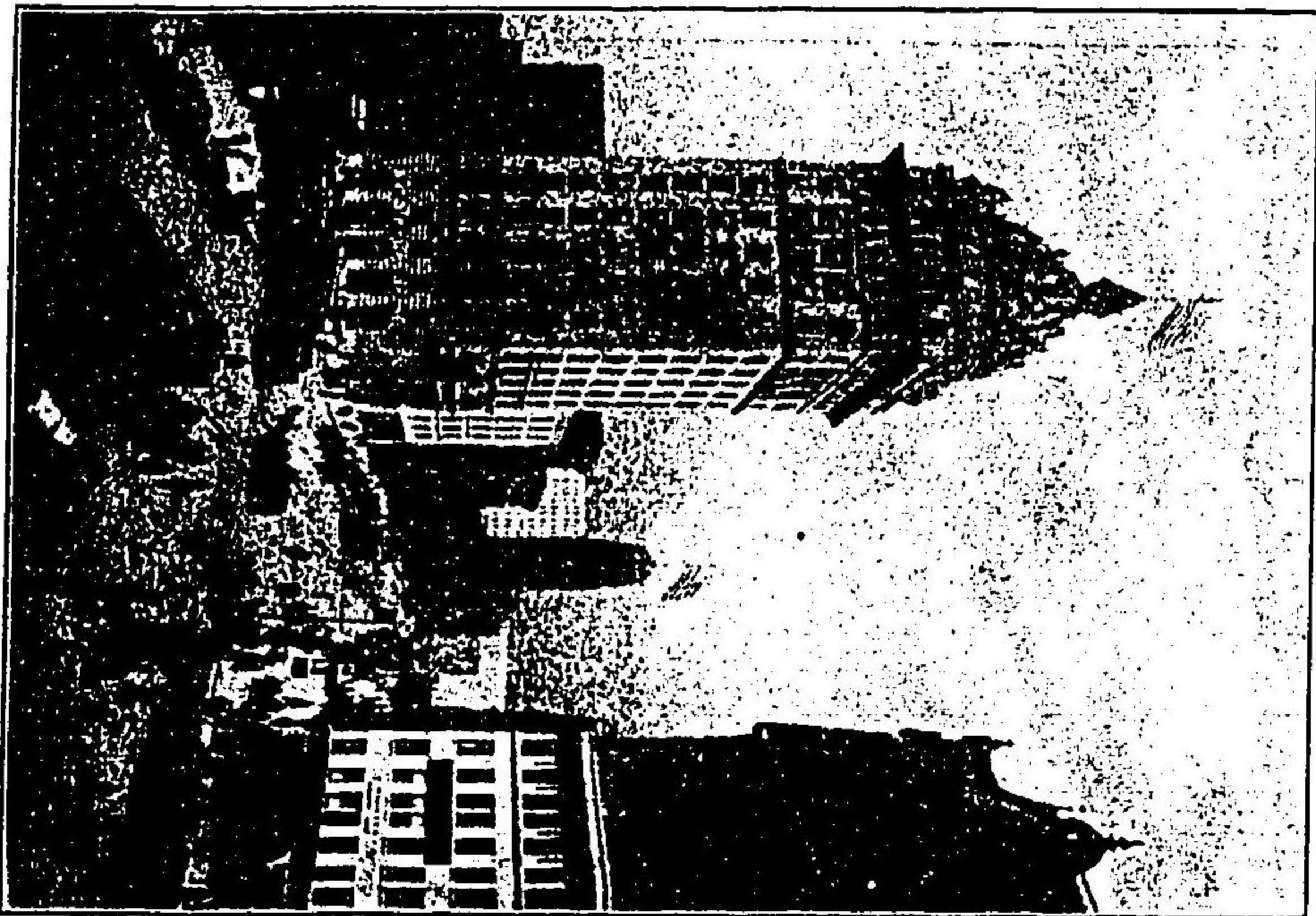
△沖田福一 廣島縣安藝郡仁保島村の産にして、慶應二年十月生る、曾て米穀及び海産物の取引に従事す、明治二十六年渡米し、アラメダ郡ブラゼントンのハツプス園に勞働する事二年、明治二十八年四月、アイダホ州に入り、シルバースチーの嶺山に勞働する事半年、去てワイオミング州に至り、鐵道に働く事一ケ年、後ち加州ワッソンの農園を經營して利益を得る事少からず

乃ち明治三十五年一日歸朝し、此年再び渡米して、サンタクラ、郡ギロイの地に入り、六百英町^の砂糖大根園を經營する事一ヶ年、失敗してキャンベルに至り、ハイツ果樹園の傍らに一の商店を開きて、食料及び雜貨を販賣するに至れり、之れ現時に於ける沖田商店の萌芽にして、爾後營業、年を逐ふて繁榮し、現時一ヶ年の賣上高四萬弗と稱す。

△中敷谷藏 廣島縣安藝郡大倉村の産にして、明治二年生る、明治二十九年渡米し、桑港其他に於て家内の勞働及び鐵道働さに従事する事六年、後ちワッソンプルに於て雜作を爲す事一ヶ年、更らにソープレーキの砂糖大根園九百五十英町を受負ひ、之を耕作する事三ヶ年、明治四十年サンオンの種子園三百十五英町を請負ひ四十二年サーベントに於て砂糖大根園七百英町を契約し、内自ら百英町を耕作し他は小作に委して之を耕作せしむ、斯くて明治四十三年更めて百三十英町の地を借り、之に蕎、スイートピー及び豆を作り、盛に農作に従事す、使用の馬七頭を有し、農具費六百弗を投せりと云ふ、ギロイに於ける農業家の大なるものとす。

△堀尾兄弟 長兄を清太郎、次を清次郎、三弟を筆太郎、四弟を覺太郎、末弟を數太郎と稱す、廣島縣安藝郡仁保島村の産にして、長兄清太郎は明治二十七年渡來し、次弟清次郎は明治三十年渡米す、清太郎は初めネバダ州の鐵道に働き、後ちサンタクラ、郡キャンベルの果樹園に入り、清次郎は初めロースゲトスに於て支那人の農園に働く事三年、後ち兄弟二人共にキャンベルに勞

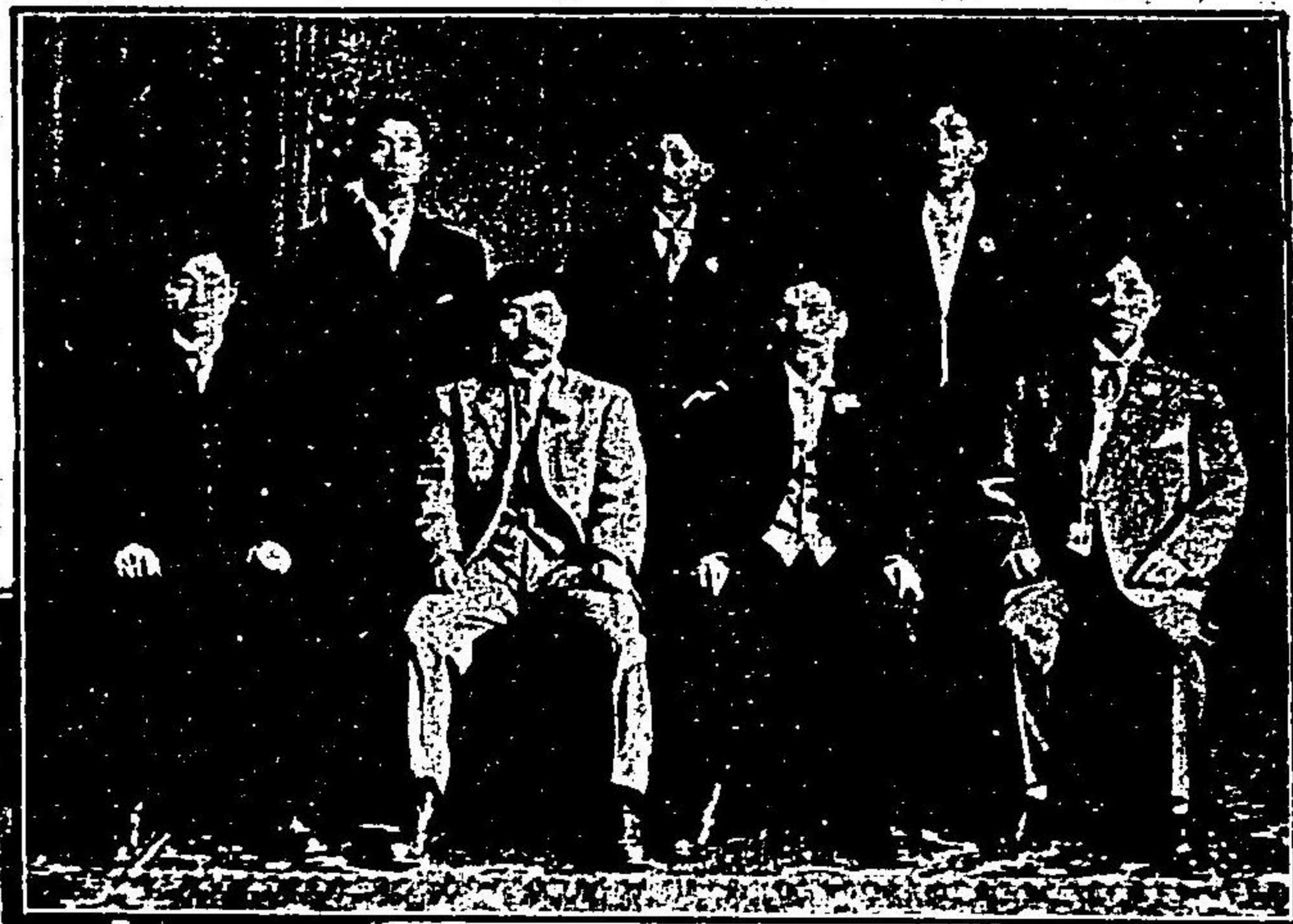
桑港市 コール及びハンボルトビルディングの邊よりマーケット街を見る



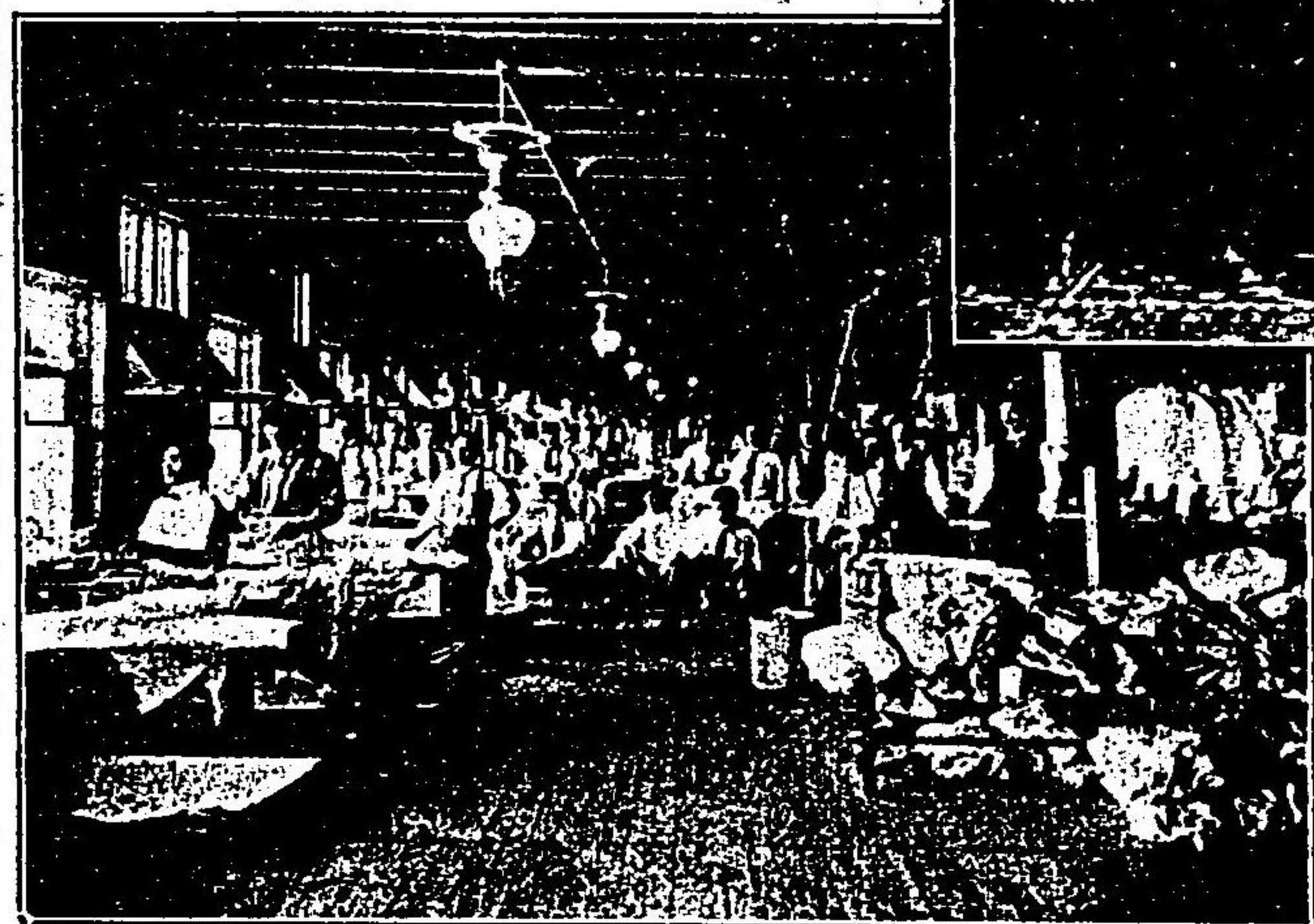
桑港市 大規模製糖の「ハムルト」の全容



桑港第一美術店 紀泉商會の内部



役員社洗濯トクーマ ドンラクーオ
 (りよ右て向列後)
 次萬 野小、耶太榮重中、耶十惣手滿
 (りよ右て向列前)
 耶太久飼犬、耶三恭野上、耶三鶴田岡、耶太幾宅三

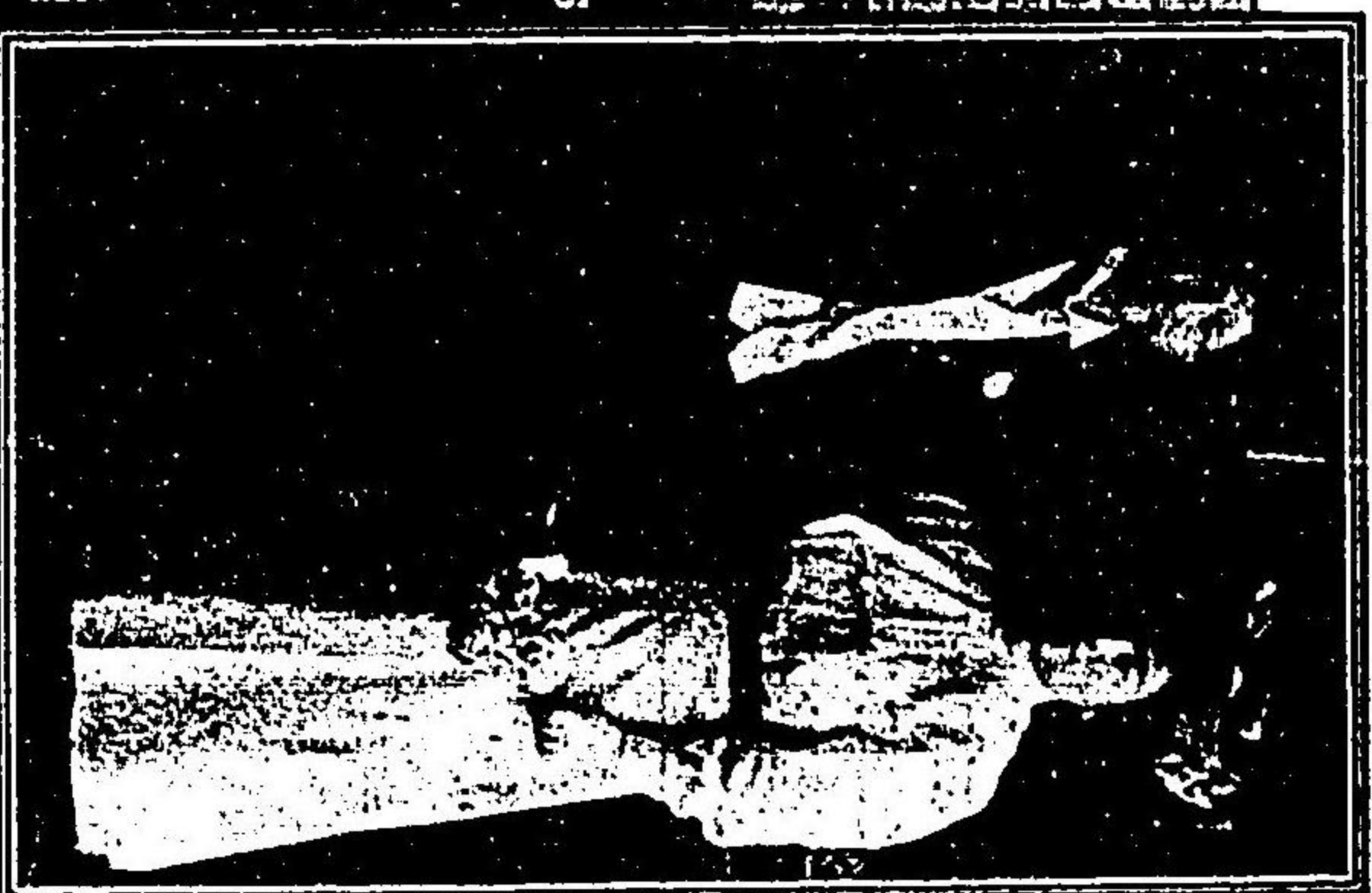
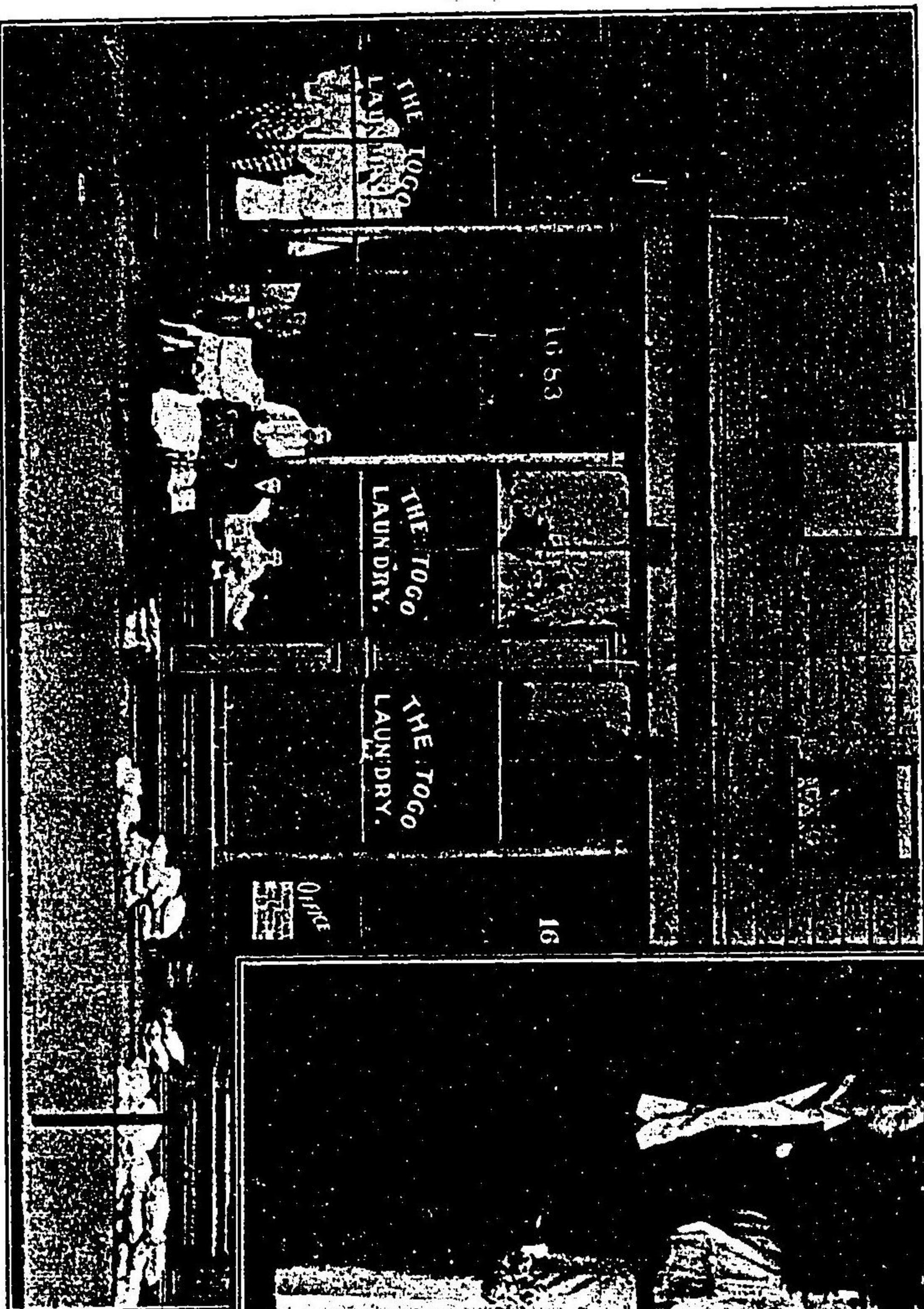


同社一の手工場内部

桑港サウスパーク街 防長旅館 館主 貞永延輔



所 濯 洗 郷 東 市 ト ラ ク ー オ



經營者 中重榮太郎夫人

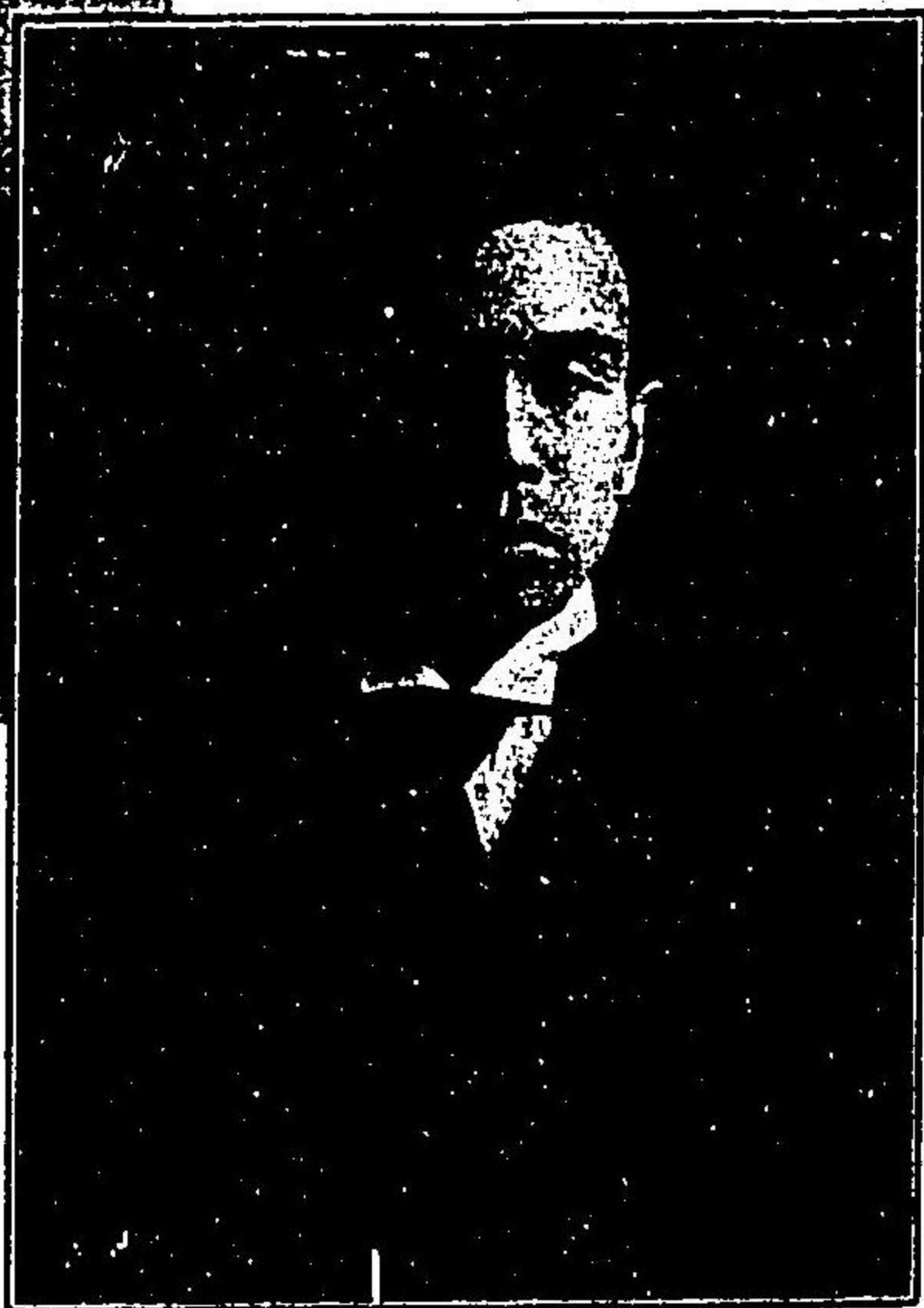
物人重要と社会産物加利米亞市コスシラフンサ



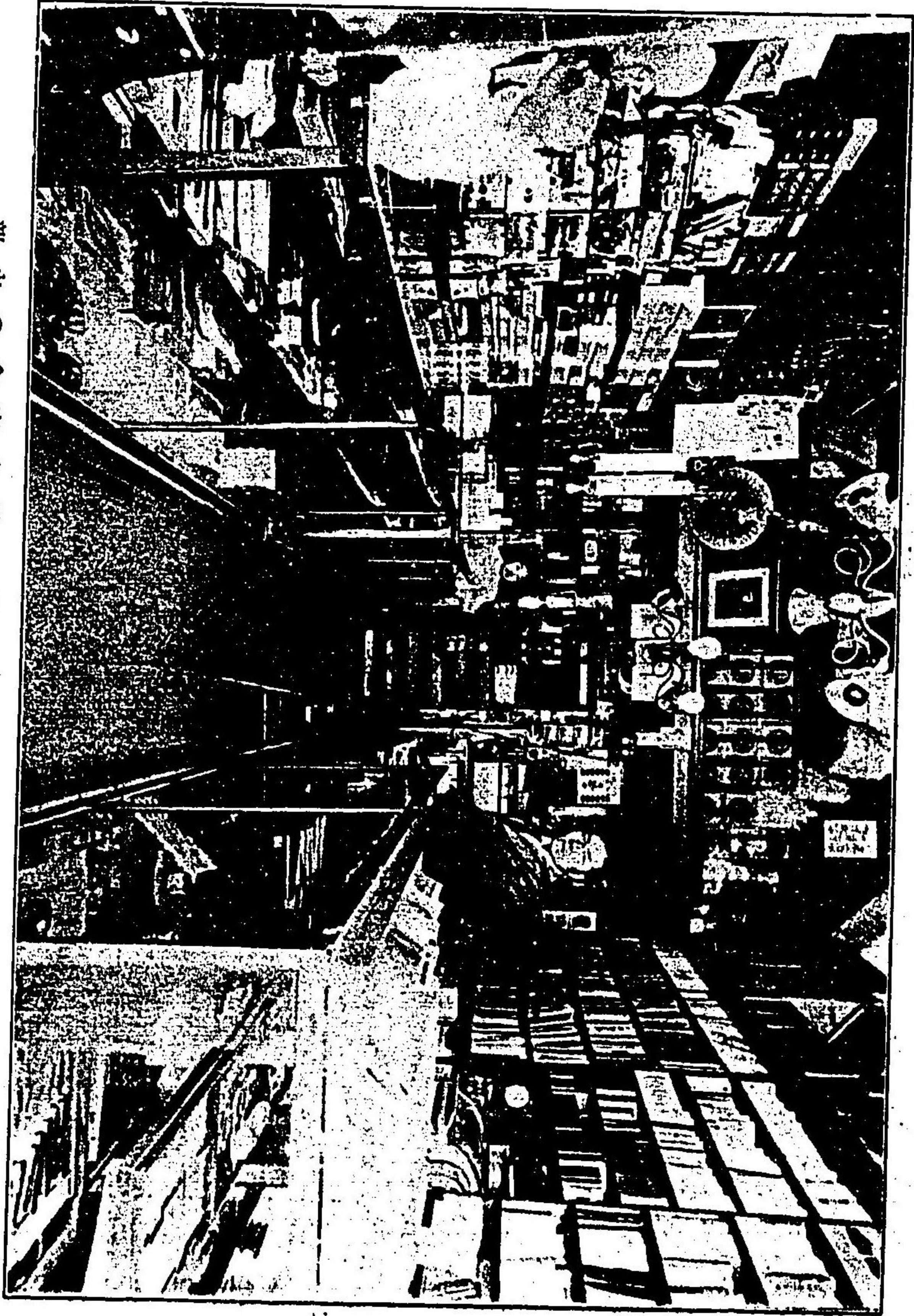
社長 藤岡孝一



取締役兼支配人 杉原軍造



取締役兼書記 平井貞治



部内の合商山杉街ソクタダス市港桑

役重社合式株送運 市港桑
耶太 嘉 成



耶三豊田海 市港桑

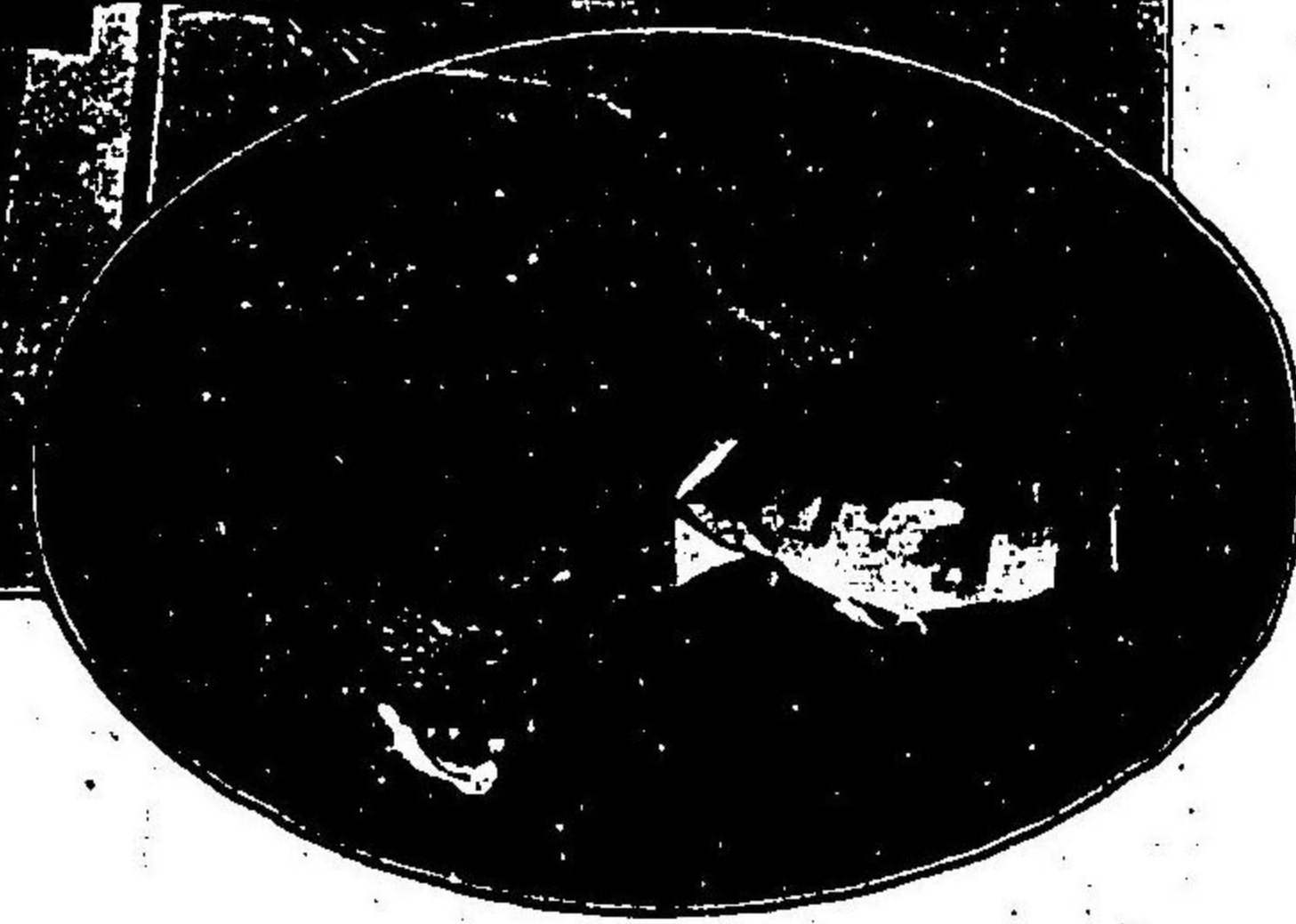
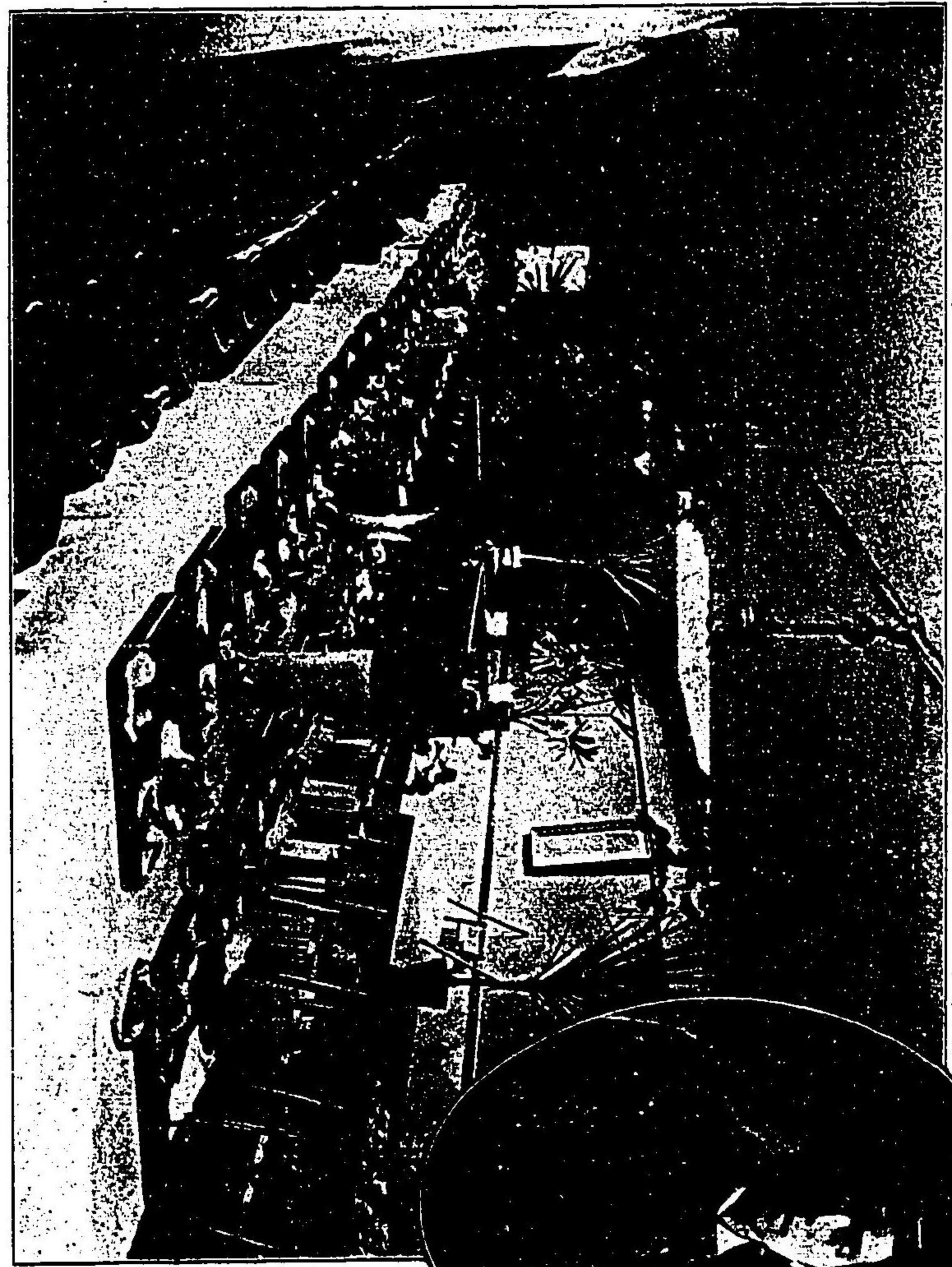


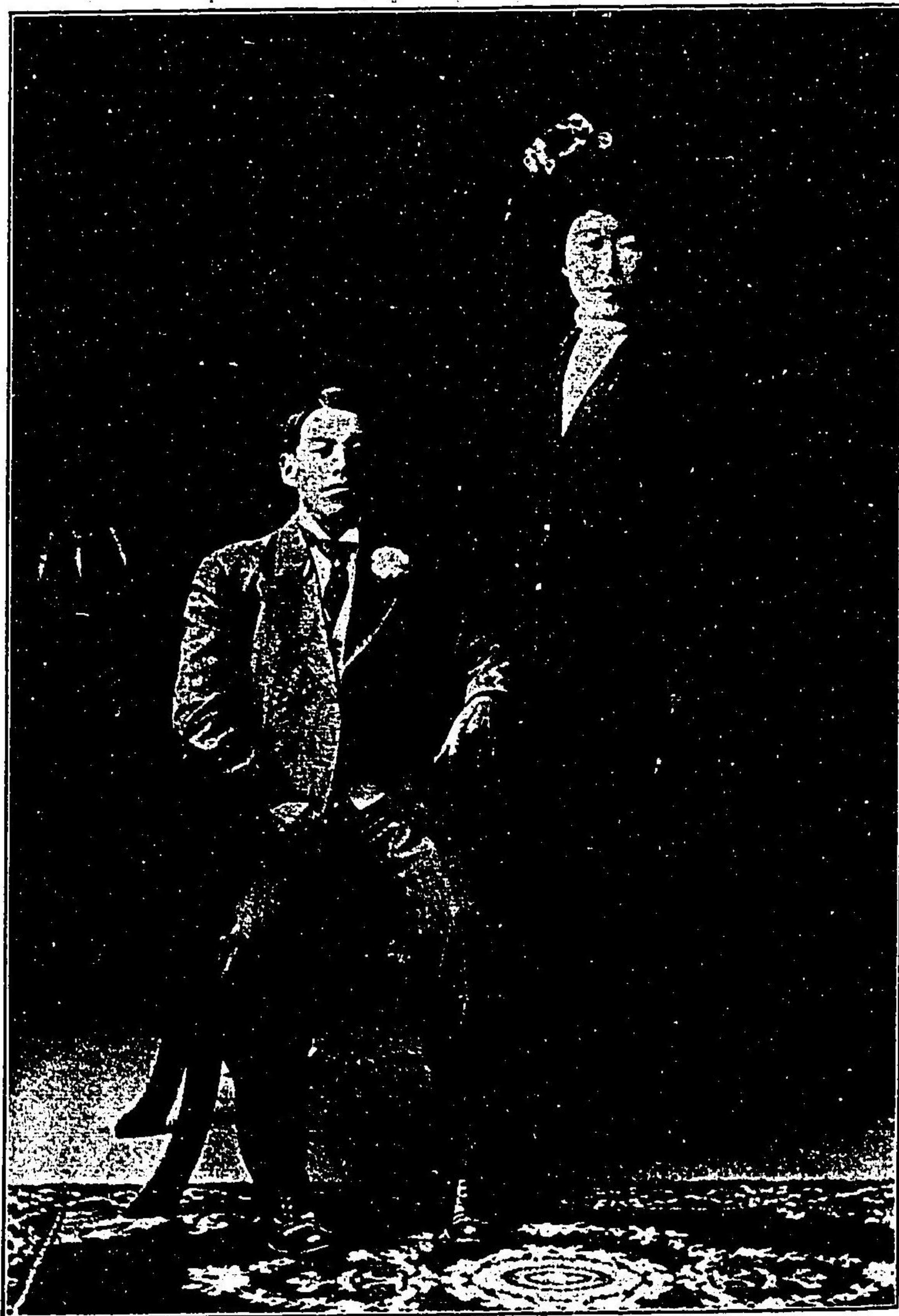
者功成の店桑野 市ドンラクーオ
壽 清 橋 高



役重社合式株送運 市港桑
婦、夫 助 之 金 田 吉

置吉野上 人主と室會宴の享まらる 店理料本口のー第ドンラクーオ

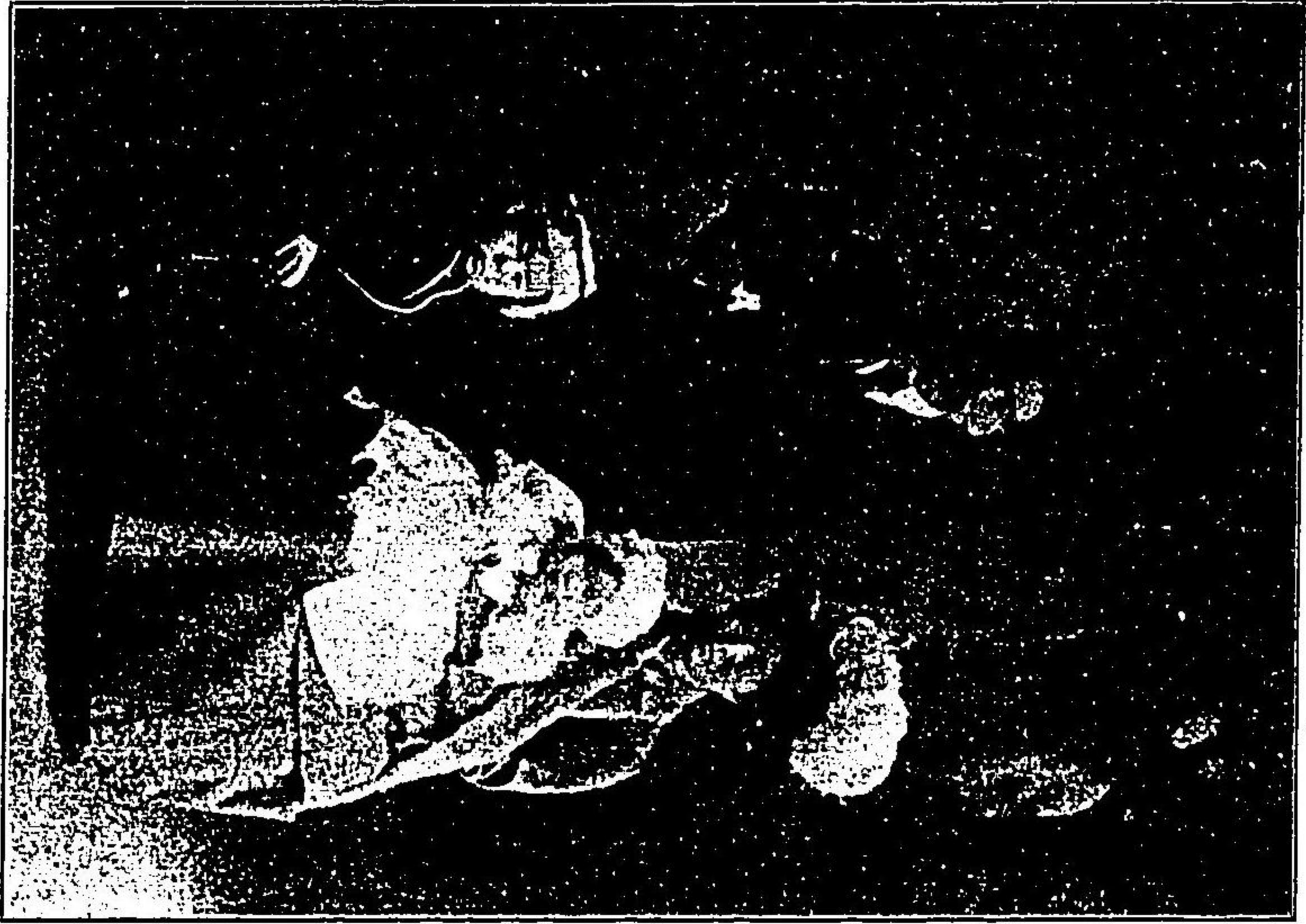




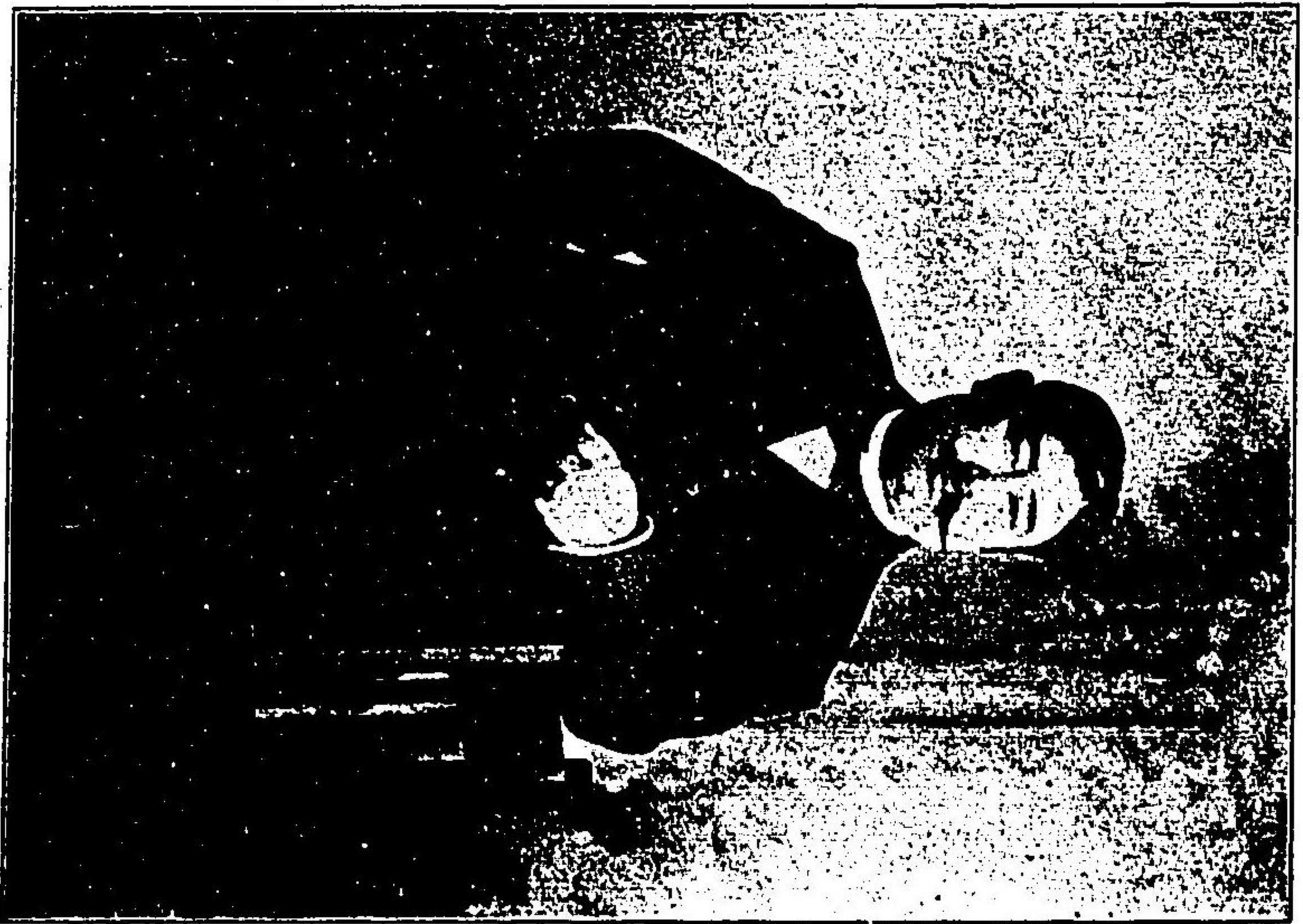
婦夫耶一理添池 アーコンシヨレーオ



吉 豊 南 者業農大のトーコデ郡ダメラア



治 逸 保 久 大 士 男 醫 科 齒 港 桑 在



長 會 副 會 人 本 日 米 在
耶 三 格 澤 庶 長 院 病 本 日 港 桑



近 附 ド ラ バ ル ア 郡 ダ メ ラ ア
婦 夫 藏 初 江 大 家 業 農

働するや、三弟筆太郎また來り加はり、兄弟三人一家に勞働を繼續する事七ヶ年、其貯蓄を以て明治四十年、參千七百五十拾弗を投じて、ブルーム園十英町を買ひ、翌四十一年、六千弗を以て牧草園二十三英町を買ひ、更に明治四十三年、六千弗を投じてブルーム園十四英町を買ひて現に之を經營し、他に一ヶ年千弗の借地料を拂ひて、また果樹園二十英町を經營せり、惜むらくは彼等の事業漸く盛大ならむとするに方り、長兄清太郎は明治四十三年三月病を以て死去す、現時園地の經營は、清次郎専ら之に當り、筆太郎は今尙ほ以前の主家に備はれて其勞働を繼續し、覺太郎及び數太郎は、ネバダ州の農園にありて奮闘す、清次郎は明治四十年妻女七重を迎へ、土地所有者として信用を有せり、近年果物の收穫意の如くならずと雖も、其基礎の鞏固なる事他に多く其比を見ず。

△隅田善之助 廣島縣佐伯郡己斐村の産にして、明治三十一年渡米し、直にサンタクラ、郡ローズゲトスに來り、一農園に勞働を繼續する事七ヶ年、更にキャンベルに轉じて勞働する事一年、其れよりサンジョセ附近高野某の契約地に入りて三年間の勞働を爲したるが、偶々高野の經營宜しきを得ず、彼の失敗して去るや、其後を承けて借地五十七英町を經營し、一ヶ年の借地料千〇參拾五弗を拂ひ、赤茄子、マシメロン、苺等を耕作す、サンジョセ附近の借地農家中また其事業の盛なるものに屬す。

△岩崎常二郎 東京府荏原郡品川町の産にして、萬延元年十一月生る、曾て請負事業を爲し、吳海軍鎮守府の土木工事の如き、品川馬車鐵道工事の如き、九州鐵道の一部、皆之れに關係せざるはなし、明治二十五年布哇に渡航し、二十九年歸朝して、暫く故國に留まり、後ち明治三十四年再び渡米して桑港に上陸し、ミルバレー其他の農園に勞働したるが、後ちサンタクラ、郡アグニユーに於て白人アール、モーペーの農園に入りて勞働する事二ヶ年、已にして三英町の地を借り更らに増して四十英町を爲して、自ら農園を經營して年々利を得る事少からず、已にして明治四十三年更に百八十英町を借地し、林檎、ブルーム、黒莓、麥、赤茄子等の耕作に従事せり、四十英町の借地料八百弗、百八十英町の借地料は貳千百弗にして、此地方借地農家の大なるものと稱す、現に馬八頭を所有し、果樹園より産する林檎の收穫の如き、其額年々少からず、資性温厚にして長者の風あり、地方同胸社會に重きを措かる。

△藤川音吉 山口縣玖珂郡柳井津の産にして、慶應二年生る、明治二十六年渡米し桑港に上陸して、直にサンタクラ、郡アルピンの地に來りて勞働する事半年、後ち數十英町の地にアスバラガス及び馬鈴薯の歩合作を爲して、之を經營する事十年、年々數百弗の利益を得、此間故國より妻を迎へ、事業の基礎漸く鞏固となりたるを以て、他に一英町拾七弗の借地料を拂ひ五十英町を借地し、之に馬鈴薯及びトマト、玉葱等を作り其收益少からず、明治四十三年に至り、五十英町

の地は妻をして其園地の經營に當らしめ、己れは他に一英町貳拾弗にて、サンニベルの地百二十英町を借り、支那人某と共同して之にトマトを植ゆ、二ヶ所の農園中、アルピンの農園年々一英町平均百弗の收入ありて、サンニベルのトマト園は、明治四十三年の收穫、優に貳千弗の利益を得るの見込みありと云へり、夫妻の間三男一女あり、アルピンの農業者中、同胞の先入者として、よく地方の農況に通ず、馬十頭を有し、アルピンの地に新築の家屋及厩を有す。

△福井常三郎 愛知縣額田郡岡崎町の産にして、明治十年生る、曾て臺灣に在りて商業に従事し後ち比律賓に渡航して商利を得たる事少からず、明治三十六年シャートルに上陸し、間もなく、サンタクラ、郡アルピンに來り、現金千百弗を以て百五十七英町の地を借り、自ら七十英町を作り、餘は之を他に貸付す、馬、家屋、農具等に投じたる資金參千弗に上り、明治四十二年の收穫約參千弗ありしと云へり、曾て農園其他の個人的勞働に従事したる事なし、現時事業に投じたるの資本は悉く之を故國より取れるものにして、是れ徒手空拳、其地盤を作りたるの同胞農業者中、其撰を異にすと云ふべし。

第六章 桑港及其附近の踏査

第一節 桑港の記

羅府及砂市の發達迅速なる事、世界の耳目を驚かすに足ると雖も、加州太平洋沿岸に於ける、商業の中心點にして、世界的巨港の資格を有するもの、之を桑港とせざるべからず、桑港は天然の要港にして、其地形の他に特出するのみならず、東は大陸横斷鐵道に依りて、直接東部の重要都市と連絡し、西は五千七百哩の航路に依りて、日本横濱との氣脈を通じ、南に南米の諸港あり、北に英領加奈陀及びアラスカへの航路を有す、港灣の規模雄大にして、丘陵市街を遶り、風景の佳美なる事、之を伊太利半島のネーブルス港に匹敵すと稱す。

加州の二大平原各一の巨流を有す、サクラメント平原のものをサクラメント河と稱し、サンオーキン平原のものをサンオーキン河と稱す、二水共にストスシ灣に入りベニシヤの海峽を通過してサンバプロ灣に出で、更に一大灣を爲す、之れ乃ちサンフランシスコ灣にして、是等海岸線の全長三百哩、其水面實に千六百平方哩あり、灣内水靜かにして、大艦巨船、自在に往來し、水運の便世界多く其比を見ず、港内の水は、金門海峽に依りて外洋に通じ、海峽の長さ三哩半、兩岸水を狭んで、懸崖絶壁を爲し、眞に無双の天險を爲す、海門の幅凡そ一哩、海水の深さ百呎乃至三百呎にして、船舶の交通に何等の障礙を見ず、此海灣と外洋の間、南より北に突出して、金門海峽に迫る所、是れ桑港の、世界的巨港たるの位置を占有する所にして、東は海灣を隔て、オークランド、アラメダ、バークレーの市街と相對し、其地形外洋を背にし、海灣を前にし、丘陵に添ひ

て、煉瓦の家屋、層々密立し、人烟濛々、天日爲めに暗からんとし、海陸の光景、眞に雄大殷盛を極む。

市街の最も熱鬧せるは、マーケット街にして、其街端にフェリーデポトあり、渡海者の待合場にして、アラメダ、オークランド、バークレー、テブロン、サウサリトへの渡海船、此所に輻輳し、晝夜幾萬の旅客を吞吐す、是れマーケット街の盛なる所以にして、多くの街路、此市街を樞軸として左右に分岐し、巍々たる層樓高厦、相並びて大空を凌ぎ、其高さもの十五階より十六階に達するものあり、此街路より分岐せる、電氣鐵道の數また頗る多く、電車の往來、殆んど絶ゆる事なく、轟々として軋り、受々として響くもの、皆鐵輪、鋼蹄の音にあらざるなく、其繁激の光景、寧ろ凄壯の觀を呈す、フェリービルディングは、世界的大建築物の一にして、中央に屹立せる高塔二百四十五呎、階上の床上、箱工石を舖き、蠟石の壁板を蔽ひ、室内の鮮麗眼を驚すべく、傍に廣き、礦物及び農産物の陳列場を設く、加州産の農産及び果物の見本を蒐集し、特に礦物標本の數多にして、珍奇の物に富める事驚くべきものあり、マーケット街に次で、般賑なるをマイルモア街と爲す、夜中燈火の多き事此街路に及ぶものならず、街上の電氣燈、燦々として恰も不夜城の如く、往來また頻繁なり、マーケット街、コールビルディングの北、五六町にして、支那人街あり、此の地の支那人は土地及び家屋を所有し、恰然一の支那人社會を現出し、

就中大厦高樓、軒を並べ、其繁盛想像の外にあり、仰げば高閣中空に聳へ、彩櫓高く咲み、層樓
 巍々として、店舗の美なるもの少からず、彼等は廣袖寛袴、豚尾の頭髪を垂れ、杖長の烟管
 を口にし、婦女の如き、縁髪を環し、脂粉を粧ひ、彩華の衣を着けて、自ら中華の美を誇るに似
 たり、之れ桑港市街中の奇觀にして、東部の米人、此街區を見物せざるはなく、其繁榮遠く日本
 人街に優れり、彼等の加州に入るや、其年月已に久しく、加州に金銀の發見せられし當時、彼等
 の或者は、已に鑛山の入夫として勞働し、爾後農園または市街の營業に従事して、其富力を貯蓄
 する事一日に非ず、桑港支那人街の勢力半として、拔くべからざるものある、また宜なりと云ふ
 べし、彼等の暗黒社會に、ハイバイダーと稱する一種の殺人黨あり、今より二百五十年前、支那
 本國に於ける愛國者の間に組織せられたる、秘密結社の類なりしが、彼等の本國を發する前、此
 志士の團體は已に墮落し、一定の金銀を受けて他の怨仇を殺害する事を擔任し、現に恐るべき罪
 惡の潜伏所たり、其附近は、白人の酒舖及び醜窟の散在せる所にして、殊にカーネー、パンフイ
 ック街の如きは、酒舖相並ぶ事數十戸、其内に舞踏場を設け、賣淫婦をして、酒を強ゆるを以て
 營業とす、其盛なる事、宛然劇場の如く、時として卑猥なる舞踏を爲して、劣情の挑發に努むる
 ものを見る、米國の文明何ぞ羨むに足らむや、否恐るべき道德界の病根、已に各地に傳播しつゝ、
 あるものと云はざるべからず。

上町方面はレンシデンスタウンにして、市内居住者の邸宅相並び、數多の街區を爲す、其間大小の
 公園諸所に點在し、市内居住者の慰藉たる事少からず、ゴールデンゲートパークは、スタンヤン
 街以西、其長さ殆んど全市の半に達し、幅八街區に亘り、北はフルトン街を以て限り、南はエツ
 チ街に添ひ、以て太平洋の海濱に盡く、其面積實に一千英町、之を庭園と云はんよりも、寧ろ丘
 陵起伏せる原野と山林の連絡せるものと云ふを得べし、園内の諸所に、幾多の銅像を立つ、老樹
 陰森たる所、滿地の青草澤々として、朝露陽光に玉を綴るの時、山禽林中に聲滑かなるあり、
 夕陽太平洋の彼方に落れば、巨大なる風車の邊、彩雲空に横はりて、園内の池水色を變ずるあり、
 小兒遊戯場の設備周到なるもあり、一大草野を限り、鹿及び水牛を放てるもあり、動物園には
 猛獸奇畜あり、金屬網を張りて、幾千の鳥類を放てるあり、丘陵一段の高地、水を湛へて池を爲
 り、島岐に樹木花卉を栽へ、美禽其内に棲息し、奇橋を池に架し、片舟を之に浮ぶ、池邊の丘屋
 丹色燃ゆるが如く、山水の配置巧妙を極む、堤上より遙に外洋の波を望むを得べし、時には坦道
 帶の如き所、傍らの林中を穿てば、自然の沼池鏡の如く、樹林之を透りて閑靜の別天地を爲し、
 眞菰の霜に枯れたる所、野鴨水面に浮べるあり、水艸之に生じ、野趣愛すべく、幽境訪ふ者をし
 て、また蕙裳裡の吾を忘れしむ、是に至りて誰か、此公園の大なるに驚かざらむや、園内最も眼
 を喜ばす所は、音樂堂のあり附近にして、堂は半圓形の階段を左右にして其上に建てられ、

風尚高雅、歐洲古文明の餘澤を表彰せり、埃及金字塔形の建築物、日本風の邸宅、皆其附近にあり、金字塔形の建築物には、内部に古今内外の繪畫彫刻其他の美術品を陳列し、日本風の邸宅は、周圍に杉の板塀を以てし、母屋を二階造として、裏に土藏を作り、庭園の中に泉水あり、茶亭あり、茶亭に釜を備へ、日本婦人をして茶を配みて煎餅を賣らしむるあり、門は、古き山門の建築材料を用ひたれば、古色蒼然、一種の重莊と雅美とを備へたるもの、如し、庭中の松樹、已に幾十年を経過し、滿庭の花井、鬱々として繁茂し、日本種の花樹珍草之を網羅せざるなく、五葉松、吉野櫻、高尾楓、南天、竹、菊、各種の蘭族に至るまで、殆んど之を見ざるなし、茶亭に入り、一杯の茗茶を啜りて靜かに周圍の幽境を觀れば、天涯の孤客をして萬事を閑却せしむ、若しそれ歩いてゴールデンゲート公園内を見んと欲すれば、よく三日を費すに足らむ。

桑港の名勝クリフハウスは、金門公園の西端、四十九街の北ストロー高地の崖角にあり、西は外洋に面し、北は金門海峡に臨む、門内に樹木多く、青苔雨を印し、鳥糞露を拂はず、蒼然たる古色鬼氣人を襲はむとするが如し、園内の建築物、多くは震災の際に破壊せられて、未だ修理を爲さず、廻廊より洋上の眺望を恣にする事を得べし、其北にロープスの岬端あり、直ちに海門の崖上に通じ、崖邊に電車線路を通ず、眼を東方に放てば、サウサリットの崖腰、岬々として海峡を壓し、青翼の斜に横はるもの、之れチブロン岬端なるべく、水色空に交はるものは、サン

パプロ灣の水、スースン灣と相連るの邊なるべし、若し夫れ雨餘の青色拭ふが如く、對岸の郊野煙霞の間に微茫として漂渺たるの時、日光海水に映じて、一段の莊嚴美を現出し、海門の碧潮、流る、事三哩半、波に洗はる、の嶮崖、岩石皆碧色を帯び、兩崖の近き所、幅二哩に過ぎず、眼を脚下に注げば、崖脚の水に接する所、一帶の白線、青崖碧水の間に横はるあり、崖頭水面より高さ事數十丈、波聲耳に達せず、只靜かに白波の長線、崖壁を打ちて水沫の飛散するあるのみ、吾人は此海峡を見て始めて桑港の偉大なるを知るべく、沿岸の光景、凡庸ならざるを見るべし。

第二節 桑港發達史

西曆千七百六十九年十一月七日、フランシス派の教徒、クレスピ、ポートルの徒、寺院の建設地を探検せんが爲めに、モントレイ灣の附近に來り、風浪の爲に破船したるは、舊史の録する所にして、此日は今尚ほ加州の記念日たり、彼等は其際、陸地の彼方に水面の光れるを認めたりと云へり、之れ桑港灣の水、初めて彼等の眼中に映じたるものなるべし、其後千七百七十五年八月、副船長アヤラと云へる者、ゴールデンゲートを通過して灣内に入り、海底の測量を爲したるより、始めて世に其地形の樞要なる事を知らるゝに至れり、斯くて千七百七十六年九月、天主教徒ベニタ、カボン及びフランシスコ、パロンなる者、ゴールデンゲートの附近に殖民地を創め其年

十月、一の寺院を建つ、現時ミッシヨンと稱せらる、地は、乃ち其古跡なりと云へり、當時此附近に、海獺、鹿、羚羊、熊其他の鳥獸多く、之が爲獵夫の入り來れるもの少からず、斯くして獸革、毛皮類は、此地最初の輸出物たりしが、市街は漸次に發達して、千八百三十六年七月四日始めて煉瓦家屋の建築せられたるあり、已にして千八百四十一年以來、グレートホドソン、ペー、カンパニーは五年間に於て二百の小家屋を建築し、以て居住者に便を與へたる事あり、然れども此等の事業は、未だ大都會の發達に著しき影響を與へざりしも、千八百四十八年一月十九日、ゼームス、ダブリユー、マーシヤルなる者、サクラメントの北東四十五哩、コロマと云へる所に一大金鑛を發見して、一時に世界の耳目を聳動し、天然の要港たるべき桑港は、此偉大なる發見に依て、一大飛躍を爲すに至れり、當時未だ大陸横斷鐵道の、東部各州との連絡を通ずるなく、此等重要都市と、加州との連絡は、海岸の航路を有する桑港に依らざるべからず、左れば此金鑛の發見が、桑港の發達を資けたるは偶然にわらずして、千八百四十九年僅に二千の人口を有したりし此地は、翌年一月、一萬の人口を有するに至りたるなり、舊記の載する所に依れば、千八百四十九年は、加州が一時に最も多數の人口を増加せし年にして、此年四月より十二月迄の間、五百四十九艘の帆船に依て、桑港に到着せるもの無慮三萬五千人にして、海路の外、牛車及び馬車にて或は土壘の製鑛に遣ひ、或はロッキーマウンテンの雪に翹みて、加州に到着したる者殆んど四萬二

千人なりしと云へり、彼等は皆な黄金熱に誘はれて加州に來り、砂金の採掘を目的としたるものにして、此金鑛は發見の當時は、一ヶ月間參拾萬弗の黄金を産出し、翌年には百五拾萬弗となり、其翌年は參百萬弗となり、五十一年の積出量四千六百五拾九萬九千〇四拾四弗に達したりと云へり、鑛山の盛なるに従ひ、桑港の發達また驚くべく千八百五十二年一月の人口調査にては、市内已に三萬六千五百五十一の人口を有する事を示し、此年十二月の調査にては、四萬二千に増加したる事を證したり、當時賭博の盛なりし事想像の外にして、市民は殆んど賭博を以て生命としたるが如く、其頃一軒の賭博酒屋は、一ヶ年の借屋料六萬弗を拂ひ、他の一軒は四萬弗を拂ひたりと云へり、然れども榮枯盛衰は人事の免れざる所にして、金鑛の産出額漸次減少すると共に、桑港の發達また種々の波瀾を受け、人口の増加率必ずしも一定せざりしが、加州農園の開拓せらるゝと共に、大陸横斷鐵道の開通及び東洋航路の擴張等主として其發達を助け、以て儼然たる一大都市を形成するに至りたるなり、千九百二年此市の人口三十五萬に上り、此年の輸入四千六百萬弗にして、爾後年々凡そ壹萬弗の増加率を有し、外國との貿易額參千貳百七拾萬弗なりしなり、千九百五年此地大震災の起りたる以前、市内に百二十の寺院、九個の公有圖書館、三百四十二の俱樂部、七十五の公立小學校及び専門學校ありたりと云へり、大震災は千九百五年(我明治二十九年)四月十八日の拂曉にして、火災之に伴ふて起り、水道の地震の爲に破壊せられたるを以て、市民

は防火の便宜を失ひ、火災は早くも第五街及びビゼー街の附近に起り、猛火の意を逞ふすること三日、さしにも堂々たりし、商業街區の建築物、悉く慘憺たる焦土となり、港内に面する重要市街の過半は全く烏有に歸し、東は海岸の一帶より、南はタウンセント街を限り、西はパンネス街及びドグラス街に至りて、漸く鎮火するに至れり、此際市民の數、一時殆んど其半を減じたるも、爾後急激なる速度を以て、再び景氣を恢復し、家屋の新築せらるゝもの多く、千九百九年末の人口、五十二萬五千人にして尙年々増加の傾向あり。

市最近の統計調査に依れば桑港市街の價格は、貳億六千〇六拾五萬七千八百弗、今後開發さるべき土地の價格六千六百八拾壹萬六千貳百〇壹弗、個人所有財產額壹億〇〇參拾六萬千六百〇貳弗にして、總計の價格四億貳千七百八拾參萬四千六百〇八弗なり、此外鐵道及び電車評定價格千八百拾九萬貳千四百六拾弗、電氣力の評定價格六百四拾萬參千九百七拾七弗なり、今過去十二年間に於ける、桑港輸出入表及び千八百九十四年以後の手形交換高を表示すれば左の如し。

過去十二年間桑港の輸出入 (外國及び太西洋諸洲に對す)

千八百九十七年	輸出	四六〇三五一六四	輸入	三九八一九五九一
千八百九十八年	輸出	三七九二八九四〇	輸入	三七一五五三六二

千八百九十九年	輸出	三七六一八三〇〇	輸入	四四五七五二七〇
千九百年	輸出	四一六五一一九三	輸入	四一〇六四八一
千九百一年	輸出	四〇〇八四五〇〇	輸入	三六二三五六九〇
千九百二年	輸出	四五二四〇九一八	輸入	三五三六二九四一
千九百三年	輸出	五一〇九五八〇五	輸入	三六五一七八九五
千九百四年	輸出	五一七八七三九九	輸入	四二五七〇四七七
千九百五年	輸出	六七二七四九八〇	輸入	四四三一〇八〇〇
千九百六年	輸出	五〇四一六八七七	輸入	四七八二五八一〇
千九百七年	輸出	三〇四〇三六五六	輸入	五五一〇四二二三
千九百八年	輸出	三一〇六五三四五	輸入	四五二二三九九〇
千九百九年	輸出	五五六九五四三六	輸入	五一四六九〇二三

手形交換高

千八百九十四年	六五六、一六六、六六〇、二六
千八百九十五年	六八三、八八八、七一八、三五
千八百九十六年	六八四、九九一、一〇〇、〇〇

千八百九十七年	七四一、七五五、四八八、四〇
千八百九十八年	八二二、二一三、一五九、四三
千八百九十九年	九五五、五五二、四五七、五八
千九百年	一、〇二三、三九六、〇一七、九六
千九百一年	一、一六五、六〇一、四六八、三四
千九百二年	一、三二四、九二七、二〇四、三四
千九百三年	一、五二二、三二四、二七八、〇六
千九百四年	一、五二八、七九四、五六四、七五
千九百五年	一、八二五、七〇四、一一二、八〇
千九百六年	一、九九二、三〇一、三七〇、七五
千九百七年	二、一九九、三九八、三一八、九四
千九百八年	一、七一八、〇七四、〇一七、二〇

第三節 桑港日本人社會

(一) 發達の歴史と一般の現状

桑港は米國西部の大支關なると共に、在米日本人社會が現時の狀態を爲すに至りたる、重要な足場となりたるものなり、横濱より米國に直航せるもの、布哇より轉航せるものが、一たび此支關を通過せざるものなきのみならず、英領加奈陀、若しくは砂市、タコマ、ポートランドに上陸せるものにして、南進加州に入り來るもの、必ず一度は桑港に其足を留めざるはなく、只だ此中に於て、最初より其目的地を期したるものは、僅少の時日を以て此地を去り、其目的地の初めより他の地點に非ざるものは、暫く此地に於て勞働に従事し、漸次其目的を定めて、四方に散去するを常とす、此中に於て、市内の勞働に適従し、若しくは此樞要の地を利用して、其事業を爲さんとする者、年月を逐ふて増加するや、遂に今日の桑港日本人社會を形成するに至りたるは、争ふべからざる事實なりとす。

乃ち斯の如き關係を有する桑港は、一面より云へば、應がて加州及び米國中部各州に於ける、日本人社會の源流にして、枝葉の繁茂したる樹木の根帯たりしものなりとす、從て此社會の歴史は、在米日本人社會の發達と至大の關係を有し、在米日本人發達史の重要部分を爲すものと云はざるべからず、今暫く此地日本人社會發達の沿革を記せん。

我が明治維新の前、徳川幕府の備ひ居たる外國人に、蘭人スネールなるものありしが、彼れの仕へたる徳川幕府は、薩長勤王の士に依て顛覆せられ、日本國內の形勢一變して、また其手腕を揮

ふの餘地なきを嘆じ居たる折柄、米國太平洋沿岸、支那人勞働者の需用多きを聞き、密かに謂へらく、日本人勞働者を率ひて彼地に至らば、利する所必ず少なからざるべしと、乃ち甘言を好餌として、明治二年二月及び十月の二回に於て、四十人内外の日本人勞働者を誘致し、之れを加州に連れ來りたる事あり、然れども彼れの勞働者を供給せんとしたる、コールドヒールと云へる金坑は、事業の失敗に歸したるが爲に、我勞働者を供給すべき目的を失ひ、スネールは其儘逃亡して、四十人の日本人勞働者は、牧者を曳ひたる群羊の如く、不知案内の客土、茫然として歸する所を知らず、彼等は遂に四方に散去して、任意各所に勞働を求むるに至りたるが、是れ米國に於ける日本人勞働者が、自己の運命を開拓せる發端にして、此年日本政府は桑港に領事館を置き、米人ジョージ、ブルークスを名譽領事に、チャーレス、ダーンを領事代理に、日本人高木三郎を書記生に任じ、桑港モンガモリー街二百三十四番に、館舎を開設したり、越へて明治四年、岩倉具視大使として入米の途次、桑港に留る事數日、一行は衣冠束帶、笏を持し、大刀を佩き、長纓垂れて地に至り、奇觀滿市の米人を驚かしたりといへり、當時大使の通達に接し、來集せる日本人三十七名にして、不參者僅かに三四名に過ぎざりしといふ、明治六年に至り日本政府は、名譽領事チャーレス、ブルークスの任を解き、書記生高木三郎を以て新に領事に任命し、此年十二月領事館をマーケット街に移す、翌七年該領事の外務省に報告せる所に依れば、當時加州在留日本

人の數男六十八、女八、幼兒四人なりしといふ、明治五六年頃に於ける日本人の勞働は、多く料理人にして、一ヶ月の給料拾弗内外に過ぎず、此頃カーネー街二十三番齒科醫デニスの内、中啓藏といへる者あり、友人の來り集るもの多く、中に美山貫一なるものあり、雜誌の時間を割きて、毎夜一時間宛聖書の研究を爲さん事を發議したるが、一同之に賛成して、茲に一種の教會を形成するに至れり、之れ後に福音會と稱せるものにして、此會に於て新來日本人の語學を研究し、他日の素養を作りたるもの少からず、已にして明治九年高木三郎、紐育領事に轉じ、柳谷謙太郎代りて桑港の領事となり、室田義文、一等書記官、能勢辰五郎二等書記官たり、新任領事の着任と共に、領事館をジョンズ街三〇九番に移しぬ、越へて十一年柳谷領事、桑港在留の日本人を招きて、天長節の祝宴を催したるが、之れ在留日本人、天長節祝賀會の嚆矢にして、此日會するもの七八十名、席上故國の芳醇あり、甘味の鯛あり、之れ領事の殊更に日本に注文して取寄せたるものにして、渡米以來故國の芳醇を口にせざりし來會者は、そゝろに異郷の感に堪へず、滿盃聖壽を祝し、歌舞通宵、曉に至りて止みたりといへり、此頃桑港高等學校の教頭リード博士の夫人は、日本青年の境遇を感み、自己の教友を説きて、此等の青年を家庭に備はしめ、餘暇を與へて修學を奨めたるが、是れ現時に於けるスクールボーイの前例にして、日本人學生の之れが爲に便利を得たる事少からず、明治十三年七月、帝國軍艦筑波、練習航海として太平洋を横斷し、來り

て桑港に投錨す、是れ文久年間、勝伯等の率ひたる威臨丸來航以來、絶へてなかりし所にして、當時在留の日本人百五十人、滿腔の歡喜を以て之を迎へ、感極まりて皆涙を催ふさるはなかりしといふ、乃ち支那人教會の下層室にありたる同胞唯一の團體福音會は、主唱して歡迎會を其會場を開き、艦長相浦紀道以下數名を招待す、當時出席者の中、柳谷領事及び滯桑中なりし鳩山和夫等あり、東海散士柴四郎福音會を代表して歡迎文を朗讀したり、明治十四年福音會の會員は、牧師ギブソン博士と圖り、支那人墓地の内敷英町を請ひ受けて、日本人墓地を設く、明治十五年に至りて在留者の數漸く増加するや、赤羽根忠右衛門なる者、スタクトン街クレー街の附近に小家を借り、支那人より米及び蔴油を求めて、始めて日本飯屋を開業し、翌十六年更らにクレーアベニューに下宿屋を開業したり、是れ桑港に於ける日本人營業者の祖なりと云ふ、然れども元來此頃までの在留日本人なるものは、重に米人の從僕として來りたるもの、若しくは水夫等となりて外國船に乗組たるもの、此地に留りて一の小社會を形成せるに過ぎざりしが、明治十八年の頃、美山貫一等歸朝して北米の天地、青年の驕足を伸ばすに絶好の適所なるを唱ふるや、青年の氣概あるもの、争ふて渡米を企つるもの多く、政界不平の徒また、期せずして此新大陸に其運命を開拓せんとするものあるに至り、水夫時代の日本人社會は一轉して學生及び浪士時代の日本人社會を現出するに至り、乃ち明治十九年に於ける桑港在留の日本人は、其數已に二百五

十人に達し、此年六月新潟縣人竹山祐嗣、ターク街十七番に日本雜貨店を開き、更らに日本人向食料品の販賣を爲すに至り、其需用極めて熾なり、之と前後して第六街に、甲斐商店美術雜貨店を開き、横濱正金銀行また桑港に支店を設くるに至り、已にして明治二十四五年の頃に至るや、北方沿岸地、ワシントン州、オレゴン州の方面には、日本人の鐵道労働者漸次に其數を増加し、中央加州の方面には、布市葡萄酒園の摘採人夫として日本人を歡迎するあり、桑港は各地の中樞地たるを以て、其關係自から同胞發展地の樞府たるの位置を爲すに至り、日本人社會の問題も漸次複雑の状態を呈し、有志家らしきもの社會の表面に現はるゝありて、桑港の天地一種の活躍的光景を帯ふるに至れり、是れ一面に於て、米國經濟界の振興時代を説明するものにして、當時日本人労働者の需用盛に起り、市内労働及び農園労働に於て、日本人労働者を歡迎せらるゝ事甚しく、此等の事情は更らに日本内地労働者の渡米を促すに至りて、明治二十六年の如きは、毎便船百名以上の渡米者を見ざるはなく、此年末加州に於ける日本人の在留者は六千乃至八千の數に達し、斯くて明治二十八年、日清戦争の起るや、北方砂市、南ロースアンゼルス間に散在せる日本人社會より、軍資金の醜集額貳萬弗に達し、明治二十八年十一月三日、桑港日本人社會がオツトフエローホールに、戰勝祝賀會を兼ねて、天長節祝賀會を開きたる際、會衆無慮一千二百名に及びたりと云へり、乃ち支那人排斥後に於ける日本人労働者の歡迎は、日本人發達を助長し

たる事少からずして、現時に於ける加州日本人社会の勢力は、實に此間に於て其根底を扶植せるものなり、左れば明治三十二年市内に於ける在留日本人の数は、三千五百乃至四千にして、獨立營業者としては金融社一、醫師及齒科醫六、美術雜貨店五、食料品商店六、洋服裁縫店五、旅館七、日本料理店三、洋食店六、洗濯業三、書林一、寫真館三、西洋湯屋五、日本湯屋三、花蔭販賣店一、理髮床六、桂庵二、通辯業二、家屋掃除業十一、靴工二十ありて、他に正金銀行、三井物産、東洋汽船會社の出張所ありたるなり、斯くて明治三十四年六月、日本人協議會起り、また疾病及災難に罹りたるものを救済し、日本人共同募地經營の目的を以て、加州日本人慈惠會の起るあり、乃ち三十五年慈惠會は、壹萬五千弗の費金を募りて、サンマテオに日本人共同募地を建設し、面積二英町の區域を限り、爾後四十年間日本人の死亡者を埋葬すべき地域を定む、是より先き桑港日本人社会に於て、種々の日本人團體ありたれども、彼等は大抵自治修養の目的を以て組織せられたる、同好者の團體に過ぎざりしが、明治二十四年支那人排斥問題の、米人間に起るや、また之れに伴て日本人排斥の聲一隅に起り、一二の日本人靴工、白人の爲めに迫害せられ、當時また桑港市長の候補者シー、シー、オードンネルなるもの、其選舉を争ふに方り、日本人排斥を唱導せるあり、茲に於て關東會及び東北十五州會の二團體は、相結んで一の團體を造り、以て白人の迫害に對抗し、同胞の權利を擁護せんとす、名けて日本人會と稱したりしが、後

ち明治三十二年支那人街に黒死病發生するや、日本人の通行者を捉へて、強制的豫防血清注射を行ひ、甚しく侮辱を加へたる形跡ありたるを以て、同胞社會之れが爲めに激昂し、歩調を一にして是等不法の行爲に對抗せんとするに至り、茲に始めて一般同胞の代表的團體たる、日本人協議會の組織を見るに至りたるなり、斯の如くにして桑港日本人社会の發達は、明治三十七八年日露戰爭の局を結ぶに至る頃までは、隆々として殆んど停止する所なきの旺盛を現し、横濱より直航するもの、布哇より轉航するもの、英領加奈陀の方面より迂迴し來るもの、常に絶ゆる事なく、市内の旅館は汽船の入港毎に、旅客の送迎に忙はしく、食料品卸賣店は地方への商品輸送に忙殺せられ、美術雜貨の店頭には白人の來客群を爲すあり、洋食店、料理店、理髮店等に至るまで、各種の營業繁榮を見ざるはなく、布哇式赤毛布運の三々伍々として市内を往來し、傍人をして其醜體に冷汗を催ふさしめたるも、また此時にして、新聞は發刊せられ、銀行は開業せられ、種々の團體は組織せられ、市内在留者の數、年を逐ふて増加し、明治三十八年に至りては、全市の在留者實に一萬千四百〇三人に達し、内市内の定業者四千人、白人の商店及び家庭に勞働するもの五千人、學生及び生徒千人あり、これ日本人社会最盛の時代とも云ふべく、其勢の旺なる事驚くべきものあり、然れども日露戰爭の終り、ポートルマウス條約の締結せられ、日本帝國の國威隆然として、宇内の耳目を聳かさしむるに至ると共に、米人の中、早くも猜忌の念を生じ、畏怖の情

之に加はり、白人労働者の此間に深刻なる排斥運動を試むるありて、漸く物議の種を醸し、所謂排日的の行動、續々として起り來ると共に、日本人入米者の中、種々の事故を以て上陸を拒絶せらるゝもの多く、政客の野心あるもの、労働者の歡心を買はむが爲に、種々の手段を講じて、日本人排斥の事に努むるあり、此時に於て明治三十九年四月桑港大震災あり、是れが爲めに桑港日本人社會の繁榮、半ば其勢力を破壊せられ、此際同胞の四方に散去せるもの少からず、災後の日本街は、フィルモア街附近、ポスト、ゲリー、スター街の間に移轉して、其營業を持續せるもの少からずと雖も、災後市の繁榮を滅殺する事少からず、而かも排日的の行動尙ほ熄む時なく、洋食店、洗濯業者の如き最も直接に其迫害を被り、而かも米國政府は、日本人労働者の布哇より米本土に轉航するを禁止、故國の政府また絶對的に労働者の渡米を禁止せるを以て、桑港の日本人社會は、直接其影響を受け、旅館業者を始め日本人向きの營業者は、殆んど致命的の打撃を受け、食料品商店の如きまた、一般農園労働者の數を減じたるを以て、甚だしく販路を縮少せられて、營業の困難なるもの多く、現時僅かに其餘喘を保つもの、僅かに白人向營業者の一部に留り、日本人市街の寂寥言ふに及びざるものあり、一時營業の盛なりし三銀行は、此恐慌を受け破産し、市内の巨商紳士と稱せられたるもの、一朝に没落して悲惨の末路を呈示するもの少からず、現に上町と稱せらるゝ、ガフ、ラグナ、ブキヤナン、フィルモア街の附近、ゲリー、ポ

スト、バイン、ブツシエ街の如き、借家料其半を減するに至りたるに徴するも、以て其衰運の挽回し難きを察するに足るべし、若し現時の儘にして過ぎんか、桑港の日本人市街は、確かに其半部を滅殺さるゝを疑はず、一國外交の、直接在外者に及ぼすの影響、また寒心するに堪へたり、然れども桑港の地位は、尙ほ巨港を擁し、州の中樞を占有し、卸賣業者の爲めには、好箇の商業地たるを失はざるを以て、之を他の僻遠不便の地と同一に視るべからざるものあり、日本人労働者の渡來するもの跡を絶ち、或程度に至りたる後、尙ほよく其殘孽を支持して、以て氣運の際會するを俟つ、敢て難きに非ず、今兩國政府が、日本人労働者の渡航を禁止したる結果として、在留日本人の減少せる事實を表示するに左の如し。

千九百八年日本人入退者取調表

渡米者		退國者		比較
非労働者	二、三〇四	一等船客	三〇七	
労働者	一、五二二	二等船客	五四五	
		三等船客	四、六四二	
計	三、八二四		五、四九三	退國者増加 一、六六九

千九百九年一月より六月に至る間、日本人入退者取調表

渡米者

一等船客	一二四
二等船客	一五九
三等船客	六四二

歸國者

一等船客	一二八
二等船客	二二二
三等船客	一、三六八

比較

計 九二五

計 一、七〇八

歸國者増加 七八三

乃ち在米日本人の数は、一年毎に差引千五百人の減退を爲しつゝあるものと知るべし、今明治四十二年七月桑港日本人會の所轄に屬する、現在日本人の人口を擧ぐれば、總數八千〇六十八人にして、内二千〇七十七人は地方農園の勞働者、八百七十八人はアラスカ銚鑛詰會社勞働の爲めに出行中のものに屬し、市内に在住するもの五千〇八十三人あり、此内六歳以下の者二百人、七歳より十八歳までの者百〇六人、十九歳以上の者三千五百七十四人あり、内男三千三百四十八人、女五百三十人なりとす、更らに明治四十二年市内日本人營業數を示せば左の如し。

(新 聞)	三	(雜 誌)	三	(銀 行 支 店)	一
(病院及治療所)	六	(花 筵 商)	三	(精 米 所)	四
(貿 易 商)	二	(美術雜貨店)	二七	(會社及組合)	九

(藥 舖)	三	(竹 細 工 店)	五	(酒 商)	七
(書 肆)	八	(食 料 品 商 店)	二一	(菓 子 屋)	五
(運 送 業)	五	(洋 食 店)	一六	(小 間 物 商)	一六
(洋服洗濯所)	四〇	(理 髮 床)	二〇	(桂 庵)	八
(時 計 店)	八	(通 辯 及 周 旋 業)	一一	(家 具 製 造 所)	一
(寫 眞 師)	八	(洋 服 裁 縫 店)	二二	(洗 濯 業)	一七
(青物果物店)	八	(切 花 屋)	四	(産 婆、鍼 灸)	一〇
(玉 場、射 的 場)	二三	(豆 腐 屋)	三	(大 工)	七
(旅館及下宿)	五八	(汽 船 切 符 取 次 所)	一	(印 刷 所)	五
(湯 屋)	一三	(喫 茶 店)	一	(三 味 線 張 替)	一
(畫 工)	五	(刺 繡 店)	一	(家 屋 掃 除 業)	六三
(靴店及靴修繕所)	七五	(歌 留 多 製 造 所)	一	(料 理 店 及 飲 食 店)	二八
(魚 屋 及 肉 屋)	五	(印 版 彫 刻 及 看 板 製 造 業)	三		

△在米日本人會 明治三十四年六月、在米日本人協議會なるもの起り、加州各地に於ける日本人協議會と氣脈を通じ、日本人社會に關する重要問題に付ては、常に其歩調を一にし來りたるもの

にして、明治四十一年二月、之れを日本人會と改稱し、規約第二條に於て其目的を定め、本會は在米帝國臣民の品位を高め、日米兩國民の交誼を厚ふし、商業、農事、工藝其他事業の發達を圖り、同胞一般の福利を増進するを以て目的とす。四十二年一月一日より此團體は在留民より、總領事館に出願する各種の願書に對して、保證を爲すの權を有し、外務省に於て之れを承認せるを以て、始めて會の威信を保持する事を得るに至れり、明治四十三年一月十二日現在の會員は、四百一名にして、内特別會員十五名、普通會員三百八十六名あり、此會はスタクトン、パークレー、フレズノ、アラメダ郡、サンノゼ、パオアルト、モントレー、オークランド、アラメダ、サクラメント、ローダイ、ソーマ、サリナス、ツラレ、ハンホード、アモナ、ベカスファイルド、羅府及び南加州の各地、ナツバ、サンマテオ、コントラコスタ郡、スースン、チーコー、サンタクルーズ等の各地日本人會及び、ユタ州、コロラド州の日本人會と氣脈を通じ、其行動を一にせん事を定め、明治四十一年二月、參事渡邊金藏を本國に派遣し、東京、京都、大阪、横浜、神戸の商業會議所と連絡して、日米兩國の交誼を親善にし、通商貿易の發達を圖り、意見の交換に依りて相互の利益を擴張せんとの趣意を以て全國を遊説し、此際全國有志者より、會の事業に對する、寄附金、貳萬壹千貳百弗を募集し得たり、四十二年一月二十六日第一回總會の席上、會長の報告中、「吾人の政治的意義を避けて實業團體たる企畫を建てたる所以のものは、前者

が動もすれば相背離せんとするに反し、後者が利害關係の一致する點に於て、自然に日米兩國民の接觸を促す傾向あればなり、輒ち是れ反抗の最少點に全力を集注し、以て親米の目的を達せんとするに外ならず」と以て會の精神の何れに存在するかを知るに足らむ、現在の役員は左の如し。

- (會長) 牛島 謹爾 (副會長) 黒澤格三郎 (會計委員) 藤平 純三
- 島田 義治 永島 雄治

- (參事) 平岡 恭太郎 大久保 逸治 内田 晃融 野崎 末男
- 安孫子 久太郎 石丸 喜一 塚本 松之助 堂本 譽之進
- 三保 周策 寺澤 久吉 池田 五六 青木 道嗣

(書記長) 久 萬 俊 (書記) 高桑保二郎 トーマス、オーカー

△宗教的團體及教育機關 宗教的團體の最も早く設立せられたるものを福音會と爲す、是れ實に明治六七年の頃、美山貫一、小方仙之助(現時の青山學院長)等、同志と聖書の研究を爲したるに始まり、支那人教會の牧師オースチン、ギブソンなるもの、頗ぶる日本人に同情して、支那人教會の下層を以て、別に日本人の爲めに會場を貸與し、夜間及び日曜日の時間を利用して、自ら聖書を講じ、英語を授く、斯くして明治十八年の頃、支那人及日本人排斥問題の起るや、ギブソンは獨力之を論争して、東洋人種の擁護に努め、彼れ是れが爲めに病を得て去り、明治二十四年

遂に易貨す、斯る献身的の擁護者を有したる福音會は、爾後果して多くの人材を出し、現時日本人社會の發展を資けたる事少からず、ギブソンの辭するや、エフ、ジー、マスター代りて福音會を收し、明治十九年三月、遂に支那人教會と關係を絶ちて、ソシントン街の附近に移轉し、此年五月日本にありたる、ビショップ、ハリスの米國に歸るや、純然たる教會組織と爲して、名を美以教會と改め、此際一部の會員は之れと別れ、ゴールデンゲート街に移りて、依然福音會の名稱を繼ぎ、大澤榮藏安孫子久太郎等之を率ひて、久しく其團體を維持し來りたるが、近時日本人社會經濟的恐慌の餘波を受けて、今や福音會の名は過去の歴史として其名を止むるのみ、美以教會は最初の牧師を河邊貞吉とす、明治二十八年、イン街一三五九番に移り、明治三十五年廣田善明代りて牧師となり、以て現時に至れり、此教會は震災後壹萬弗を以て敷地を求め、壹萬千五百弗を以て會堂及寄宿舎を建築し、加州日本人基督教會に於て最も盛なるものとす、會員百七十人あり、教會内に英語學校を設けて、生徒六十人を有す、廣田牧師は曾て東京麻布の英和學校にあり、後ち米國に來り、イリノイス州ノースウエスタン神學校を卒業し、後ちボストン及びシカゴに於て、宗教上の學科を修めたるものなり、長老教會はサター街一八一番にあり、會員五十人を有し、別に英學校を置き、現時二十人の生徒を有す、現時の牧師寺澤久吉は福井縣の産にして、曾て故國に於て白人の宣教師に就て基督教を學び、明治三十六年渡米して、ウインクラー

スパーグの長老教會にありしが、四十一年十二月聘せられて牧師たるに至れり、青年會はヘート街二一番に在り、醫學博士、哲學博士、イー、エヌ、ストージの單獨經營に屬し、會長をストージ博士とし、副會長を寺澤久吉とし、今より二十四年前の創立に係り、日本青年の此會に入して、ストージ博士の感化を受けたるもの少からず、此會は純然たる基督教的の教育的團體にして、ストージ博士が此事業の爲めに、投じたる資産は、優に四萬弗を越ゆるなるべし、博士は品性極めて高潔にして、夙に身を日本人の感化事業に投じ、殆んど之を以て自己生涯の事業とせるもの、如し、左れば會員にして博士の訓陶を受けたる者、皆其徳の高さを稱せざるはなく、彼れが日本人教育の爲に盡したる勳績、没すべからざるものあり、日本政府は博士の勳功を詮考して、之れを、九重に達し、勳三等に叙せらる、また名譽と云はざるべからず、米國佛教會は明治三十二年九月、文學士蘭田宗惠、西村覺了、西本願寺の命を受けて來り、始めて佛敎青年會を組織したるに始まり、三十八年米國佛教會と改稱す、後ち加州各地に佛教會の起るや、本願寺は桑港を以て開教監督の駐在地と定む、蘭田文學士の、歐洲留學の爲めに去るや、水月文學士來りて之に代り、其病を以て歸朝するや、堀文學士來り、已にして西村覺了師の去るや、紀開藏來りて之れに代り明治三十八年堀文學士東行するに及んで、文學士内田晃融會長たるにいたれり、現時ガフ街一六一七番にあり、會員四百名を有し、會長の外、幹事に圓福常照あり、毎週集會を

爲して布教に努め、日曜日午前白人への法話を爲し、英學校を置き、青年に英語を授け、月刊の雑誌を發行し、婦人會及び學友會等を設く、内田開教師は佐賀縣の産にして、明治三十三年帝國大學の文科及び哲學科を卒業し、後ち大學院に在りて宗教學を専攻し、明治三十八年八月渡米して現時の職に従事す、圓福常照は廣島縣の出身にして、曾て布哇の開教に従事して功績あり、其他組合教會はデビサデロ街五二八番にあり、末廣淺次郎之れを收し、聖公會はポスト街二二三六番にあり、十五年前の創立にして、會員三四十人を有し、前川眞次郎之を收し、榮光會といへるは、聖公會より出でたる一派にして、會員三十人内外を有し、並河浩三其會長たり、此等諸教會の外、日本英學會はポスト街一六八三番にあり、和泉の人山川俊三、山川愛子の經營する所にして、現時百人内外の學生に英語を教授し、日本學院は明治三十六年一月十三日の創立にして、始め日本小學校と稱したりしが、後ち現時の名に改む、神奈川縣人佐野佳三の經營に屬し、現時の在學兒童六十名あり、幼稚科、尋常科、高等科を置く、佐野教師は神奈川師範學校を卒業せしものにして、明治三十五年渡米し、身を以て在米同胞子弟の教育に任ずるもの、夫妻心を盡して之に従事し、成績見るべきものあり、高等師範學校の卒業生杉崎裕、また其事業を助けて教授の任に當れり、他に廣島縣人木原嘉一郎單獨の經營に屬する、小兒養育所ありて現時二十二名の幼兒を預り、労働者等の育兒に不便なるもの、之れに子女を托す。

△同郷人團體同盟組合其他 市内に於ける同郷人團體二十四、同盟組合十二あり、其他には音楽會、禁酒會、園基俱樂部、學生會の如き一々明記するに遑ならず、今同郷人會及び營業同盟の重なるものを列記すれば左の如し。

- 山梨縣人會 山梨郷友會 和歌山縣人會 静岡縣人會 在米豊前人會
- 德島縣人會 三重縣人會 岡山縣人會 肥前郷友會 神奈川縣人會
- 筑前人會 沖繩縣人會 鳥取縣人會 長野縣人會 海南俱樂部
- 兩毛人會 福井縣人會 新潟縣人會 南薩同志會 千葉縣人會
- 筑後人會 愛媛縣人會 熊本縣人會 枋木縣人會
- 美術雜貨商組合 グリー實業同盟 靴工同盟 旅館同盟 湯屋同盟
- 洋服裁縫業同盟 洋服洗濯業同盟 料理人同盟 藝備産業組合 掃除業同盟

(二) 日米貿易と桑港の輸出入業者

桑港日本人社會に於て、最も重要な地歩を占むるものを、日米間の輸出入業者と爲す、是れ桑港の位置、太平洋沿岸第一の巨港たるのみならず、直接東洋諸港との關係を有し、其資格東部太平洋沿岸に於ける紐育と相對峙し、在米日本人商業家の殆んど全部は、此所を立脚地と爲し、日米兩國の間に介在して、最も緊密なる關係を有すればなり、米國商労働務省の調査に係る、外國貿

易統計に依れば、去明治四十年七月一日より、四十一年六月三十日に至る一ヶ年間の日米貿易額は、輸入総額六千八百拾萬七千五百四拾七弗、輸出總額四千四百拾參萬貳千參百貳拾七弗にして内桑港を中心として取引さるゝ輸入額、貳千百拾七萬四千參百六拾九弗、其輸出額七百參拾六萬貳千百八拾七弗とす、是れ東部紐育を中心として取引せらるゝ、日本貿易額と匹敵せるものにして、更に之を桑港税關の調査に係る、明治四十一年中の輸出入額に據り表示すれば左の如し。

國名	輸出價格	輸入價格	計
英國	七、二〇六、一四一	一、六五〇、一五九	八、八五六、三〇〇
日本	六、四七〇、四〇六	二〇、九二〇、九二二	二七、三九一、三二八
支那	四、五七二、九八七	五、八五六、四四八	一〇、四二九、四三五
比律賓	二、四四三、六六五	四、二二三、六七四	二、八六七、三三九
濠洲	一、七三五、八一六	九〇四、四八九	二、六四〇、三〇五
墨西哥	一、四六一、一三五	四三八、三三五	一、八九九、四六〇
加奈多	一、一四七、九三九	九〇四、二八六	二、〇五二、二二五
智利	一一〇、八五七	三六六、三〇二	四七七、一五九
佛蘭西	九八、八四二	一、五五二、九〇二	一、六五一、七四四

日耳曼 一〇一、八九八 一、五四二、九七五 一、六四四、八七三
 グワテマラ 四一八、八四九 一、一二〇、一六九 一、五三九、〇一八
 其他 四、九七一、二八五 八、七二二、五四六 一三、六九三、八三一
 計 三〇、七三九、八二〇 四四、四〇三、一九七 七五、一四三、〇一七

是に因て之れを見るに、桑港に於て取扱はるゝ日米貿易は、遙かに英米及び米清間の貿易額に超過し、其輸入の約半額は日本より來るものにして、輸出の約二割は日本を顧客とせるものなり、以て日本貿易上に於ける、桑港の如何に重要な地位を有するかを知るに足らむ、而して今明治四十一年度に於て、日本より米國に輸入せる商品の重要なものを表示すれば左の如し。

品目	數量	價格	品目	數量	價格
書籍地圖類		一一、〇二三	ナツツ類		九七、七五二
硫黃	四、六〇一	七五、〇六四	花 薙	四、二五八、〇一六	四三三、四四五
小鰈魚		三七、九六五	メタルス		五六、二九三
生 絲	四、九〇八、七三三	一七、三八二、七六四	紙 類		五一、二二三
茶	六、七三九、〇九七	一一、〇二二、七七五	米	五、六九五、二六一	一六七、〇五八
書籍其他 (有稅品)		一一、七三九	絹物類		一九、二二六

ブラッシュユ	三九、六七三	酒類	一〇四、四七九
石炭	二〇、七二七	玩具類	一六、四四九
木綿類	二九九、二五八	漬物味 噌醬油	九五、九五五
陶器類	二七八、二六八	パン粉類	一〇〇、一四〇
扇子	一〇、九八五	骨、角類	二二、三一四
魚類	四二、四七七	麵類	一七四、〇二五
米粉	二四六、二六〇	硝子類	五、八〇〇
香料	七一、五六六	寶石類	一、三〇三
豆類	六四、七六	玉葱	四、三四二
	七、二六〇		一、六八四
			二、四三八

右の表中花菱の輸入額四拾參萬五千弗の一割は、東部に輸送さるゝものとして、殘部四十萬弗内
外は桑港を中心として販賣せられ、此内日本商人の輸入販賣額約二割に相當し、絹物の輸入は主
として白人商人の輸入に係り、支那人之れに次ぎ、日本人の絹物取扱を爲すは、二三の商店に過
ぎず、陶器及び雜貨の約二割半は、日本人の手に依て輸入され、支那人約三割を輸入し、其殘部
は白人の輸入する所なり、日本紙は日本人白人と約折半の程度にて輸入し、ナツキン紙、板紙、
雁皮紙を其主要なるものとす、ナツツもまた日本人白人の輸入する所にして、其取扱額約折半

の割合にあり、茶は白人の取扱ふもの多く、日本人の手に依て輸入さるゝもの一の富士商會あり、
食料品の中、米は白人の取扱額二割にして、他は悉皆日本人の輸入する所なり、酒類もまた其
一部白人の取扱にして、殆んど其全部は日本人の取扱に係り、菊正宗、櫻正宗を主とし、味
噌、醬油、漬物の輸入は全然日本人の取扱に屬し、醬油は龜甲萬、山サの二種にして、漬物類
としては、梅干、奈良漬、辣非、福神漬を主なる輸入品と爲す、此の外盤の罐詰は、近年大に販
路を開き、將來有望なる商品たる見込なり、右の品目中、米、酒、味噌、醬油、漬物、魚類、罐
詰物、書籍等の輸入は、全然日本人の移住に附屬し、其價格五拾萬弗以上に達し、在留日本人一
人は、一ヶ年約拾弗の輸入額を増加する因子なりと言ふ事を得べし、左れば桑港に於ける日本買
易商の立場もまた、在留同胞の増減如何に因て消長せざるを得ず。

(三) 市内營業の狀態

明治三十九年、桑港大震災前に於ける日本人街は、海岸地より十丁内外の所、マーケット街を
挿んで、グリー街、サター街、デユポント街、スタクトン街、ゼシー街等の間に發展したるが、
震災後市内營業者の大部分は、ファイルモア街近く、グリー、ブッシュ、サター街を縱に、ラグ
ナ、ブキヤナン、ウエプスターを横にして新に發展し、一時非常なる發展を示したるも、其後
街區の整理緒に就き、マーケット街を中心とせる下町の再建せらるゝに従ひ、一時上町方面に偏

したる市内繁榮の中心は、再び下町に復歸せんとするに至り、一旦上町に移りたる日本人營業者も、再びデユポント街支那町附近に移轉し來るものあるに至れり、然れども已に上町に移りたる營業者は、多くの移轉費を投じて、借家料の高き下町に移るは遽かに事情の許さざるものありて、現時桑港に於ける日本人街は、殆んど今後の中心點を定むるに苦しみつゝあり、然れども上町の繁榮は再び期すべからずして、彼等の多くは事情の許す限り、漸次下町に移轉するに至るならむ、一たび白人同盟の暴行に苦しみ、二たび震災に打撃を受け、三たび布哇轉航及び労働者渡航の禁制に依て、痛激なる影響を蒙りたる桑港日本人社會は、今や曩日の生氣を認むる事能はず、桑港日本人街の不景氣は、今や蔽ふべからざる事實として現はるゝに至れり、然れども桑港は全加州樞要の地位を有するを以て、其營業の狀態も、之れを羅府、櫻府等に比し、極めて複雑なる關係を有し、斯る不景氣の間において、尙ほ將來に希望を繋げる營業また少からず、今市内營業の主なるものを概記すれば左の如し。

△直接輸出入業者 日米貿易に關係を有する、市内輸出入業者として事業の大なるもの、固より少からず、北米貿易會社は、明治四十二年二月の創立にして、フロント街三一八番にあり、資本總額四拾萬弗、一株を百弗に分ち、米、酒、醬油、味噌、海産物、及び日本製造品の輸入を爲し、製靴材料、種子物、乾菓其他の輸出を爲すを以て、營業の主目と爲す、社長に堂本學之進、副社長

に神川理一、取締役は駒田常三郎、支配人に駒田富三郎、副支配人に河島耕あり、三井物産會社はカリホルニヤ街マーチャント、ビルディングの中にあり、滿洲炭、日本炭、北海道産の材木、鐵道枕木、硫黃、鐵、肥料、飼料の輸入及び米國産肥料、小麦、棉花、オレゴン松材、器械類の輸出を以て、營業の主目と爲し、永島雄治支店長たり、岩上合名會社桑港支店は、横濱市元濱町四丁目岩上合名會社の支店にして、明治三十七年の開店に屬し、食料品、雜貨、綿布、を輸入販賣す、會社の總資本額拾萬弗にして、支店一ヶ月の賣上高壹萬四千弗と稱す、コンマシヤール街四三五番にあり、金三商會はダグラス街パンフィック、ビルディング五〇一號にあり、花菘の輸入販賣を爲し、富士合資會社支店は、静岡市北番町富士合資會社の支店にして、マーケット街三五六番第十四第十五室にあり、主として製茶の輸入を爲すものにして、森下龜太郎支配人たり、米國に於て輸入茶の最多額を扱ふ商店たり、岡田市田商會は、グレー街三二三番にあり、岡田小三郎、市田利助の共同事業にして、主として食料品及び雜貨、干物類、南京豆、蟹、花菘等を輸入し、野崎兄弟商會は、サクラメント街三二五番及び三二七番にあり、野崎貞利及び野崎末男の共同に係るものにして、本店は横濱にあり、食料品及び雜貨の卸賣を主とし、明治四十年の開業に屬す、主任を野崎末男とし、鐘詰、玩具、其他本邦の製造品の多數を輸入し、亞米利加物産會社は、グラントアベニュー五四四番にあり、明治三十九年の創立にして、資本總額貳萬弗、

洗濯業材料及び洋食店に用ゆる原料を販賣し、食料品及び雜貨等を輸入販賣す、社長に藤岡孝一専務取締役支配人に杉原軍造、副取締役に平井貞治あり、一ヶ年の賣上總額平均八萬弗以上なり
 香川支店は、廣島市天満町香川商店の支店にして、コンマシヤール街五七二番にあり、明治三十八年の開業にして、白牡丹正宗、荒牧屋正宗の外、幾鶴、加茂鶴等の清酒及び醤油、味噌、醬油、漬物類其他を輸入す、香川常吉其主任たり、紀泉商會は、グリー街一五七番一五九番に本店を置き、フイルモア街一六三二番及び、東部カンサス市に支店を有す、桑港の商店は小門鶴松、高橋繁太郎、西川徳藏の共同經營に係る大美術店にして、店内の商品拾五萬弗以上、一ヶ年の賣上拾參萬弗を下らず、桑港に於ける日本美術店の最大なるものとす、齋藤米店は、ブキヤナン街一五三一番にあり、齋藤丹治郎の經營にして、精米器械を設置し、主として防長米の輸入販賣を爲す。

△銀行業 日米、金門、桑港日本銀行等、一時三銀行の發生を見たる、桑港日本人社會は、今や僅かに横濱正金銀行の支店に依て、商業取引の便宜を有するのみ、横濱正金銀行の支店は、サンコム街四二五番四二九番にあり、現時日本人營業者唯一の取引銀行にして、此銀行の性質上貸出を爲さず、只だ預金送金の便宜を與ふるに過ぎず、現時の支店長を藤平純三と爲す。

△新聞雜誌業 日米新聞はメーソン街三四〇番にあり、加州日本新聞の最も勢力あるものにして、社長を安孫子久太郎と爲す、新世界新聞はグリー街九四六番にあり、池田五六を社長とす、桑港新聞はブキヤナン街一五〇八番にあり、社長を光勢耕作、主筆を二宮屏巖とす、以上皆八頁の日刊新聞にして、加州の各地に讀者を有し、言論界に勢力を有す、其他月刊雜誌に、四千哩外あり、山形莫越の經營に係れるものなり、事務所をポスト街一七七三番に置けり。

△洗濯業 桑港に於ける日本人の營業中、既に成功の域に達したるものを洗濯業と爲す、明治二十年の頃、榎本某なる者、桑港の對岸チブロンに一の洗濯所を開きたるが、後ち明治二十四年塚本松之助、桑港に於て蒸氣機織を据付け、大規模の營業を開始し、白人の同業者と拮抗して大に其事業を發達せしめたるが、爾後此事業を開業するもの多く、而して其結果頗る見るべきものあり、現時市内に於て日本人の經營せる洗濯所及び、其資本額、使用人數等を示せば左の如し。

洗濯所名稱	資本額	使用人	洗濯所名稱	資本額	使用人
サンセット	四〇,〇〇〦	四〇人	オリエンタル	四〇,〇〇〦	二〇人
ウエスタ	二,五〇〦	一五	ニューセター	三,五〇〦	二〇
マカレスト	二,五〇〦	一七	キャピタル	二,五〇〦	一五
ゴールドンル	二,五〇〦	一二	バイオレット	二,五〇〦	一四
スターライト	五,五〇〦	二八	旭洗濯所	三,〇〇〦	一四

バ	一	ク	二、〇〇〇	一〇	バシフィック	三、〇〇〇	一七
馬場	洗	濯	所	二、五〇〇	一八	ヘボレット	三、〇〇〇
デレ	ケ	ー	ト	二、〇〇〇	一八	サンライズ	二、五〇〇
コ	ロ	ン	バ	ス	二、〇〇〇	一八	計
							八五、五〇〇
							三〇九

而して此等同業者毎月の収入、一戸平均千貳百弗にして、市内に於ける純益は一割五分に當るといへり、就中サンセットセター洗濯所は、土地家屋を所有し、地代及び借家料の仕拂なさを以て毎半期に貳千五百弗の純益ありといへり、然れども白人同業者は、日本人洗濯業の勢力熾なるを見て、百方之れに迫害を加へ、サンセットセター洗濯所の社長塚本松之助の如きは、之れが爲めに獄に投せらるゝ事五十三回、其蒸溜機は、種々の口實を作りて今尚ほ其使用を許さず、原被兩造は此使用に關して、今尚ほ上等裁判所に於て係争中なり。

△靴工 明治二十一年の頃、城常太郎、西村勝藏、關根忠吉、森六郎等相諮りて製靴業を開始したるは、斯業の濫觴にして、米人チースなるもの、日本人の此技に巧妙なるを看取し、彼等に援助して多數の靴を製造せしめ、米國製の商標を付して市場に賣出したるが、白人同盟組合は、日本人の將來恐るべき強敵たる事を知り、相謀りて商標亂用の廉を以てチースを責め、一方暴力を以て日本人同業者を迫害したるを以て、一時離散するの止むべからざるに至りたるが、後ち

兩者間に調停成り、日本人同業者は米人の好まざる仕事を爲すべく、而して其製品には米人製造の商標を附せざるべしとの條件を定め、再び開業する事となり、其後明治二十五年、靴工同盟なる團體を組織し、明治三十一年加州政廳の公認を経、此同盟なるものは材料の買入、徒弟の教養、資本貸付等の事柄をも規定し、在米日本人營業團體中、組織の鞏固にして歩武の堂々たる事斯の如きを見ず、本部を市内デピサデロ街四四二番に置き、明治四十二年一月より六月に至る間本部に於て革皮、墨、釘、諸道具等を買入れ、更に加州各地の同業者に分ちたる價額壹萬六千貳百八拾七弗貳拾仙に達し、之れにオークランド支部の取扱ひに屬するもの、壹萬六千六百六拾參弗九拾五仙を合すれば、實に參萬貳千餘弗の巨額に達するを見る、現時此組合に屬して市内に營業せる靴工、凡て七拾六戸あり、職工の賃金は月給貳拾五弗より四拾弗迄にして、一年千弗の收入ある靴工店は、資本金貳百弗を要し、収入の三分は材料仕入費に拂ひ、他に食料、屋賃、雜費を要するは言を俟たず、營業多忙の時期には、一戸一ヶ月の賣上參百弗乃至五百弗にして、七十

六月の總収入は一ヶ月實に參萬弗の上に出づ、また盛なりといふべし。

△病院及醫業 日本病院は、バイン街一八一番にあり、院長に黒澤格三郎、副院長に中林正巳あり、橋本病院は、ガフ街一六一五番にあり、醫學士橋本修吾の經營せる所なり、其他に松崎愛二の松崎醫院、木内醫師の木内醫院あり、齒科醫としては大久保逸治、宮本某あり。

△活版印刷業 日米新聞社印刷部は、メーソン街三四〇番に、日米印刷會社はブキャナン街一四一四番に、ジャパン印刷會社は同街一五〇四番に、新日本印刷所はポスト街一七二五番にあり、何れも日本活字を備へ、數人の職工を使用せり。

△運送業 桑港運送株式會社は、ラグナ街一四一五番にあり、明治四十年十一月の創立にして、資本金を參萬弗とし、馬二十五頭人夫十五人を使用す、社長に吉田金之助、副社長に中井清次郎取締役に成富嘉太郎、米澤彌吉、辻本源十郎、事務主任に川武信藏あり、一ケ年の收入約貳萬弗内外なり、其他に個人營業のもの四あり。

△洋食店 對白人の營業にして、日本人の之に依て成功せるもの少からず、此營業また屢々白人同業者の迫害を受けたるも、敏捷にして潔癖ある日本人の營業は、よく白人の顧客を満足せしめて、遂によく之れを今日に持續し得たり、一食拾五仙乃至貳拾五仙を程度とし、此等の營業者は日本人街に集中せずして、市内の各所に散在せり、グリー街ポーターサー、黄金灣、アンブロンヤの如き殊に人氣あり。

△美術店 七寶、陶器、唐木細工、絹物日本服、繪畫等を販賣するものにして、一時商況の盛なりしが爲め、粗製品の輸入せらるゝもの多く、特に一時米國經濟界恐慌を來したるを以て、震災後美術店の閉鎖せらるゝもの少からず、現時最も盛大なるはグリー街紀泉商會にして、一

ケ月の借家料九百五拾弗といふに徴するも、其事業の程度を知るに足らむ、此大商店は支那人の大美術店、生發公司、生昌公司、生昌隆、華生隆、福和南京公司等を凌駕し、白人美術店、メンデルソン兄弟商會、ビーハート、レクターハーク等と相匹敵するに足れり、市内小商店の廢業したるが爲め、現時の美術店は賣崩しの愚策を爲さずして、相當の價格を保つ事を得、今や信用回復の微光を認むるが如し、現時市内に於ける美術店尙は二十七あり。

△食料店 米、醬油、味噌、罐詰類、及び日用向きの雜貨を販賣する食料雜貨店は、何れも其取引盛大なれども、日本人在留者の減少すると共に、此商業また其影響を蒙るを免れず、米取扱店としては、北米貿易會社、岩上商會、共同消費會社、齋藤米店の如き、皆精米所を設置して盛んに白米を供給し、酒類販賣は、香川商店の賣上最高も多く、其他に岡田市田商會、亞米利加物産會社等、また其中の盛大なるものなり。

△菓子屋 日本菓子屋は桑港に於て最も發達せるが如し、其製造する所のもの、本國製のものど異なる所なく、羊羹、生菓子の如き、日本人方面に最も賣行さよく、煎餅は茶菓子と稱して、白人の需用少からず、市内に五戸の開業者あり、就中合同菓子屋は明治四十一年、大阪屋及び駿河屋を合同せるものにして、大阪屋は明治三十一年江州の人若城安次郎之れを創業し、加州日本人菓子屋の元祖たり、駿河屋は和歌山縣人南方善太郎外一名にて、開業したるものなりしが、現時は

財満廣三郎を加へて三人の共同事業たり、櫻府に支店を有し、職工六人を使用し、明治四十一年の賣揚壹萬五千弗以上あり、勉強堂はグリー街にあり、明治三十九年七月の開業にして、香川縣人富家友太郎外三名の共同事業にして、七人の職工を使用し、煎餅の賣上高一ヶ月貳百弗にして明治四十二年下半期の賣上六千五百弗と、外に年末の餅搗賃千弗の收入ありしと云ふ、加州の一回及び東部諸州に販路を有す。

△旅館 從來旅館業は最も勢力ある營業なりしが、布哇轉航止み、勞働者渡航の減少せるを以て、此營業は直接大打撃を蒙り、有名なる旅館の萎微不振に陥りたるもの少からず、現時三十五の旅館と二十二の下宿屋あり。

△日本料理屋 明治四十一年、吟笑亭、梅月、菊川、靜香、小川亭の五軒のもの、一戸税金五百弗を納め、五軒に對し營業鑑札を下附せられたるも、他より故障の生じたるを以て、五軒の料理屋は鑑札を返上し、別に料理屋の資格を設けず、現時營業の盛なるは小川亭、大黒屋、みどり亭、ふち花亭にして、小川亭は庖刀を主として、高尚なる料理亭を以て任じ、他は皆酌婦を置き、三弦を操りて酒客の興を助く、市の規則として日本人料理屋は、一切麥酒を出す事能はず、日本酒は之れを寛假すれども、公然の販賣を爲すに非ず。

(四) 桑港及其附近成業列傳

△牛島謹爾 米國加州の地は、日東健兒の爲めに好個の功名場裏なり、各種の民族、東西南北より廣至蟬集して、此地に其運命を開拓せんとす、此間に立ちて近々二十星霜、よく是等の諸民族と相角逐して、嶄然其頭角を現はし來るもの實に少からず、而かも馬鈴薯王牛島謹爾の名は、此間に於て殊に人意を強ふせしむるものあり、彼は福岡縣久留米の産にして、慶應元年生る、家は土地の富豪たり、彼れ年十五に達するや、中學校入學の問題は、彼れの家庭に於ける一大問題なりしなり、當時維新革命の時を去る事尙は遠からず、民族質樸剛健の風あり、父彼れをして都會の風俗に染まざらしめむが爲めに、山間の變則中學校に送る、其校長は、安井息軒の門人にして、曾て谷干城子と同窓たりしもの、以て其校風の特色を有したるを知るべし、彼れ此校にありて學ぶ事年あり、後ち江崎巽芥の塾に入りて、更らに漢學を専修したり、江崎巽芥は九州の名儒にして、其多才多能、人を驚かすに足るものあり、彼れ其門下となりて、訓陶を受くる事深く、頗ぶる造詣する所あるもの、如し、彼れの米國に來りてより已に二十星霜、未だ曾て其師恩を忘れず、花辰月夕、思を故國に馳せ、情を雁鯉に托し、贈答曾て絶ゆる事あらず、彼れ今や富巨萬を積み桑港灣頭パークレーの地を探びて、新に邸宅を造る、パークレーの地は、北加州に於て風光最も美なり、彼れ詩趣油然として起るや、乃ち一絶を賦して之れを恩師江崎巽芥先生に贈る、其詩に曰く「近巒遠嶂映晴灣、砂白青松圖書間、絕妙風光看更好、吟人捻句儘忘還」

と、江崎先生之れを見て、韻に和す、曰く、「大厦巍然壓海濱、路通山紫水明間、五千哩外故人夢、知否中宵猶往還」と、師弟の情真に掬すべきに非ずや、彼の米國に渡りたるは明治二十一年にして、間もなくサクラメント川下の地に入り、土地を借りて馬鈴薯を植へ、其翌年明治二十二年六月、東京市の人福島信、米國に來りて彼れの事業を助け、其翌明治二十二年新海縣人渡邊金三、渡米してまた此農園に入る、始め牛島馬鈴薯王の其事業に着手するや、屢々失敗して屢々回復し、其經路に就て之れを察するに、彼の剛健なる氣象は一敗に遇ふ毎に、其勇氣一倍せるものゝ如く、而かも時來らず、雕行かざるの時、兵糧全く盡きて、囊中僅かに白銅一個を残すのみ、水を飲み、パンを食て數百勞働者の園を脱したる事わりといへり、彼の明治四十年二月サクラメント河、洪水氾濫の時の如き、彼の耕地七分方は、浸水の爲めに大害を蒙りたるも、彼れ平然として騒がず、徐ろに曰く、天公余に沃土を賜ふ、明年の豐作期して俟つべきなりと、蓋し雨水の氾濫は、沃土を其地面に搬出するが故なり、彼れの不得要領なるが如き態度は、斯る非常の場合に於て、必ず衆意を強からしむるものなきに非ず、宜なるかな雨後彼れは此地に蒸氣機關の乾燥器を以て水氣を去り、之れに馬鈴薯を植へて、其翌年巨額の利を見るを得たり、現時彼の耕作地は、スタクトンの川下地方二萬英町にして、若し之れを日本の反別に換算せば、八千町歩の大地面に相當す、現時使用の馬匹三百四十二頭、使用人夫は日本人、支那人、白人、ヒンドー

を合して、三百人より六百人の間を増減せり、地面の借地料參拾五萬弗にして、一年の馬糧拾萬弗に上り、河流を往復するに四隻のギヤスリンボートあり、渡邊金三は桑港に在りて、常に眼を各地の商況に配りて、參謀總長の任務を取り、福島信はリンジツラッキにありて、各地勞働者の總指揮官たり、馬鈴薯王は其主腦となりて之を裁決し之れを令行す、現時在米日本人會長として公共の事に盡し、晝夜席暖かなるに違わらず、而かも問われれば韻を探りて詩を賦し、筆を採て之を草す、曾て人と舟を江に浮ぶ、其詩に曰く、「有酒有肴又何求、片舟一葉溯江流、地非赤壁興相似、月白風清西陸秋」と、また日比翁助の米國に來り彼を訪ふあり、日比は豊前の人、松延貞幹と好し、松延は牛島の親友なり、彼れ日比を迎へて歌ふて曰く、「雲樹茫茫秋又春、何期此地迎嘉賓、同窓同里同心友、握手却疑他國人」と、彼れ風采堂々、面貌魁偉、資性濃厚にして、而かも剛健人に屈せざるの風あり、事に當るや大要を取りて細事を問はざるものゝ如く、同志と事を經營する事二十年、以て他の信服を得るの深さを推知すべく、單に智の人にはならずして、また情の人たるを知るべし、然れども其器度の大なる、自から九州男子の特色を有し、温乎たる所、帷を垂れて人を訓ゆる夫子の趣あり、また近世得易からざるの好丈夫と云ふべきなり。

△塚本松之助 千葉縣香取郡貝塚の産にして、安政四年正月生る、八歳にして父を喪ひ、當時

其伯父千葉平治兵衛なるもの、松平能登守の大目附たりしを以て、養ふて子と爲し、主家の菩提寺牛込區の清源寺に入れて、行義作法を習はしめ、其成長を待ちて出仕せしめんとす、已にして維新の革命に遭遇し、列藩の藩士を奉還せんとするや、伯父は其任を辭して美濃に歸り、松之助は實家に復籍して、家政困難の間、克く母に任ふ、曾て小見川驛の油製造所に備はれて、苦役に従ふ事三年、漸く生活の基礎を支持し、其二十三歳に至るや、一寺院の寺男に住込み餘暇を以て漢學を修む、後ち東京に出で、巡查を奉職せしが、英語の學修に熱心のおまり、職務怠慢の廉を以て職を免せらる、乃ち三田慶應義塾に至り、學僕として福澤先生の訓陶を受くる事三年、已にして身を實業界に投せんとするの志あり、偶々門下の同志、福澤先生の指導に従ひ、北米の地に殖民地を建設するの計畫あり、彼れ率先是れに當らむとし、明治二十年井上角五郎と共に渡米し、直にバレーズプリングに於て、農園地三十英町を求めたるが、賣買の際惡漢の爲めに手續を誤り、折角の壯圖意外の障害を來し、塚本は勞働を以て其初志を達せんとし、井上は再擧の策を講せんとして歸朝し、偶々朝鮮事件の運累者として捕縛せらる、然れども百事艱難の間、塚本は當初の志を變せず、乃ち資本を得んが爲めに、テブロンといへる地に、洗濯所の賣物ありたるを以て、之れを買ひて洗濯業を開くに至れり、然れどもテブロン地は、事業の範圍狭少なるを以て、後ち桑港に移り、蒸氣器械を据へ規模を大にして、盛に營業に従事せるに、白人の同業者

は、之を以て營業上の強敵となし、妨害至らざるなく、遂に始め日本人に機械を賣渡したる會社は、一旦賣渡したる機械の取戻しを請求し、白人の洗濯業同盟は、彼等と同等の洗濯料を以てすべしと迫り、近隣の白人居住者は、蒸氣の使用法を知らざる日本人の營業は、近隣のために危険なりとの苦情を訴へ、連署して市參事會に營業停止の申請を爲すに至り、市參事會また之れに左右せられ、終に該蒸氣の使用を禁止し、塚本の其理由なき命令に服せざるを見るや、彼れ及び其備人十五人を引致して獄に投ず、此訴訟は前後三年に亘り、此間出獄毎に拘引せらるゝ事五十三回、彼れ毎に獄中より書を裁して其配下を囑まし、十五人の就働者また彼の義氣に感奮し、三年間其俸給を受けずして、其職務を繼續し、以て訴訟中一切の費用を支辨し得たり、已にして市參事會も、之れに向て理由なき判決を下す事能はず、遂に彼れの使用する蒸氣機械は、器械の運轉に用ひずして、乾燥用の蒸氣として使用を許すに至りぬ、已にして明治四十年、白人同盟者の再び妨害運動を開始するや、市參事會は、中途食言し、蒸氣の使用規則を改訂して、該蒸氣もまた認可状を要するものとし、其認可状なきを口實として、蒸氣の使用を差止むるに至れり、彼れ此に於て認可状下附の請求を提起し、前後訴訟を爲す事二回、今尙ほ加州上等裁判所に於て之れが係争中にあり、前回の訴訟は聯邦政府の大審院に提起したるも、手續の不完全なるを理由として却下せられ、現時の訴訟は、蒸氣の完全なるを理由として、判事より市參事會に對し、免許状を

下付すへき命令書を發せしめむとするにあり、此訴訟の果して勝訴に歸するや否やは、今より之れを斷定すべからずと雖も、彼れ一身を挺出して、同胞營業上の權利を伸張し、百折不撓瘧れて後に止むの氣概、誰れか一滴同情の涙なからひや、洗濯所の名はサンセット、セラーランドリーと稱し、桑港市二十三街三五〇番にあり、現時個人的營業を改めて、資本金五萬弗の株式組織と爲し、彼れ自ら社長となり、配下に人材を擧げ其要職に當つ、會社は貳萬弗の土地を有し、濯濯其他の設備に投じたるものまた貳萬弗を下らず、平時四十人内外の傭人を使用し、一ヶ年の營業高參萬弗に上り、現時加州日本人洗濯業者中の巨擘たり、最愛の妻ふさ子は、明治二十五年以來、獨旅風塵の裡常に夫に従ひ、内助の功少からざりしが、明治四十二年七月三日を以て黃泉の客となり、夫妻の間五子あり、長男敬太郎年齡十七、今高等學校にあり、他に二男二女あり、皆訓陶を怠らず、在米同胞の事業を爲し功績を留めたるもの少きに非ず、然れども彼の如きは千百の艱難中、堅忍不拔、終始を完ふして、眞個海外實業家の面目を失はざるものと云ふべし、彼れ語て曰く、食物の調理には、砂糖の外鹽を要するに非ずや、人生の事波瀾ありて始めて價値ありと以て彼れが素養の一日に非ざるを知るべきなり。

△堂本譽之進 和歌山縣那賀郡田中村の産にして、慶應三年生る、明治十八年十二月渡米して桑港に上陸し、クリツフハウスの園丁に傭はれ、始めて花園業の有望なるを知り、實弟堂本兼太郎

と共同して、植木屋を始め、彼れ弟に告げて曰く、故國の事業は三年にして基礎を作すと云へり、然れども米國の地は、言語、人情、資金の三點、之と異なるものあり、宜しく十年を期せざるべからずと、乃ちオークランドに於て一の植木屋を始め、二人盟て曰く、今後十年間、専心此事業に盡し、また他の事業に移るべからずと、乃ち兼太郎は直接事業の經營に當り、兄譽之進は、桑港エデー街百六番ゴールデンステートハウスと云へる旅館に傭はれ、其受くる所の給料は、擧げて之を植木屋の資本に投ず、當時彼れ旅館の主人に告げて曰く、余よく十年の勤務を繼續せんと始め一週間壹弗五拾仙の給料を受けたりしが、五年にして一週間七弗に進み、後ち支配人に擧げられて、一ヶ月の純收入百弗に上れり、已にして彼の約束せし十年の期日に達す、彼れ此日前十一時、暇を告て出づ、主人驚て曰く、余汝を愛する事家族よりも深し、何ぞ遽かに去るやと、譽之進之に答て曰く、足下記せざるや十年は今日を以て正に満ちぬ、余豫期の勞働、之を一日も減すべからず、また之を一日も加ふる能はずと、主人嘆惜して言ふ所を知らず、十年間に於て彼の得たる給金、壹萬弗を缺くる事僅に百幾拾弗なりしと云へり、彼の勞働に従事するや、付て一日を休息せず、滿身の精力を揮ひ、奮闘倦むことなく、忠實到らざるなし、一家之に屬せられて、業務大に繁榮し、傭主之が爲に利を得たる事少からず、彼の去りたる後、三人の日本人労働者之に當りて、僅かに彼れ一人前の任務を支へ得たりと云ふ、以て彼の奮闘の尋常ならざりし

を知るべし、彼の労働を辭するや、桑港エデー街に於て商店を開業し、主として食料品を販賣す當時彼れ未だ荷馬車を準備する事能はず、自ら商品を肩にし之を運搬したりと云へり、然れども彼れ已に山を動すの氣あり、千百の艱難また何かあらんや、商店の事業は植木屋の事業と共に、盛大を來し、北加州同胞社會、堂本兄弟の名漸く重きを措かる、已にして明治三十九年、桑港大震災の起るや、桑港の商店部は全焼に歸し、而も其保險を付したる、火災保險會社もまた共に全焼に罹りて、之を辨償する事能はず、然れども彼の信用は、終によく此天災に堪へて、難關を經過し、爾後其個人的營業の方針を改め、資本金四拾萬弗を募りて、北米貿易會社を越し、現に其社長として業務の經營に當れり、桑港は加州事業界の中心にして、有爲の人材少しと爲さず、而かも彼の如きは、其意志の最も剛健にして、氣力の最も旺盛なるもの、浮華輕跳を避けて、實利を重んじ、薄志弱行を斥けて、躬行實踐を主とし、其節儉を重じ、冗費を戒むる事、極めて嚴重にして、急要の事故なき以上、電車に乗らずして街上を徒歩す、偶々風邪に罹る事あるも、湯を飲みて藥餌に代へ、働きを以て一日の保養に代へ、其出勤簿の如き、常に第一席たり、家代々平民にして、殊に帶刀を許さる是れ其祖先、根來の僧徒にして武藝あるもの、税租を免じて、藩士の列に準じたるものなるべしと云ふ、彼れの性格、また因て來る所あるもの、如し。

△小門鶴松 和歌山縣海草郡貴志村の産にして、元治元年生る、曾て荒物商たり、明治二十三年

十一月渡米して桑港に上陸し、家内の労働の傍ら英語を學ぶ事三年、明治二十七年泉州の人奥野徳松と共同して、フィルモア街に美術店を開き、之れを紀泉商會と稱す、經營四年にしてポスト街に移り、事業漸く盛なるや、支店を同街に置く、當時日清戦後、米人の日本美術に對する嗜好大に進み、彼れの商況實に順風満帆の觀なくんば非ず、乃ち明治三十八年十二月、ゲリー街に一大店舗を借り、ポスト街の二店は之れを支店として、大に營業の規模を擴張し、明治三十九年歸朝して諸方の仕入に従事し、概略其取引を了したる頃、桑港震災の飛報あり、是れ想外の變事にして、運命の危機實に間髪を容れず、彼れ倉皇旅裝して桑港に歸り、金門灣頭滿目凄慘の光景に接したるは其五月十四日なりしなり、而かも彼れは性來の商人なり、萬事休せんとするの時に於て、早くも商機の生動するを認め、直ちにフィルモア街の店を借りて、此所に開店し、震災の際火難を免れたる、支店の陶器及び災後間もなく到着したる仕入品、壹萬貳千弗の商品を陳列し、之に加ふるに他に拾貳萬弗の商品を、故國より急送せしめて、盛に店頭を裝飾せり、災後の桑港市は下町の燼滅せるを以て、繁榮の中心自づから、フィルモア街に移り、彼れの店舗は恰も繁華の中心點たりしのみならず、當時同胞美術店の多くは、災後未だ開店する事能はざりしを以て、彼れの店頭客足の繁き事、前後比なく、營業の繁榮實に想像の外にして僅々六ヶ月間其賣上高九萬弗に達し、純利四萬五千弗を得たりといふ、また驚くべき盛況に非ずや、是に

於てか紀泉商會の名、白人の間に喧傳し、東部の旅客、日本の美術品を求めむとするもの、紀泉商會の名を知らざるものなし、已にして明治四十二年六月、ゲリー街一五七番及び一五九番に、新築の大屋を借り、宏大なる店舗を茲に移し、現時一ヶ月の借家料九百五拾弗と稱す、店內の商品拾五萬弗餘、近來商況の稍沈靜なる時に於て、尙ほよく一ヶ年の賣上高拾參萬弗を下らず、彼の震災前日本人同業者の無謀の競賣を爲すや、當時日本の美術品は、一般に粗惡となり大に我國美術品の聲價を損じたりしと雖も、震災後此等薄資の同業者大に其數を減じ、高尚なる美術品は、殆んど紀泉商會の獨占に係るを以て、此商店の日本美術品の聲價を保持する上に於て、其功少からざるものあり、現時本店の外、フイルモア街一六三二番に支店を有し、更らに東部カンサス市にまた一支店を有す、桑港の商店は同縣人高橋繁太郎、西川徳藏兩人との共同經營とし、カンサス市支店は甥黒島安松を以て其共同者とす、日本人勞働者の渡米禁止以來、沿岸事業家の状態、孤城落日の觀なきに非ざるも、彼れの事業は、全然對白人の事業なるを以て、毫も其影響を蒙らず、市街最繁榮のマーケット街附近、堂々白人の豪商巨舖の間に介立し、其盛觀吾人をして其意を強からしむるものなくんばあらず。

△安孫子久太郎 新潟縣北蒲原郡水原町の産にして、慶應二年生る、明治十七年渡米し、種々の苦學を経て遂に加州大學に入り、出で、社會の爲めに貢獻せんとし、夙に福音會に席を有して純

深なる有爲の青年と交る事日あり、聲望日に加り、日本人協議會の起るや推されて會長となり、後ち日刊日米新聞を起して其社長となり、日米銀行の起るや其重役に擧げらる、已にして日米勸業社を組織し、リビングストーンに共同所有地を買ひて、大和殖民地を建つ、性、才智に富み、温厚衆に重せられ、其多年の經路、毫も其人格を傷くるものなき、以て宗教的素養の一日に非ざるを知るべし、只だ日米銀行の失敗、累を彼に及ぼしたるは、彼の爲めに一大不幸なりしなり、良心の制裁力強き彼れ、何ぞ厚面相關せざるの狀を裝ふの時ならむや、蛟龍一時、鱗片を潜匿す、之れ勢の免れざる所、然れども一朝事あらむか、社會は再び彼の如き人物を起し來らざらむや、彼れ明治四十一年始めて故國を見舞ひ、日本市輻社會の才媛、津田梅子女史の妹、ヨナ子女史を娶りて伉儷を結び、四十二年再び渡米して、今尙ほ、日米新聞社の社長たり。

△黒澤格三郎 在米日本人醫業界に於て、夙とに其名を知られ、同業社會に重きを措かるゝもの、之を黒澤格三郎と爲す、群馬縣北甘樂郡下仁田の産にして、文久三年生る、明治十年東京に出で、醫學を修むる事數年、明治十九年内務省醫術開業試験に及第して醫師開業免狀を授與せられ、故國に於て其業を開きたるが、後ち海外遊學の志あり、乃ち明治二十三年五月渡米して、桑港に留まり、其年九月北米合衆國醫術開業試験局の試問に應じ、加州政廳より開業許可の公認を得たり、是れ當時加州大學の出身に非ずして、日本人醫師の此試問を通過せる嚆矢なり、已に

して、明治三十五年歐洲に渡航し、獨逸に留學する事二年、獨逸醫學博士の號を授けられ、其れより歸朝して、我國近時の醫學に就て研究する所あり、已にして明治三十八年再び渡米し、中林正巳と共に、桑港バイン街に日本病院を設立し、現に是に従事す、業務の餘暇社會公共の事に盡す所少からず、同胞社會推して桑港日本人會の副會長と爲す。

△東崎菊松 茨木縣 東茨木 那河根村の産にして、慶應三年生る、曾て司法省法學校に學び、夙に基督教の感化を受く、明治十九年渡米し、桑港に在りて、勞働の傍ら基督教の傳道事業に従ひ、明治三十二年歸國し、留まりて故國に傳道すること數年、明治三十六年再び渡米して、東崎商店を開業し、之を經營する事三年、已にして白人同盟の市内日本人に對する迫害甚しく、市内の同胞は、營業に必要な器械、材料、食品等の購買に不便を感ずること少からず、彼れ是に於て同志と謀りて共同消費會社を組織し、東崎商店の資産を擧げて之を會社の資本と爲し、一株を貳拾弗と定めて資本總額を五萬弗に限り、株主は其拂込に對して、會社より物品を購買するの規約と爲す、是れ明治四十一年十一月にして、爾後彼は其支配人として現に其業務に當れり、明治四十二年會社之の株金拂込は、參千五百弗に過ぎざれども、此年の賣上高六萬弗に達したるは、株主の拂込金以外、前東ヶ崎商店の資産と彼れ個人の信用あるに依れり、妻シゲ子は、熱心なる萬國婦人禁酒會員にして、明治二十一年同會の傳道者、ピラード嬢の紹介に依て米國に來り、現に

有力の内助者たり、子女八人あり、長男 潔 已に米國の小學校を卒業し、實弟安松倉之助は、現に南加州サンデーゴ附近に於て野菜園の經營に従事せり。

△大久保逸次 熊本縣上益城郡甲佐町の産にして、明治七年三月生る、曾て郷里渡邊敬昌に就きて漢學を修め、後ち熊本濟々堂に入りて研鑽する所あり、明治二十五年三月渡米して桑港に留まり、勞働の傍ら英語を學び、後ち市内有名の齒科醫ヘルの家庭に入りて學僕となり、其家庭に留まる事十年、此間 小學校より順次學歷を経て、明治三十六年五月、遂に齒科大學を卒業し、其六月齒科醫開業試験の全部を終りて、開業免狀を授與せらるゝに至れり、加州に於て日本人の齒科大學を卒業せるもの五人に過ぎず、而かも現時桑港市に於て、加州政廳の開業免狀を有する齒科醫は只だ彼れ一人のみ。

△青木道嗣 愛媛縣温泉郡久米村の産にして、明治三十一年渡米し、砂市及ポートランドにありしが、三十二年桑港に來り大成堂といへる書林を開業し、多く内外の書籍を陳列して、在米日本人書肆の最も大なるものと稱せらる、別に常盤商會といへるを開業し、書店と分立して和洋雜貨を販賣す、彼れの事業は、茨木縣人星野辰次郎との共同にして、青木の名廣く世に知らるゝもの、彼れが常に社會に表立して、毎に公共の事に奔走せるが故なるべし。

△香川常吉 廣島市天満町の産にして、明治三十年渡米し、桑港に留まりて、勞働の傍ら勉學し

三十五年十一月遂にヒールド商業學校を卒業するに至れり、後ち神川兄弟商會及び西村協本組鐵道事務所に入りて實務を練習する事二年、明治三十八年桑港コンマーシャル街に香川桑港支店を開き、廣島市の本店と氣脈を通じ、白牡丹正宗等の日本酒を輸入して熱心に販路を擴張し、現に桑港に於ける大商店として知らる、明治四十二年に於て輸入せる清酒二千五百挺に上り、一年の賣上拾萬弗内外なりといへり、彼れ資性英敏にしてよく商務に通じ、藝備人産業組合の専務理事に推される。

△今井常吉 山口縣玖珂郡柳井津町の産にして、明治六年生る、夙に寫眞術を學ばんとす、隣家に寫眞師あり、玉光館といふ、彼れ往て其志を語る、館主笑て曰く、足下斯術を學ばんとすれば、先づ大學校を卒業して來らざるべからずと、彼れ此一語に勵まされて渡米す、時に明治二十五年、歳甫めて十九、乃ち、バンクーバーに留まり、能勢領事の紹介に依り、白人の家庭に入り、學僕として勞働する事一年餘、其れより砂市に至りて業務の餘暇小學校に通學する事半年、更らに桑港に來りて高等學校豫備科を修むる事三年、此間市内白人の寫眞師エリートに備はれ、更らにハインズに就きて其業務を経験する事凡そ四年間、終にテラー街に獨立の寫眞館を開業するに至れり、已にして明治三十四年歸朝するや、隣家の玉光館主驚嘆して曰く、蛇は寸にして人を呑むの氣あり、少年の志氣寔に侮るべからずと、彼れ乃ち白金紙の燒方等に就て其秘法を

告げ、此年再び渡米して現に桑港ブッシュ街に開業せり。
△萩原眞 山梨縣東山梨郡平等村の産にして、安政元年生る、其父生絲の輸出を爲して國禁に觸れ、其商品を沒收せられ、幕吏之に坐して自刃するものあり、家産蕩盡、次で病を以て逝く、眞當時年甫めて十五、慨然家を起さんと欲し、一大製絲場を建て、五十人の工女を使用す、是れ我國に於ける製絲場の嚆矢なりと稱す、彼れ之を経営する事數年、一朝伉儷睦しからず、乃ち家を出で、江湖に漂浪する事多年、偶々北海道函館の港内に碇留せる獨逸汽船に至り、其船部にある友人の料理を助け居たるに、汽船は突然錨を拔て港外に出で、直ちに米國への航海に上りたるなり、彼れ驚愕爲す所を知らず、已にして運命を諦悟し、汽船の桑港に着するや、詐りて信書を故國に投ずると稱し、逃走して金門公園の傍に潜伏し翌日日本人に邂逅し、教へられて同胞の宿屋に至り、人の勞働口を周旋するものありて、桑港を距る八百哩の地に入り、伐木の勞働に従ふ事三ヶ月間、是れワシントン州シャートル市の附近なるべしといふ、然れども彼は寂寥たる山中永く居るに堪えず、乃ち汽船に密乗して桑港に歸り、其後チプロンの干餾製油所または材木積込船のコックとして勞働する事二年餘、漸く資本を得て桑港に大和屋といへる料理屋を始む、是れ在米日本人料理店の元祖なりといへり、彼れ之を経営する事六年、營業大に繁榮して三萬弗の貯蓄を爲す事を得たり、是に於て錦衣一たび故郷を訪はむと欲し、料理店は之を人に託し、親族

知友への土産として、多く米國種の鶏を持ち歸りたるが、當時我國洋鶏熱の流行に際し、期せずして參千弗の利益を得たりといふ、彼れ郷里に留よる事一年、再び渡米して桑港に來りたるに、料理店は已に人の爲めに掠奪せられ、また營業を持續すべきに非ず偶々桑港博覽會の開設せらるるあり、乃ち一白人の囑託に依て日本風の庭園を築きたるが、博覽會の終るや、公園委員は之を金門公園内に移し彼をして之を管理せしめ、彼れに約するに園内に於て日本茶と煎餅とを賣るの特權を以てす、現時米國に日本茶 亭なるものを見るは、其淵源を茲に發したるものなるが如し、已にして彼れは公園の南、別に一町四方の地を借りて萩原公園なるものを築きたるも、震災の際破壊に歸し、現時は専ら力を公園内の庭園に盡し、家族と共に綠樹蒼鬱、風景閑雅なる所、園内の眺望を恣にして居を其所に定め、以て天涯の客士、別個の仙裳を占む、函館港内、偶然獨逸の漁船に至りたるもの、因縁を爲して、生涯を海外に送る、人生の運命また奇ならずとせず。

△杉原軍造 廣島縣安佐郡深川村の産にして、明治十七年生る、年十五にして、英領ヴィクトリヤに上陸し、留まる事一年にして、加州アラメダ市に來り、學僕として白人の家庭に勞働する事五ヶ年、此間小學校を卒業して、商業學校に入り、明治三十九年一月、また之を卒業し、其後市内の白人商店に入りたるが、桑港震災後同志と共に資本金貳萬弗を以て、グラントアベニューに亞米利加物産會社を起し、推されて専務取締役兼支配人となり、而かも此事業の外、市内に四ヶ

所の洋食店を経営し、商店と洋食店とは、互ひに氣脈を通じて巧みに需用供給の便を圖り、洋食店の材料は一切亞米利加物産會社の供給する所たり、現時會社一ヶ月の賣上は平均六七千弗にして、四ヶ所の洋食店一日の總收入貳百弗内外なりといへり、曾て白人同盟の日本人洋食店に迫害運動を爲すや、彼れは同業者の推す所となりて交渉委員に撰ばれ、以て其鎮壓に奔走せる事あり。

△森川福松 和歌山縣海草郡松江村の産にして、明治十一年二月産る、二十八年渡米して桑港に留まり、美以教會に入りて英語を修め、進で商業學校に益雪の功を積むこと三年、已にしてハリス博士の推薦にて、米國移民局の通譯官に採用せられ、在任一年にして之を辭し、偶々イクエテールブル保險會社代理店として保險事務所を開始し、爾後英米火災保險、北米病傷保險、ヘトナ盜難及び玻璃保險、獨逸海上保險等の各社に交渉し、漸次に其業務を擴張して、以て現時に至れり彼れの事業を開始して以來、被保人を募集せる事八百八十名にして、明治四十二年度に於ける、保險金額は總て參拾五萬〇五百弗に達し、其掛金合計九千貳百七拾四弗に上れり、また盛ならずとせず。

△貞永延輔 山口縣厚狹郡吉田村の産にして、明治十三年生る、曾て山口中學校に學び、後ち大阪に至りて商業の見習を爲す事二年、更らに九州若松に至りて、其兄貞永慶藏の家に入りしが、偶々大阪毎日新聞に連載せる爲朝重太郎の傳を讀みて深く感ずる所あり、是に於て渡米を決心し

兄慶藏また之を奨励する所あり、乃ち明治三十五年、故國を出帆し、桑港に着するや、田村旅館に於て旅館營業の事務を見習ふ事三年、明治三十八年自ら旅館業を始め、之を防長旅館と名く、已にして桑港の震災あり、當時衆人の狼狽措く所を知らざるに際し、彼は早くも對岸オークランドに着目し、突差に家屋を借りて新に旅館を設け、同胞の宿所なきものに對して應急の便宜を與へたるを以て、忽ちにして客室充滿し、而かも當時ルーム代及び食費の騰貴せるを以て利を得たる事少からず、斯くしてオークランドに營業する事半年、再び桑港に歸り、現に南パーク街、一三〇に旅館を經營し、傍ら、オートション、シヨアに電氣鐵道の人夫百餘人を供給して鐵道の工事を契約せり、此外に於て、自ら資本金壹萬弗の金融社を起し、日本人の爲めに金融の便利を圖るを趣意として其利益また少からず、現に桑港旅館組合の會計に推される。

△海田豊三郎 山口縣玖珂郡新庄村の産にして、明治二年二月生る、幼にして岩國藩の奇傑白井小介の門に入りて其訓陶を受け、後ち小學校訓導を奉職したる事あり、已にして明治二十六年七月渡米して、バンクーバーに上陸し、間もなく桑港に來りて、市内の齒科醫バンブルームの内に入りて、家内の勞働に従事し、主人の信用する所となりて、齒科技術の補助を爲すに至り、最初は一週間五弗の給料を受け、爾後半年を経過する毎に、貳弗半を増給せられ、三年にして拾五弗となり、其後時々増給せられて、現時一週間の給料貳拾五弗を給せらる、彼れ此内に留まる事已に

十三年、此間齒科醫學上の技術に習熟し、今や桑港市に於けるデンタル、メカニックとして知らる、彼れ職務の餘暇、自宅に齒科治療所を設け、自ら患者に接して、其朝夕の收入また少からず、曾て亞米利加物産會社の社長たりし事あり、性快活にして、頗る野外の遊獵を好み、其技の巧妙なる事、斯道の老功者をして三舍を避けしむらんと。

△成富嘉太郎 肥前佐賀市の産にして、明治元年十一月生る、曾て長崎中學校に入學し、後ち職を小學校教員に奉ずる事五年、更らに佐賀銀行に入りて行務に従事する事六七年、已にして一たび獨立の商業に従事せるも、海内雄志の伸びざるを知るや、始めて渡米の志あり、乃ち妻ツネ子をして産婆を學ばしめ、明治三十五年五月、先づ單獨にて渡米し、初め農園及び鐵道に勞働して、多少の貯蓄を作り、乃ち南加州ローサンゼルス市に至りて運送業を始め、利益を得る事少からず、已にして桑港の大地震あり、市街焦土に歸し、市民野に曝露し、慘狀甚しきを聞くと、彼れ好機乘すべしと爲して突差に計畫を定め、僅かに二日の間、天幕二拾五個を準備し、炊事道具及び食料を加へて之を桑港に携へ來り、宿所なき市民に天幕を貸貸し、食料の販賣を爲したるが、此一舉頗る機宜に適し、利を得る事少からず、然れども白人の同盟、早くも之に妨害を加へ、彼は半途之を撤去せざるべからざるに至り、乃ち一切を他に賣却して再び桑港市に於て荷物運送業を開始し、奮勵業務に努めたるを以て、また相當の營利を收むる事を得、已にして明治三十九年十

一月同志と謀りて、桑港運送株式會社を起し、推されて其社長となり、後ち之を辭して、現に其取締役たり。

△小川多吉 岡山市の産にして、安政五年生る、夙に料理人として經驗を有し、明治十八年以來、汽船内の料理人たりしが、明治二十五年、淺野廻酒店の汽船金澤丸に便乗して桑港に上陸し、二十七年六月エリス街に獨立の料理店を開業して、之を小川亭と稱す、偶々日清戦争の當時にして、營業頗る盛況を極め、明治三十年の如き、一ヶ年の收入壹萬貳千七百弗なりしといふ、乃ち一ヶ月の家賃參百弗を出し、準備費壹萬四千四百弗を投じて、カリホルニア街に移り、規模を擴張して盛に營業に従事し、其頃一ヶ月の收入、料理屋にて千五百弗、旅館業にて、參百五十拾弗に達したりといへり、後ち震災に遭遇して全部を焼失し、此年八月ポスト街に移り、其家業を繼續して、現に桑港日本人料理店の隨一と稱せらる、現時の家屋は毎月の借家料百九拾弗にして、開業の設備に四千弗を投じたりといふ、彼れ少くして放蕩無賴、絶えて正業を意とせざりしが、一朝悟る所あり、其獨立して小川亭を開業するや、また足を支那人街の賭場に運ばず、切々家業に勉勵して、營業の方針頗る堅實を主とし、彼の給仕政略の如きは斷然之を斥け、料理は自ら庖刀を執り、精撰良を盡して、能く上流貴賓の賞讃を博す、性義俠に富み、曾て同胞死亡者の爲めに、サンマテオの地に一の無縁塚を建立せんとし、徳島縣の遊藝師匠豊澤千八をして義太夫會

を開催せしめ、興行二日にして四百弗の寄附金を集め、自ら其不足額を出金して、八百五十拾弗の石碑を建つ、三層の臺上、碑の高さ一丈五尺、周圍を三尺四方と爲す、而かも碑の未だ成就せざる前、豊澤千八、不意に腦充血を以て死す、彼れまた之れが爲めに葬儀を營み、自ら其費用を辨じ、會葬者の香典參百餘弗は、之を豊澤の遺族に送付したり、また曾て英國汽船リオジャヤチーロ號の金門灣口に沈没するや、友人安達又次郎なるもの乗組の一人として溺死し、其死體の發見せらるゝや、彼れまた之が爲めに一船を借り、僧をして船中に誦經せしめ、賓客を招きて其追弔式を擧ぐ、來會者三百餘人、贈花船に滿ち、香典の集まれるもの參百餘弗、乃ちまた是を故人の遺族に送付し、吊祭の費數百弗は、自ら之を支辨したりといふ、以て彼れの爲人を知るべき也。

△杉山伊三郎 山口縣吉敷郡陶村の産にして、明治十四年二月生る、曾て下關郵便電信局に於て電信技手たり、已にして海外に事業を爲さんとするの志あり、明治三十八年一月布哇に渡航し、カワイ島カケハに於て日本人小學校に教鞭を執る事七ヶ月、然れども由來商界に雄志を伸べんとするの彼は、久しく此の如き閑職に留まるべきに非ず、乃ちホノル、に出で、藤山商店の帳簿掛となり、居る事六ヶ月にして、三十九年九月米本土に渡航し、桑港に上陸するや、市内商業界の事情に通せんがために、一時市内の行商に従事す、當時震災後の桑港は、一面に於て市内商業家の新陳代謝を現出せるものにして、有爲の人材は此機を輕々に看過する事を爲さず、彼また

早くも氣運の活動せるを察し、翌四十年十月ブツシユ街に一の商店を開き、之を杉山商店と稱す、斯くして營業の漸く繁榮するや、同縣人有富誠五郎と共同して、名を杉山有富商會と改め、スタクトン街九五六に移轉す、有富は防州三田尻の産にして、曾て商業の經驗を有し、渡米以來、國産社、駒田商店、北米貿易會社等に於て重要な任務に當り、後ち桑港市内バイン街に於て獨立の商店を有したりしが、杉山商店と合併するや、二人協心戮力大に事業の發展に努め、杉山有富商會の名、遠く在米日本人社會に普及し、加州の外、東部及中部米國よりの華客を引くに至れり、已にして明治四十三年七月、有富の歸朝するや再び名を杉山商店に復し、爾後獨立して、現に和洋雜貨及び書籍の販賣に従事す。

△吉田金之助 和歌山市の産にして、慶應三年生る、明治三十年渡米し、桑港に留まりて、種々の勞働に従事し、居る事四年にしてネバダ州に入り、フロリストンの製紙場に働く事一年、貯積する所少からず、乃ちローヤルトンに地を買ひ、家を建築して永住的計畫を定めたるも、其妻女の疾疾に罹りたるが爲めに、土地家を賣却して歸朝し、郷里和歌山市に於て一時洗濯業を営みたるも、事業の範圍狭小にして志の伸びざるを知るや、明治三十八年再び渡米し、翌年三月桑港に荷物運送業を開始し、事業繁榮して營利少からず、殊に桑港震災の起るや避難者の荷物を運搬して二日間參百五拾弗の奇利を博したる事あり、震災後一時オークランドに開業したるも、

後ち之を他に譲りて桑港に歸り、同業者と相謀りて、桑港運送株式會社の創立に盡力し、最初の社長成富嘉太郎の其任を去るや、推されて其社長となり、周囲の信頼する所たり。

△高橋富藏 千葉縣香取郡良文村の産にして、明治五年生る、三十二年二月渡米し、始め桑港に於て市内の勞働に従事せるに、主人の彼を信用する事厚く、製靴業の有利なるを説き其營業の方針を示して之に靴屋を開業せしむ、初めデビサデロ街に開業したるが、後ちグリー街に移轉し、現時盛に營業に従事せり、由來日本人は、白人と同一の靴を使用せるも、彼の特に日本人向きを眺へて販賣するに至るや、同胞の之を便として購買するもの多く、營業繁榮して、日の出靴屋の名廣く同胞社會に知らるゝに至れり、曾て桑港靴工同盟の營業主任に撰拔せられ、同業者團練の爲めに盡したる所少からず。

△須田與治 福島縣伊達郡大久保村の産にして、明治十五年生る、曾て東洋汽船の乗組員たりしが、勤務中病のために解雇せられて桑港に上陸し、病の癒ゆるや、勞働の餘暇を以て小學校に通學すること六年、遂に之を卒業し、更に商業學校に入學する事一年、已にして故國の産物たる絹織物を販賣して各地を旅行し、明治三十九年布市地方に在るや、偶々桑港震災の報を耳にし、早急桑港に歸りたるが、災後慘憺たる光景の裡、早くも氣運の一變せるものあるを察知し、直ちに同志と謀りてひのゑ屋洋服店を開業し、盛に業務を經營して顧客の信用を博し、現時一ヶ年の註

文高壹萬貳千弗に上り、開業後共同者と關係を絶ち爾後單獨を以て之を營業せり、性英敏にして業務に精勵し、桑港日本人社會有望なる青年實業家とせらる。

△金澤今朝三郎 長野縣小縣郡上田村の産にして、明治十年生る、夙に郷里上田町に於て洋服裁縫業を學び、之に従事する事七ヶ年、明治三十五年渡米し、翌三十六年オークランドに於て洋服店を開業し、三十七年桑港市に移轉し、盛に其營業に従事せるが、震災後市街の整頓すると共に、市内繁華の中心、下町方面に移すを看取し、明治四十三年二月パイン街五五七に移り現時支那人、白人、日本人の駐文少からず、桑港に於ける洋服店少からずと雖も、多年の經驗を以て其技術に練熟し、事業に熱心にして商機を見るに敏なる、先づ指を彼に屈せざるべからず。

△齋藤丹治郎 新潟縣高田町の産にして、明治五年生る、二十八年渡米して桑港に來り、初め市内の勞働に従事せしが、明治三十年駒田商店に入りて、店務に従事する事九ヶ年、勤勉怠る事なく、經驗を積む事少からず、已にして明治四十一年ブキアナン街に獨立の商店を開業して之を齋藤米店と名け、完全なる精米器械を設置し、盛に白米を輸入して之を販賣し、就中主として防長米の供給を爲す、彼れ常に曰く、日本米の輸入は、全米國の消費高に比すれば、僅かに其三分の一を供給するに過ぎず、彼等をして全然日本米を用ひしめむか、以て我が國益を増進するに足らむと、現時彼れの商店、一ヶ年の販賣高九萬弗と稱す、個人的の營業として、また盛大なるものに

屬す。

△財滿孫次郎 桑港日本人街の範圍に於て、其店舗の大にして、最も高價なる商品を陳列せるもの、之を財滿時計店と爲す、是れ財滿孫次郎の經營に屬するものにして、彼は廣島市に生る、明治三十四年渡米し、初め桑港市に於て家内の勞働の傍ら英語を學び、曾て時計店に經驗を有するを以て、間もなく、デユボント街に一の時計店を開業し、時計及び貴金屬、寶石類の販賣に従事し、資産を作る事少からず、震災後グリー街に移轉して、現時一ヶ年間の賣上價額凡そ貳萬五千弗と稱す。

△森下龜太郎 静岡縣小笠郡川城村の産にして、慶應二年生る、幼にして英語を學び、夙に獨立の氣概を有す、曾て故國に於て文部省より英語教員たるの免許狀を得たるが如き、殆んど獨學を以て終始を一貫したりといふ、明治二十六年渡米し、桑港に留まりて富士合資會社桑港支店に勤め、安田七郎、北島録郎等の後を承けて現に該支店の支配人たり、明治四十二年度に於ける同會社の米國に輸入せる製茶の額、實に四百九拾貳萬七千六百八拾八斤にして、米國に於ける輸入茶取扱商店の最大なるものとす、配下に白人の事務員を使用し、彼れ自身は、麥嶺山紫水明の地に邸宅を有し、朝夕白人と交際して、我國重要輸出品の販路を開拓す、實業界に於ける彼の功業また鮮少ならずと云ふべし。

△永本要藏 廣島縣安佐郡三篠町の産にして、明治元年十月生る、明治三十年渡米し、初め理髮業を開き、傍らレーム貨を営みたりしが、三十二年以來、専ら旅館の營業に従事す、彼れの旅館營業に於けるや其熱心他に特出し、其計畫の大膽にして、而かも其旅客に對する取扱の周到なる、實に驚くべきものあり、曾て労働者募集の爲めに布哇に渡航する事二回、一回の渡航に千弗乃至二千弗の運動費を使用せるは人の知る所なり、明治三十九年二月、開業十年の祝宴を開くや來賓の數四百八十七人、宴會の費用千五拾五弗を支出したりといふ、一時ホドソン街に價四千餘弗の西洋湯屋を所有したりしが、一白人の労働同盟と結託し、之に迫害を加へしめて、己れ安價に之を買收せんとするや、彼れ憤然として其心事を惡み、一夜密かに重要なる器物を他に運搬し自ら浴室の全部を破壊したるが如き、以て其氣膽を觀るべき也、現時の旅館はエデー街にありて震災後較や其規模を縮小せるも、尙ほ一ヶ月百八拾弗の借家料を拂ひ、市内日本人旅館中の大なるものに屬す。

△森俊彥 滋賀縣長濱の産にして、萬延元年生る、明治十八年渡米し、桑港に於て白人のホテルに労働する事三年、已にして佛人某の葡萄酒醸造場に労働するや、其支配人深く彼れを愛し、其職を辭するや彼れを薦めて己れが後任と爲し、十五人の白人労働者は、乃ち彼れが配下たるに至れり、是れ當時未だ黄人排斥の聲なく、彼等の一たび日本人を信用するや、擧げて重要な任務

を授くるも、また之を怪むものあらざりしが故なり、彼れ此際特別の收入多く、在職一年餘、優に三千弗を貯へたりといへり、後ち病を以て之を辭し、生田某と共同して、日本に材木を輸出し、渡海中汽船の顛覆せるを以て悉皆の材木を流失し、而かも商業に經驗なき彼等は、貨物に海上保険を付せざりしが爲めに此事業は全然失敗に終りたるなり、是に於て一年を労働に送り、再び多少の資本を作り、古着類及び時計を仕入れ、之を布哇に持行きて意外の利益を得、已にして海産事業の有利なるを知り、同郷人小谷源之助と共に、モントレイの附近に鮑の採取を爲さんとし、歸朝して、小谷の實弟小谷仲次及び房州仙田浦の漁夫三十名を率ゐて渡米し、盛に鮑の採取に従事したるが、當時北清事件の起りたるが爲めに、干鮑の販路を杜絶せられ、是れまた一大失敗となりて終れり、此時に於て、モントレイに於ける白人の捕鯨會社、其漁具と共に營業株を他に賣却せんとするあり、彼れ乃ち三千弗を以て、漁船、獵砲、網具一切を買取り、以て捕鯨事業に着手したり、然れども此事業たるや、最も冒險の事業にして、其經費の大なる事豫想の外にあり、而かも漁具の不完全なると、鯨魚の種類劣り、收支の償はざるを以て之を廢し、爾後また斯る冒險事業に關係せず、已にして桑港日本人社會、藥舖のなきを以て、之を開業し、現時盛に之が營業に従事せり、彼れ鬚髯鬚々、風采堂々、一見凡骨に非ざるを知るべく、其經路また紳墨を以て律すべからず、其膽大氣剛、人生の波濤を意とせずして、横行闊歩する氣概に至りては、薄志弱

行の徒の容易に企及すべからざるものあり、付て金門灣口に汽船リオシヤネーロ號の沈没するや自己所有の漁船をモントレーより廻航せしめ、コール新聞社と結託して、海底の搜索に従事し、自ら其費貳千弗を支出したる事あり、此搜索は不幸にして船體の所在を發見する事能はざりしと雖も、此際金門灣内の海底地圖に誤謬あるを發見し其後灣内海底地圖の改訂せられたる所少からざりしといふ。

第四節 灣東二郡日本人發展地の調査

(一) アラメダ郡

アラメダ郡は、東サンオーキン郡に界し、南はサンタクラ、郡、北はコントラコスタ郡に隣り、西は桑港灣に臨みて、サンマテオ郡及び桑港市と相對す、面積八百四十方哩、人口四十萬、桑港灣に沿ゆる海岸線三十八哩あり、氣候中和を得て冬期降霜なく、降雨の量平均三十吋、郡内居住者の死亡率、毎年千人に對して十人に過ぎず、對岸に桑港の大市場を扣へ、運輸交通の便に富み土地肥沃にして種々の農産物に富み、加州の富饒地と稱せらる、葡萄酒、鹽、大根砂糖、皮革、材木、家具、電車、煉瓦、綿、塗料、瓦、礫砂、石炭、油等を産し、一般の農産物としては野菜、藥物、葡萄、ハップス、牧草、家禽等あり、明治四十二年度に於ける日本人の農業は、所有土地

百七英町半、現金借地千二百九十九英町半、歩合耕作地千二百八十一英町、請負耕作地三千八百五英町あり。

オークランド市 郡の首都にしてコントラコスタ山の斜面、桑港灣の沿岸十哩を占有し、市街發展、人口二十三萬五千を包容し、一年の平均温度五十六度、人口の増加特に著しく、最近二年間に於て百分の二十三を増加したり、市内に十一の銀行ありて、其預金高貳千貳百六拾萬弗に達し、市内街路の延長百五十哩、市街鐵道は郡部と連絡して延長百四十哩あり、鐵道に連絡して、防波石堤の海中に突出せるもの三、其最も長さものは一萬七千呎に達し、蜿蜒として海中の偉觀を爲す、此地日本人社會の發達は、桑港に比較して遅々たるを免れざりしが、明治三十九年桑港震災後、一時此地に避難するもの多く、是より其數大に増加するに至れり、現時市及び附近の在住者を合して千内外に達すべし、明治四十三年七月現在日本人營業者の數を類別すれば左の如し。

新聞支社	三	印刷所	二	病院	二
齒科醫院	二	美術店	三	食料雜貨店	五
野菜菓物店	九	書籍賣藥店	三	洗濯業	一四
洋服店	一五	洋服洗濯所	一〇	食店	六

時計店	二	菓子屋	二	理髮店	八
玉突場	六	湯屋	一三	桂庵	二
射的場	二	料理店	九	旅館及貸室	一二
寫真業	一	小兒養育及産婆	四	製麵所	一
精米所	一	運送業	二	竹細工店	一
大工職	四	看板業	二	切花屋	四
靴工	五八	家屋掃除業	二三		

王府日本人會は明治三十五年七月創立し、初め王府協議會と稱したりしが、後ち現時の名に改む。現在の會員七百四十一人、會長に松崎愛二、副會長に増田寅三郎、會計に高田力藏、大坪金助、幹事に松重浩、其他評議員十二名あり。

日本人會以外の團躰には河島末之進を牧師とせる王府美以教會、大久保真次郎を牧師とせる王府獨立教會、藤井默乘を開教師とせる王府佛教會あり。

今市内營業の狀態に就て記せんに、此地に於て日本人の事業として、最も發達せるものを洗濯業、花園業、及び靴工同盟の事業なりとす。

△洗濯業 オークランドに於ける日本人の洗濯事業は、明治三十七年八月、中重榮太郎、上野峯

次郎の二人共同して東郷ランドリーを始め、翌三十八年岡田鶴三郎マーケットランドリーを始め、三十九年桑港震災後、桑港市内、東京、富士山、クイツサーグイス等の洗濯所、また此地に來りて事業を開くに至り、漸次に發達して現時の盛況を爲すに至れり、是等の同業者は、創業の當時何れも事業の困難を感じたるに拘はらず、遂に此艱難時期を經過し、其事業者々として隆域に達し、其間白人同盟の妨害なきに非ざりしも、彼の桑港に於けるが如き慘酷なる程度に至らずして止み、現時に至りては、殆んど何等の妨害を蒙らざるに至れり、由來洗濯業は日本人の最も適する事業にして、初め支那人の同業者少からざりしも、彼等は時勢の進歩に従ふ事能はず、只だ從來の手工に依れるを以て、到底大規模なる器械工場を使用せる日本人洗濯業者の敵とするに足らず、彼等は現時市内一部貧民者の需用に對して、極めて微々たる事業を維持するに過ぎず、白人の同業者と雖ども、日本人の歩武整々、よく新式の器械を設置し、清潔、丁寧、機械の三特質を發揮し、未だ曾て一步を彼等に譲らざるを見ては、殆んど之に抵抗するの氣力なきもの、如く、現に日本人同業者の増加すると共に、市内白人同業者の倒産するもの、已に六七軒に上り、其中日本人の手中に營業株を引受けたるもの二軒、器械の買取を爲したるものまた少からず、同業者中、最も事業の大なるものをマーケット洗濯會社と爲す、初め廣島縣人岡田鶴三郎の個人事業なりしを、明治四十年七月十五日、資本金五萬弗の株式會社と爲したるものにして、會社組織後、一

時甚しく營業の困難を來し、殆んど破産の危機に瀕したる事ありしも、遂に克く之に耐へ、明治四十一年六月より、漸次利益を見るに至り、現時一ヶ月の收入四千弗に上り、明治四十二年度に於ては、二割の利益配當を爲したるのみならず、他に器械消耗費、及び積立金に二割を繰入れ、實際に於ては、一ヶ年實に四割の純利益を示したるものといふべし、會社一ヶ月の借家料は百五十拾弗にして、場内に据付けたるマングルと稱する火熨斗器械は、參千四百弗を値せるものにして、加州日本人洗濯場を使用せる器械の最大なるものとす、其他ボイラーに千弗、小火熨斗器械類に七百貳拾五弗、洗場の器械に千參百五拾弗、乾燥室の設備に參百五拾弗、井に八百五拾弗を支出し、外に馬八頭、運搬車六臺を有す、職工には、白人女工七人、日本人男職工五十四人あり、白人女工の給金は一週間拾貳弗より六弗の間にして、日本人男職工の給金は、一ヶ月貳拾弗より五拾貳弗の間あり、現時社長に中重榮太郎、副社長に岡田鶴三郎、支配人に上野恭三郎、取締役には、小野萬次郎、三宅幾太郎、犬飼久太郎、濱手惣十郎、監査役に大田光五郎、犬飼勘太郎、近藤鐵之助、佐々木幸次郎あり、個人營業者の大なるものを東郷ランドリーと爲す、初め鹿兒島縣人中重榮太郎、上野峯作の共同事業として起りたるものにして、資本金六千弗を有し、職工二十三人を使用し、一ヶ月の借家料百弗を支出し、馬三頭、運搬車二臺を備へ、一ヶ月の收入壹千八百弗と稱す、市内日本人洗濯業の最古のものにして、白人間に多くの顧客を有し、個人的營業と

して其事業の盛なる事、之に及ぶものあらず、其他の洗濯所も、之を他の地に比して、規模大なるもの多く、其設備等に就ては、以上二ヶ所の洗濯所に就て之を類推する事を得べし、今是等洗濯所の名を列記すれば左の如し。

- | | |
|-----------|-------------------|
| マーケット洗濯會社 | マートル街 八六〇—八六四 |
| ユニオン洗濯會社 | ユニオン街 一九三〇 |
| 富士山洗濯會社 | ブロードウエー 一七八五 |
| 東郷洗濯所 | セブンス街 一六八三—一六八五 |
| 東京洗濯所 | フィルバート街 一七三四 |
| クイキサピス洗濯所 | セブンス街 一二五五 |
| エリート洗濯所 | ブロードウエー 一九四三—一九四五 |
| 伊藤洗濯所 | シツキス街 三三三三 |
| モンテラル洗濯所 | ビードモント街 三八〇八 |
| テレグラフ洗濯所 | テレグラフアベニュー 五三三四 |
| サンバプロ洗濯所 | サンバプロアベニュー 二六二三 |
| セライホール洗濯所 | サンバプロアベニュー 八七三三 |

フジ 洗濯所

セブンス街 七五七

古清水 洗濯所

サーチンス街 一二一六

△花園業 オークランド附近に於ける日本人の花園業は、明治十八年和歌山縣人堂本兼太郎、其兄堂本譽之進と謀り、オークランド市街の中心より、數哩の南、メルローズに一の花園業を創めたるより、漸次に發達し、明治三十四年より、三十八年頃に至り、其接續地たるフィッチバーグ、フルーツベル、エルムハースト等の地に日本人の來りて是等の事業を經營せるもの多く、頗に著しき發達を見るに至れり、現時此等の地方に於て、自ら土地を所有し、其事業に従ふもの十名餘其所有地八十餘町に達す、就中最も事業の盛なるは、堂本花園にして、其他木村花園、林花園、未安花園の如き、また其事業の大なるものとす、是等の同業者は何れも、永久の計畫を爲し、廣大なる養花室を建て、主として、薔薇、菊、石竹、百合花、アスパラガス、フリージャ、グランジオラス等を栽培し、桑港市に花市場を有し、其事業の盛なる事驚くべきものあり、此事業は日本人の事業中、確實なるもの、一にして、已往二十年間、未だ倒産せるものを聞かず、市場の價額は、固より一定せずと雖ども、大抵左の範圍にて販賣せらる。

- 菊 一ダズン(十二本) 拾仙より壹弗半まで(室内にて作りたるもの壹弗乃至壹弗室外にて作りたるもの拾仙乃至壹弗)
- 薔薇 一ダズン(十二本) 拾仙より壹弗半まで(アメリカンビニーターは六弗乃至拾弗の價を有す)

石竹

百合花

拾五仙より壹弗まで(九月より三月の間、貳拾五仙乃至壹弗、夏期六ヶ月間は拾五仙乃至五拾仙、クリスマスには七拾五仙乃至壹弗)
壹弗より四弗まで(四時平均の價を有す)

今オークランド以南に於ける、是等土地所有者たる花園業者を列記すれば左の如し、因に記す、オークランド以北、ステージといへる所に一群の同業者あれども、其地域コントラコスタ郡に屬するを以て茲には記載せず。

堂本兄弟 (和歌山縣)	四十五英町	フィッチバーグ及メルローズ
木村兄弟 (和歌山縣)	六英町	エルムハースト
鶴飼英哉 (愛知縣)	二英町半	エルムハースト
高橋幸太郎 (高知縣)	二英町半	フィッチバーグ
林兄弟 (福岡縣)	八英町	フィッチバーグ
末安兄弟 (福岡縣)	五英町	サンレアンドロ
岡田 豊 (和歌山縣)	三英町半	エルムハースト
古屋金助 (廣島縣)	一英町半	アラメダ市附近

今堂本兄弟の事業に就て少しく其内容を記せん、此事業は、其規模の大なる點に於て、ロッキーマン山以西之に肩比するものなく、其所有地四十五英町の内、メルローズに在る五英町の地は、現時

一英町四千弗、フィッチバーグにある四十英町の地は、現時一英町二千弗の價額を有す、初め譽之進及び兼太郎の共同に成りしも、其後譽之進は北米貿易會社の事業に關係せるを以て、直接此事業に當る事能はず、是に於て、現時兼太郎は、自らメルロースの花園を經營し、フィッチバーグの花園は、弟元之進をして之を經營せしむ、メルロースの花園には、歐洲及び日本産の植物を網羅し、就中輸入品の果樹、及塊ものと稱せらるゝ塊根類の植物多く、養花室の數三十二棟あり、地面六萬平方呎を占有し、一棟の建築費五百弗乃至千弗を投じたるものにして、フィッチバーグの花園には、薔薇、菊、百合花、石竹等を栽培し、養花室の數二十棟あり、地面十四萬平方呎を占有し、一棟の建築費千弗乃至千五百弗を費したるものとす、是等養花室には、地下及び室内に鐵管を通じ、之に蒸氣または温湯を送りて、植物に適度の温度を與ふる装置を爲し、ニヶ所の花園に用ふる動力、三百三十五馬力を使用し得べく、蒸氣温度は、晝間太陽の光線にて温熱を得る植物に對し、夜間温度を與ふるに用ひ、温湯熱は、晝夜の別なく、常時温度を與ふるものに用ふ、其他に電氣力を應用せる供水器械及び唧筒ありて、三十三馬力の電力を使用し得べく、而して、養花室の最も長きものは三百十呎、其幅の最も廣きものは四十呎あり、園内に四五十人の傭人を使用し、居室及び賄付として、一ヶ月貳拾五弗乃至五拾弗の給料を支拂ひ、白人労働者は、居室及び賄を付せずして、一ヶ月平均七拾五弗の給料を支給せり、事業に使用せ

る馬十六頭、車十二臺を有す、此外居室の建築費に七千弗を投じ、桑港に於ける花市場の借家料毎月百貳拾五弗を支出す、以て其事業の大なるを知るべし。

△靴工同盟の事業 此地は加州靴工同盟の支部を有し、市内に於ける同業四十三あり、其他東オークランドに十、アラメダ市に十一、パークレーに十二あり、是等はオークランド支部の範圍に屬せり、其組織等に付ては桑港市の記事に記載せるを以て之を畧す。

パークレー市 オークランドの北に接續して別に一市街を爲し、土地高燥、風景頗る佳なり、人口二萬、加州大學の所在地として其名を知られ、日本人學生の此地に來りて、労働の傍ら勉學するもの少からず、市内に於ける日本人の居住者は、概數八百にして、内四十人を獨立營業者とし、他は學生または労働者と爲す、更に之を細別せば、リッチモンドの製造所に労働するもの百人、養鶏業に従事するもの二十三人、市内に在りてデーウオークに従事するもの五百人、學生の労働する百五十名以上あり、市内營業者には、醫師一、産婆一、保險業一、商店三、洗濯業四、花屋二、洋服屋五、湯屋床屋三、玉突場二、菓子屋一、旅館及貸ルーム業二〇、豆腐屋一、靴工一〇あり。

パークレー日本人會は、明治四十年十月一日、パークレー日本人協議會の名を以て起りたりしが、四十二年之を麥嶺日本人會と改め、現時二百二十五の會員を有し、幹事には埼玉縣人川邊喜三郎

わり、其他常議員には、野村喜三郎、印東鈴二郎、手塚小彌太、畑中貞喜、藤中二郎、彦枝仁三郎、永井元、野阪滋明、岩崎市太郎、高橋千代吉、谷口要助の十一名あり、其他の團體にはフレンド教會、麥嶺基督教青年會、ユニオン教會、美以教會講義所、青年會英語學校、大學生俱樂部等あり。

△加州大學 北米合衆國西部に於ける一大學にして、其盛なる事、遙かに東部に於ける、ハーバード、エールの諸大學と相對立し、之を凌駕せんとするの勢あり、現時學生の數三千、教師の數四百人あり、千八百五十三年の頃、ヘンレー、ドユランドの創立せるものにして、千八百五十五年加州政廳の公認する所となり、千八百六十九年州立加州大學となり、以て今日に至りたるものなり、日本人にして此大學を卒業し、學位を授與せられたるもの三十四五名にして其姓名の明なるもの左の如し。

學位	卒業年	姓	名	現住所	學位	卒業年	姓	名	現住所
醫學士	一八八七年	小林	三郎	(不明)	工學士	一八九八年	平岩	爲吉	(米國)
醫學士	一八八七年	渡邊	鼎	(不明)	工學士	一八九八年	早川	流平	(日本)
醫學士	一八八九年	川上	政安	(不明)	醫學士	一九〇〇年	宮部	唯太郎	(死亡)
工學士	一八九五年	曲尾	辰次郎	(日本)	齒科 醫學士	一九〇〇年	大原	勝太郎	(日本)

哲學士	一八九六年	荒田	武郷	(日本)	工學士	一九〇〇年	柴田	米次郎	(死亡)
工學士	一八九六年	山本	新次郎	(清國)	文學士	一八九八年	柳澤	ユナ	(日本)
醫學士	一八九六年	勝木	市太郎	(布哇)	文學士	一九〇一年	根來	源之	(布哇)
醫學士	一九〇一年	久野	芳三郎	(米國)	法學博士	一九〇三年			
文學士	一九〇二年	中内	光則	(死亡)	文學士	一九〇四年	藤田	貞次	(日本)
工學士	一九〇二年	村上	藤吉	(日本)	工學士	一九〇四年	酒井	安次郎	(米國)
理學士	一九〇二年	田村	政隆	(日本)	工學士	一九〇四年	福田	録三郎	(米國)
工學士	一九〇二年	田邊	太一	(日本)	工學士	一九〇四年	眞田	清吉	(日本)
文學士	一九〇二年	西川	光太郎	(日本)	文學士	一九〇六年	吉見	正	(死亡)
文學士	一九〇二年	中野	力人	(日本)	商業學士	一九〇六年	久保	寛	(日本)
工學士	一九〇三年	田中	啓次郎	(清國)	文學士	一九〇六年	川崎	寛語	(米國)
工學士	一九〇三年	加藤	儉次郎	(米國)	商業學士	一九〇八年	青木	儀市	(米國)
齒科 醫學士	一九〇三年	朝比奈	藤太郎	(日本)	文學士	一九〇九年	熊谷	知一	(米國)
醫學士	一九〇三年	高田	喜三槌	(米國)					

而して現在學生は二十四名にして、内社會科學科十一名、工科八名、商科二名、齒科二名、農

科一名あり。

アラメダ市 オークランド市の南に位置し、長さ五哩、幅一哩の半島地、之をアラメダ市と爲す、また戸口稠密の市街地にして、市内土瀝青の道路七十哩、舗石の側道九十哩あり、電車及び汽車の便備はり、對岸に桑港の大都市を有するを以て、此地また之れが邸宅地たるの便宜を備へ、桑港との間特別に一の渡船場を有し、防波堤の長く海中に突出せるあり、明治四十二年六月現在にて日本人の市街居住者の數三百三十六人、之に附近農園地の居住者を合して、七百餘名に達す、市内居住者中、家屋掃除、庭園労働者最も多く、營業者には、商店二、醫師二、製麵所一、自轉車店一、切花屋一、魚店一、洋服屋三、洗濯所四、湯屋三、床屋二、旅館二、桂庵二、玉突場三飲食店四、靴工十あり、亞市商店、後藤商店等は其中營業稍盛なり。

アラメダ市日本人會は、明治三十八年の創立にして、現時二百八拾名の會員を有し、會長に、林廣吉、副會長に伊藤佐太郎、會計に赤木良作、森本寅太郎、幹事に宮崎良太郎あり、其他に評議員二十八名を置けり、亞市日本人教會、亞市青年會、小學校及幼稚園は、ジエナビスタアベニエーにありて、日本人教會は、大分縣人柳原直人を牧師とし、小學校及幼稚園は、福岡縣人大庭正治の經營する所にして、二十名の生徒あり。

『デコート』 桑港より二十五哩、ヘーワードの南にあり、日本人の赤茄子を栽培するもの多く、

農家凡そ十戸あり、此邊の地、一エーカーの借地料拾五弗乃至貳拾弗にして、明治三十九年神奈川縣人鳥海某始めて此地に入り、爾後遂かに日本人農家を増加するに至れり。

『アルバラド』 デコートの西にあり、アラメダ郡南部の小市街にして、附近の鹽田に日本人の労働するもの多く、十人以上の労働者を配下に有する管理者の數九十人以上あり、彼等はニューアーク、マウントエデン等の諸方に散在し、時々此地日本人市街地に來りて其用を辨するを常とす、明治三十三年始めて日本人市街地の萌芽を生じ、現時の營業者には、旅館兼料理店四、商店三、玉場二、理髮店一、洗濯屋一あり、日本人の戸數は凡そ二十五戸、就中松本商店は資本壹萬弗にして一年の賣上貳萬五千弗と稱す。

アルバラド日本人會は、北はサンレアンドロ、東はテスラ、南はウオームスプリング等の地を包轄して、會員二百人を有し、理事に田中米吉、幹事に西貞助、他に四十名の評議員あり。

此地には、加州第一の製糖會社あり、資本金貳千萬弗にして、五千英町の砂糖大根園を所有す、日本人の此會社と契約して砂糖大根園を耕作するものあり。

其他の日本人所在地

其他『キャストロバレー』に日本人の野菜園經營者四人、借地九十英町、養鶏業者四名、借地十七英町あり、『セントピル』はナイルスの西にありて、赤茄子及び砂糖大根を作るもの多く、『ナイ

ルス』は苗木栽培事業の盛なる所にして有名なる加州苗木會社あり、廣島縣人田中米吉支配の下、日本人労働者二十三名此内にあり、『サンレアンドロ』は、オークランドより八哩の南にして、人口五千を有する市街地にして、福住花園、末安花園の外、二三の農業者あり、『サンロレンゾ』は其南に接して西原花園の外七八名の農業者あり、『ヘイワード』はサンロレンゾの南に接續して、鹽濱労働契約、養鶏業等を爲すものあり、『マウントエデン』は最も鹽濱労働者の多き地方にして、其収入少からず、『ニューアーク』『アービングトン』『ブレザントン』の地また一二の労働契約者あり、其他『テスラ』の炭鐵また日本人労働者數十人あり、然れども是等の地、未だ日本人社會を形成せるに非ずして、之を發展地として記載するの價わらず。

(二)コントラコスタ郡

ステージ コントラコスタ郡中、日本人の事業地としては、只だ一のステージあるのみ、此地はパークレー市の附近にして、市と相距る事七哩なり、最近發達の速なる地にして、日本人の花園業を營むもの多く、土地のアラメダ市附近エルムハースト等の地に比して廉價なると、氣候の花園業に適せるを以て、其事業有利なりといへり、今自ら土地を所有して花園業に従事する者の姓名を列記すれば左の如し。

- 鍋田彌太郎 (和歌山縣) 十英町 足立伊三郎 (岐阜縣) 三英町
- 鍋田豊吉 (和歌山縣) 十英町 足立貞次郎 (岐阜縣) 三英町

- 大石徳太郎 (兵庫縣) 四英町 古田仙之助 (和歌山縣) 二英町半
- 前田熊吉 (大阪府) 一英町半 大石誠告 (兵庫縣) 二英町半
- 杉山源之助 (和歌山縣) 一英町半 酒井厚太郎 (兵庫縣) 二英町半
- 伊丹兄弟 (岡山縣) 二英町 犬飼久太郎 (岡山縣) 二英町
- 間山武一 (青森縣) 一英町半

第五節 灣北三郡及サンマテオ郡日本人發展地の調査

灣北三郡とは、金門海峡及びサンバプロ灣の北に方れる、三郡を指示せるものにして、メーリン郡、ソノマ郡、メンドシノ郡を一括して、之を記載せんが爲めに假に名けたるものとす、メーリン郡は桑港對岸の半島地にして、ミルバレー、サンラフェル、チズロン、サウサリト等の地、日本人の居住するものあり、然れども多くは、單純なる労働者の散在するに過ぎずして、重要な發展地と云ふべからず、就中サンラフェルに於ける日没洗濯所、チズロンに於けるチズロン洗濯所の如きは、其事業の大なるものと稱せらる。

(一) ソノマ郡

ソノマ郡は、東はナツバ、レーキの二郡に接し、北はメンドシノ郡に界し、南はメーリン郡及びサンバプロ灣に濱し、西は太平洋に面す、人口五萬五千、降雨の量三十吋、土地高燥にして、牧畜

養鶏、果樹の栽培に適せり、物産には、葡萄、桃、レモン、ブルーム、梨、櫻、林檎、蜜柑、胡桃、橄欖、杏、無花果、アーモンズ、クイーンズ、ニークタリン等あり、ハツブスは此地方重要物産の一に數へらる、郡内葡萄の産額、明治四十二年に於て四萬噸に達し、葡萄酒の醸造數額五百五十萬ギヤロン、其價額百參拾七萬五千弗に上れり、日本人發展地として數ふべきもの左の如し。

「ペタルマ」郡の南境に近く、サンタローザに次で、郡内の繁榮地なり、此地は、全米國中、最も養鶏業の盛なる地にして、日本人の此事業に従ふもの少からず、今此等養鶏業者を擧ぐれば左の如し。

- 三島 森太郎 (福岡縣) 家畜 五千羽
- 三吉 彌十 (廣島縣) 家畜 七百羽
- 的場 多吉 (廣島縣) 家畜 七百羽
- 田村 某 (廣島縣) 家畜 七百羽
- 末岡 豐太郎 (山口縣) 家畜 千羽
- 中堀 虎吉 (廣島縣) 家畜 千羽
- 松田 某 (廣島縣) 家畜 百五十羽

「サンタローザ」郡の首都にして、人口一萬二千五百、桑港を距る事五十哩にして、市街整然、商業繁華なり、市内に六小學校、三十六ヶ寺、一高等學校、二専門學校あり、氷、麵類、大理石毛織、手袋等の製造所、及び二個の日刊新聞社あり、此地日本人の事業としては、長澤鼎の經營せるフアンテン、ベニヤード會社の葡萄酒醸造事業は、廣く人の知る所にして、サンタローザの名は、之あるが爲めに、よく日本人社會に記憶せらる、現時此地にある日本人は百人内外にして、

て、市内營業者には、商店二、旅館三、洗濯所一あり、土地所有者一、所有地二千英町、現金借地者三、借地百五十五英町、受負耕作者十三、作地六百一十一英町あり。

ソノマ郡日本人會はソノマ郡及びメンドシノ郡の日本人社會を管轄し、本部をサンタローザ市に支部をメンドシノ郡ユカヤに置く、明治三十九年ソノマ同志會として起りたるものなるが、明治四十二年一月二十六日日本人會と改め、會員四百六十九名を有し、理事に田口惣次郎、中島民造、兒玉善三、會計に島田權三、古田權三、幹事に吉田義雄、他に二十五名の評議員あり。

△フアンテン、ベニヤード、カンパニーの葡萄酒醸造事業 加州日本人社會の事業として牛島の馬鈴薯事業と共に、其規模の大なるを以て知らるゝものを長澤翁の葡萄酒醸造事業と爲す、此事業は創業の年月已に久しく、其基礎の鞏固なる事、他と其類を異にせり、現時此會社の所有地二千英町にして、内葡萄園八百英町あり、平時一千五百噸以上の葡萄酒を貯藏し、明治四十二年の醸造高二百六十噸なり、販賣所を紐育市に置き、堂々たる一個の事業なりとす、醸造場の設備は、頗る宏大なものにして、一見其事業の偉大なるを知るに足れり、全部を葡萄酒醸造場シエリーワイン醸造所、アルカホール製造所、冷蔵室等に分ち、其内に設置せる酒槽は、大なる鐵輪を施したる木桶にして、三千ギヤロン乃至一千ギヤロンの容量を有するもの百十數個、他に二萬ギヤロンのもの二個、二萬五千ギヤロンのもの一個、一萬ギヤロンのもの一個あり、以上は葡

葡萄酒の貯蔵せらるゝものにして、シェリーワインを貯蔵せる酒槽には、四千ギャロンの容量を有するもの六個、一萬ギャロンのもの一個、二萬ギャロンのもの一個あり、葡萄酒及び製造場に使
 用せる傭人平素四十人内外にして、其三分の二を白人労働者とし他の三分の一を日本人労働者と
 爲す、事業に使用する馬六十頭、農具、農屋、及び邸宅の設備皆之に準じ、恰然上流社會に於
 ける米人の生活と擇ぶ所なし、現時此事業は全く長澤翁の經營せるものなれども、創業の際、米
 人ハリスなるもの彼をして此事業を經營せしめ、大に之に助力を與へたるは疑なき事實なり。
 『セバストポール』 サンタローザの西七哩にして、日本人の此地にあるもの二百五十人内外なり、
 市内營業者として、商店一、旅館四あり、現金借地農家七人、借地百一英町、歩合耕作者八人、
 作地四百五十英町、受負耕作者五人、作地三百五十二英町あり、野菜、梅、ハツブス、葡萄を栽
 培す、河村商店は廣島縣人河村仁一の經營せるものにして一ヶ年の賣上高壹萬弗と稱す。
 『フルトン』 サンタローザの北四哩にして、日本人の現金借地者一名、借地八十三英町、受負耕
 作者五名、作地五百二十一英町あり、總てハツブスを産出す。
 『ヒルツバーグ』 フルトンの北十二哩にして、日本人市内營業者一、受負耕作者九、作地八百六
 十二英町あり、『クロバデール』はサンタローザより二十七哩を距て一名の農園受負業者と少數の
 労働者あるのみ。

(二) メンドシノ郡

ソノマ郡の北、太平洋岸に沿へる地にして、土地肥沃ならず、郡内日本人の發展地として『ユケ
 ヤ』の一市街あり、市内營業者として、商店一、旅館一、洗濯所一あり、土地所有者二人、所有
 地十英町、受負耕作者四、作地五百八十七英町あり、土地所有者の姓名は左の如し。

和田象楠(和歌山縣) 五英町(野菜)

村上才八(熊本縣) 五英町(野菜)

(三) サンマテオ郡

桑港灣の西、桑港の南にあり、此地方日本人の發展すべき餘地乏しく、只だサンマテオ市に於て
 少數の市街營業者と二三の花園業者あるのみ、乃ち商店一、洋服店一、洗濯所一、玉場二、料理
 店二、寫眞屋一、靴屋一あり、花園業者は凡て三名にして、他に農園受負業者數名あり。

第六節 桑港附近成業列傳(其一)

オークランド市内の部

△中重榮太郎 鹿兒島縣始良郡敷根村の産にして、明治六年一月生る、曾て郷里の村書記となり、
 後ち宮崎市に於て材木商に奉公せる事あり、已にして事業を海外に爲さんと欲し、決心を一族に
 語り、家累を脱して渡米したるは、明治三十一年四月の事なりしといふ、彼れ上陸するや、問も

なくコンコードの地に入り、居る事一週間にして、オークランドに出で、一時日本人洋食店に労働せしが、岡山縣の人、上野峰作と相知り、彼れの紹介にて、白人洋食店オリンピヤレストランに入り、上野と共に其内に労働する事六ヶ年、主人の之を信用する事深く、二人の友情また離るべからざるものあり、已にして主人の營業を他に賣却するや、上野は之を機として一旦歸國せんじす、中重之を留め、共に洗濯業を開かん事を勸む、二人決心し、乃ちオークランド市第七街に共同洗濯業を開く、當時日露海戦の勝利我に歸し、東郷萬歳の聲、街衢到る所に充つ、乃ち名けて東郷ランドリーと稱し、孜孜として其業務に勉勵す、然れども二人未だ此事業に經驗あらざるを以て、創業後一年間、其困難名状すべからざるものあり、已にして漸く一年半を経過するや、初めて成功の曙光を認むる事を得、一ヶ月貳百弗の利益を見るに至り、爾後漸次に増して、四百弗に達する事を得たり、是に於て、上野峰作は、成功の錦衣を着して歸朝し、中重は其弟榮藏と共に其事業を繼續して今日に至れり、現時一ヶ月の純收入四百五拾弗にして、オークランド日本人洗濯業者の内、最も利益あるものとせらる、彼は此外に於て、マーケット洗濯會社の株券百八十株を所有し現に其社長に推され、また王府消費會社の大株主として、其社長に擧げられ、且つ王府洗濯同盟會の會計、鹿兒島縣人會會計、王府日本人會參事員、王府佛教會評議員を兼ね、また以て彼れが現時に於ける聲望を知るに足らむ。

△岡田鶴三郎 廣島縣豊田郡東生口村の産にして、明治九年一月生る、明治三十一年五月一日、桑港に上陸し、直ちにアラメダ市に至りて白人の家庭に入り、労働の餘暇を以て、小學校及び教會に通學して英語を修む、初め一週間の給料五拾仙なりしが、一ヶ月の後壹弗五拾仙となり、一年にして月給拾五弗となり、斯くして三年を経過す、已にして其仕ふる所の主人、ハリスの鑛山探検の爲めにロッキーマン地方に赴くや之に従ひ、山地を跋涉して鑛物試験の補助等に從事し、主人の家に歸るや、また其家庭内の労働に従ひ、以て明治三十八年に至れり、此前後六ヶ年間、彼の精勤は普通人の企及すべからざるものあり、此間に於て彼れ曾て一日、一時間だに休息したる事なく、其受くる所の給料は、一ヶ月五拾弗に進み、山地出張中は、特に七拾五弗を支給せらる、其謙遜にして勇氣に富み、忍耐事に怠らざるは、深く主人の信用を得るに至りたるや知るべし、已にして之を辭し、明治三十八年、貯蓄金參千四百五拾弗を以て王府第七街に洗濯業を開き、毎月の借家料四拾弗を拂ひ、傭人二十五人を使用し、以て其營業に従事せしが、開業以來一年の間業務困難なりしも、漸次其利益を見るに至り、二年にして、一ヶ月の總收入千七百五拾弗に達したり、而かも當時日本人同業者の増加するや、職人の使傭に競争し、其弊害甚しきを以て、彼謂へらく、寧ろ之を會社組織と爲し、大規模の下に、異人種との競争に當るに如かずと、乃ち同志の賛成を求め、明治四十年資本金五萬弗の株式會社を創立するに至れり、然れども時恰も米國

經濟界の恐慌に際し、此會社もまた其影響を受け、一ヶ月の損失參百弗乃至八百弗に達し、事の不安なるを以て、重役は散去し、株金の拂込を爲すものなく、會社は遂に七千八百弗の負債を積み、其運命風前の燈火も管ならず、當事者たる彼等は、日夜寢食を安んぜず、焦慮苦心の末、其善後策を小野萬次郎、上野恭三郎に諮り、二人深く其心事に同情する所あり、乃ち相共に再興の計畫を定め、株主を促して直ちに株金の拂込を爲さしめ、漸く其艱關を經過する事を得、明治四十一年六月以來、初めて其利益を見るに至り、爾後益隆盛の氣運に向ひて、現時一ヶ月の收入四千餘弗、明治四十二年度の純利、優に四割に達したるは、實に意外の成功なりと云はざるべからず、彼れ會社の株百七拾株を所有し、現に其副社長として職務に當り、加州日本人洗濯業者の成功家として知らる。

△上野恭三郎 岡山縣吉備郡泰村の産にして、明治十二年三月生る、兄を峰作と稱す、明治三十年渡米し、偶々中重榮太郎と相知り、共に東郷洗濯所を起し、夙どに加州洗濯業者中の成功者として知らる、恭三郎は明治三十三年渡米し、初め家内の勞働を爲したりしが、後ち桑港及び羅府に於て、洗濯所の勞働に従事し、經驗を積む事尠ならず、是に於て兄峰作の共同事業たる東郷洗濯所に入りて其職工長と爲り、熱心其事業に當りて、周圍の信用を得る事深く、事業大に隆盛なるに至れり、已にして岡田鶴三郎の經營せるマーケット洗濯所の業務困難に陥り、其運命旦夕を

測るべからざるを知るや、深く同情の感を生じ、其兄峰作の歸朝中なるに拘はらず、身を投じて其間に斡旋し、一洗濯所の破産は、延て一般の同業者の不利益となり、白人同盟をして、輕侮の念を生せしむるに至らん事を説き、周圍の義氣を喚起して以て、倒瀾を挽回し、該會社をして遂に今日の隆運を爲さしむるに至れり、會社の成立後、彼れは、東郷洗濯所を中重兄弟の自營に任し、自らマーケット洗濯會社に入りて其支配人となり、現時會社の株二百株を所持し、副社長岡田鶴三郎を助けて實際の業務に當れり、其意志の健全にして、業務に熱心なるや、よく二ヶ所の洗濯所をして今日の盛況を爲さしむ、また在米同胞社會の一人材と云はざるべからず。

△青木實治 長野縣小縣郡東内村の産にして、明治六年二月生る、幼にして父病床に臥し、藥餌を友とする事十三年、實治二十歳の時、終に溢然として易簀す、彼れ此間、艱難辛苦を嘗め常に雪中、山に入りて木を伐り、以て一家の生計に資す、後ち酒及び蠶種販賣を業とせるが、其弟青木長次郎、明治三十一年渡米し、米國の事情を通信して兄の渡米を促すや、乃ち明治三十五年、三弟軍次郎と共に渡米し、初め諸種の勞働に従事せしが、明治三十八年同縣人金澤某王府に於て蠶種製造業を始め、其事業を共にせんことを勸むるあり、彼れ之に應じて其共同者となりたるも、當時二人未だ充分の資本を有せずして、必要なる器械も之を求むるに由なく、只だ自己の腕力を以て僅かに其車を運轉し、普通八人の力を要すべきものを、一人にて之に當りたるが如き

殆んど常人の及ぶ事能はざる所を爲したるなり、當時弟長次郎は、彼等の苦闘を自撃するに忍びず、遂に百五十弗を出して之を助け、二人は之に依て電氣力を使用し、始めて器械製の干餾餿を製出する事を得、斯くて其年末に於て、金澤夫婦と三人の利益配當、各々二十八弗を得たりといふ彼等は創業當時、極度の節儉を爲し、六ヶ月間の飯料、米一袋を費したるのみにして、他は餽餼屑を食し、咖啡の飲用は毎週二度と定め、彼等は、僅かに一週に一度、相伴ひて十仙ミールの洋食店に至るを無上の恩藉と爲したるなり、以て其苦闘の一斑を知るに足らん、斯くて桑港は災前に至るや、餽餼の販路大に開け、信濃商會の名、其弊價を得るに至れり、乃ち弟長次郎は明治四十年歸朝して其家族を綱め來り、一家八人茲に家庭の團樂を爲す事を得たり、已にして信濃商會は翌四十一年一月、金澤との共同を解きて青木の單獨經營と爲し、現時四十餘弗の借家料を拂ひ、三臺の製麵器械を据え、干蕎麥、支那人専用の餽餼等を製出し、一年の製造高五千箱、價額壹萬貳千弗に上れり、彼れ身軀強壯、能く業務に堪え、一家事業に勵精し、資産を積む事少からず、現に王府消費株式會社の取締役として會計を兼ね、王府長野縣人會の會長たり、弟長次郎は曾て桑港福音會の幹事及び聖公會の幹事に推されて、熱心に基督教の傳道に従事し、千九百六年サンマテオの神學校を卒業し、後ち聖公會の牧師となり、明治四十二年二月まで其職を勤めたり、品性廉潔、宗教家たるの資格に適し、白人の信用を有す、三弟軍次郎は眉目清秀の才子、メ

ーリン郡コンチマデラのアーチデーコン、エモリーの女と結婚するに至る、是れ排日熱の熾なる加州白人の驚動せる一事件として世に喧傳せられたる所のものなり、長女貞江は、明治四十年郷里上田高等女學校を卒業し、來りてまた父の家業を助け、彼等一族の如き、一家を擧げて海外に奮闘せるもの、以て同胞社會の一美事と稱せざるべからず。

△増田寅三郎 熊本縣上益城郡瀧尾村の産にして、夙に熊本市に出で、藥舖に勤むる事三年、明治二十五年三月渡米し、一時スクールボーイとして勞働し、後ちサクラメント附近ハツプスの摘採を請負ひ、更にオークランドに出で、白人の家庭に勞働する事半年、後ち同市に於て有名の藥舖オスグードのボーターとして勞働を繼續すること六ヶ年、初め一週間六弗の給料なりしが、漸次に増給せられて十弗の給料を受け、蓄積する所少からず、明治三十年獨立して、旅館、湯屋理髮店及び桂庵業を始め、其後二年にして食料雜貨の販賣店を開き、日夜奮勵して營業に従事し、毎夜十二時に至りて寢に就くを常とし、斯の如き事十二ヶ年、明治三十二年、更らに巻烟草の製造を爲したるも、米西戰爭に際し、課税の高きを以て之を廢し、現時専ら商店の經營に従事す、商店一ヶ月の借家料百弗、一年の賣上六萬弗あり、オークランド日本人街最初の營業者にして、其事業の最も盛なるものとす、曾て王府貯蓄銀行の起るや、推されて其頭取となりたる事あり、現時王府日本人會の副會長たり。

△福本清作 山口縣熊毛郡麻郷村の産にして、明治十年七月生る、明治三十六年渡米して、ツイクトリヤに上陸し、スクールボーイとして労働の傍ら英語を學ぶ事半年、其れより桑港に來り、白人ホテルに労働する事三年後ちサクラメントに至り、第三街にパンフィック洋食店を開き、之を營業する事一年餘、更らにオークランドに來り、一時中島森三郎の經營せるワシントン洋食店の料理人として労働し、市内の事情に通じたる後ち、明治四十年四月、第八街オリエンタル洋食店を譲受け、資本金、千餘弗を投じ、之を營業して現時に至れり、此洋食店は、一ヶ月の借家料九拾弗にして料理人其他五人の傭人を使用し、一年の總收入壹萬八千弗にして、王府日本人洋食店の最も盛なるものとせらる、明治四十三年、同志と山口縣人會を組織し、其委員に擧げらる。

△鈴木貫一郎 三重縣鈴鹿郡牧太村の産にして、明治十三年三月生る、十八歳の時、伊勢四日市大島屋といへる洋服店に入り、其技術の見習を爲す事五ヶ年、明治三十二年鈴木友三郎と共に、横濱市元町一丁目洋服裁縫店を開きたりしが、三十六年七月、友人石割種次郎と共に渡米し、彼れは王府の洋服店山下喜次郎に就きて洋服の裁縫に従事し、一年を経て、紐育市に至り、カツチングスクールに入り、數ヶ月にして之を卒業し、洋服裁縫實地練習競技の際、デリー、オレリー商會の店主より褒状を受く、是れ日本人洋服裁縫師として未だ前例を見ざる所とす、已にして明治三十九年二月再び加州に歸り、石割と共同して、オークランド、テレグラフ街にイースタ

ンテラーといへるを開業し、盛に白人向きの洋服を調達し、頗る盛價あり、曾て桑港夕刊實業新聞の十二傑を投票するや、洋服業者として其選に當る、後ち石割は衣服研究の結果、自ら其業を開かむとして、彼れと分離し、其去るに臨んで曰く、イースタン洋服店の今日ある、鈴木力また實に多きに居れりと、爾後此洋服店は鈴木の一獨にて經營する所となり、現時數人の職工を使用し、一ヶ年九千弗の收入あり、王府市内電話局及び銀行等に多く白人の華客を有し、其技術の精妙なる、彼等の賞讃する所たり、彼れ年齒少壯、最も事業に熱心し、常に外字専門雜誌を購讀して、新知識の研究に努め、特に米國西部に於て、同胞社會の新職業範圍を擴張するを以て其理想とするもの、如し。

△鹽澤徹四郎 群馬縣邑樂郡館林町の産にして、明治十八年五月生る、父を良太郎と稱し、館林舊藩士たり、幼にして東京に出で、神田區美土代町、岡本洋服店に入りて、洋服裁縫業を見習ひ、之に従事する事數年、明治四十年七月渡米し、斯業に付て研究する事一年、明治四十一年三月、自らオークランド第九街に日米洋服店を開き、現時盛に其營業に従事す、店舗一ヶ月の借家料四拾餘弗、常に數人の職工を使用し、一ヶ年の收入六七千弗に上れり、階上に附屬の娛樂室を設備し、千餘弗を投じて、繪畫彫刻の美術品、和洋の音樂器等を備へ、公衆をして自由に入出し高尚なる慰藉を受けしむるを目的とす、常に社會の風潮に率先し、敏捷其事務に當れるを以て、

營業日を遂ふて、繁榮し、日米洋服店の名、廣く世に知らる。

△高橋清壽 福岡縣嘉穂郡穂並村の産にして、明治十五年生る、兄弟三人あり、長兄を榮といひ次を益美といふ、益美は明治三十年を以て渡米し、清壽は三十三年、榮は三十八年を以て渡米す、二兄皆勤勉なる勞働者として蓄積する所少からず、清壽初めタコマより加州に入り、アラメダ、及びラスラ等に於て家内の勞働に従事し、後ちオークランドに出で、居る事三年、勞働の傍ら土地の事情を視察し、後ちサンバゴ街に食料雜貨店を開きたりしが、一年の後果物及野菜店と爲し、盛に營業に従事し、一年の賣上壹萬弗に達す、事業の規模固より大ならずと雖ども、其營業の確實にして純益の大なる事言を俟たず、次兄益美は四十一年を以て歸朝し、長兄榮は現時白人の内に任務を有し、間接に彼れの助力者たり、性忠實にして白人顧客の信用を得る事深く、現に王府嘉穂郡人會の幹事たり。

△上野吉鷹 和歌山縣和歌山市の産にして、明治十五年生る、家代々料理店を營む、彼れ十八歳のとき、臺北市に至り、衛生軒といへる料理店に入り、後ち同地憲兵分隊長のコックたりし事一年、明治三十六年渡米して砂市に上陸し、兄川口章藏、フレズノ市に洋食店を經營せるを以て、行て其事業を助け、三十七年十月桑港に出で、パウエル街の白人ホテルに入り、コックたる事一年餘、偶々桑港の震災あるや、ミッシヨン街の附近に天幕を張り、資本金叁拾弗を以て東郷洋食

店を開きたるに、三ヶ月の間、一週間貳拾餘弗の純益を得たり、已にして市の禁令に依りて之を廢し、ジャクソン街に千貳百弗の資本を投じて一の洋食店を開き、傭人七人を使用して盛に營業に従事し、一ヶ月貳千弗の收入を得、營業八ヶ月にして、其資本の全部を償却したり、已にして其義兄王府おづま亭の主人東安之助の歸朝するや、洋食店を他に譲りて、オークランドに來り實弟東榮吉と共に該料理店を引受け、之を營業して現時に至れり、おづま亭なるものは、始め第八街にありしも、後ちフランクリン街に特別の借家契約を爲し、現金五百弗を擔保として、新に二萬弗の建築を爲さしめ、三千餘弗の設備費を投じて之に移りたるものにして、王府第一流の日本料理店と稱せらる、其姉東つるえは乃ち先營業主東安之助の妻にして、夙に嬌名を知られ、桑港震災後、壹萬弗の貯蓄を得て郷里和歌山に歸り、現に八千圓の織機器械を備へてネル製造の事業を爲しつゝ、わりといへり、此人氣ある料理亭を經營するに、彼れ等兄弟の經驗ある手腕を以てす。營業の盛なる偶然にあらす。

第七節 桑港附近成業列傳 (其二)

農園事業家の部

△堂本兼太郎 桑港に於ける北米貿易會社の社長堂本譽之進の弟にして、慶應三年六月生る、

明治十七年渡米し、一時桑港に在りて勞働に従事せしが、植木事業の有望なるを看取し、兄と謀りてメルローズの地に入り、土地を借りて花園を始めたるが、起業以來三年の間、心身の全力を之に盡し、而かも毫末の利益も之を得る事能はず、事業の困難なるを嘆じて、中途之を廢せんとしたる事一再に止まらず、已にして明治二十五年遂に土地を買ひて其基礎を定むるに至り、漸次隆盛となりて、今日の堂本花園を見るに至れり、彼れの事業に興味を有するや尋常に非ず、園藝上より得たる經驗は、彼れが周囲の凡てを解釋せんとするの原則にして、一藝萬藝に通じ、一法萬法を貫けるもの、彼れに於て之を観る事を得べし、兄譽之進の商業に於けるや、剛健の一氣、敵をして走り且つ仆れしむるが如く、彼れの園藝に於ける、天地の自然に順行して、姑息なる作爲を閉却す、眞に好個の對照にして、兄弟の成功、寔に偶然に非ざるを知らむ、彼れの人に對するや、熱誠面に現はれ、奇語警句、舌端より迸るあり、而かも是れ皆彼れが園藝上の實驗より得たる自然の教訓にして、其言頗る聞くに足れり、彼れ大器の晩成を説て曰く「ガムツリーは生長早けれども其質弱く、オークツリーは、生長晚けれども強し」と、是れ彼れが平素の信條にして、また成功の秘訣なり、曾て花園業の利益ある事を説て曰く「花園業が金銀上の利益あるや否やは知らず、然れども此業には由來特種の福德あり、人は宗教家たるよりも、寧ろ植木屋たるに如かず、人生も善なり、而かも世の誘惑に遇ひて曲事を爲すが如く、植物も外部の障礙に

由て、其素性を彎曲する事あり、之を矯正するもの、乃ち植木屋たるもの、任務なり」と更に日本に植木事業の有益なるを説て曰く、植木は、日本人と特に密接なる關係を有す、余は信ず、日本は植木事業を以て將來世界の指導者たるに至らん、白耳義の如きは、最も斯事業の發達せる國なり、然れども其技術の點に於て、彼等は日本人に及ばざる事遠し、若し日本人にして、其職分を自覺し、自然の恩恵の下に、其安價なる勞働賃金を利用せば、世界何れの國か、我國に敵するものあらんや」と以て彼れが園藝に於ける趣味と抱負とを知るに足らん、弟光三郎は、明治四年生る、明治十七年渡米し、兄の事業に参加して、現にフィッチバーグの花園を擔任す、其事業に勤勉なること、また二兄に譲らず。

△鍋田彌太郎 堂本兄弟に次で、花園事業の大なるものを鍋田彌太郎及び鍋田豊吉兄弟の事業と爲す、彌太郎は、和歌山縣那賀郡池田町の産にして、明治二年生る、明治二十五年渡米し、桑港に於て庭園勞働に従事する事四年、已にしてパークレーに入り、花園業を経営する事六年間にし利益を得る事少からず、是に於て、コントラコスタ郡、ステージに土地十英町を買ひ、弟豊吉と共同して、盛に其事業に従事し、堂本花園と共に、加州に於ける日本人の大花園として知らる、初め一英町四百弗の地騰貴して現時一英町三千弗を唱へ、之に大小七棟のグリーンハウスを建築し、石竹、薔薇、菊、百合等を栽培せり、此地方は夏期清冷にして、其氣候花卉の培養に適し、

殊に近時交通の便備はり、人家日を遂ふて稠密ならむとし、將來最も有望の地たり、鍋田花園の成功必ずや、大なるものあるを疑はず。

△鶴岡英哉 愛知縣中島郡萩原町の産にして、安政六年生る、曾て教導團を卒業し、軍籍に列して仙臺にあり、當時我國自由民権の説、朝野を振動し、青年の血之れがために湧き、彼れまた、時代の風潮に激し、政海の功名を思ふに至れり、偶々河野廣中等、所謂福島事件なるものを起すや、彼れ同志七人と此舉に應援して仙臺の獄に投せられ、後ち出獄するや、空論の事に益なきを知り、政海活動の手段を得んが爲めに渡米す、是れ明治十九年の事にして、爾後米國の事情に通ずると共に、漸次着實の進路を開き、已にして明治二十四年歸朝するや、其妻三子を遺して病死す、是に於て思へらく、子孫の長計、之を米國に樹つるに如かず、古人三槐を墓前に植えて子孫の榮達を期したるものあり、我家また宜しく將來の米大統領を出すべしと、即ち號を三槐と稱し、明治三十一年再び渡米し、現時アラメダ郡エルムハーストに於て、花園業を經營し、所有地二英町半、時價八千弗を稱し、グリーンハウス四棟を有し、同胞花園業者中の有力家たり、子女六人、三子は米國に籍を有し、其花園業を創めたるは、乃ち子女教育に重きを措ける所以なりといへり、彼れ老來體軀剛健、氣力の旺盛なる事壯者を凌ぎ、公衆の席上、雄辯人をして敬聴せしむるものあり、また一種の人傑と云はざるべからず。

△大石徳太郎 兵庫縣多紀郡笹山町の産にして、明治二年生る、曾て第三高等中學を卒業し、明治二十三年渡米するや、労働者を率ゐてサクラメント地方に入り、一時配下に集まれる労働者百十數人に達す、已にして明治二十七年サンノゼ地方に至り、植木業を經營し、傍ら同志を集めてアルピソ、アグニユー、エデンビルの三ヶ所に、日本村を建設し、莓及び果物園を經營し、其借地三ヶ所を合して四百五十英町に達す、已にして此地方果物生産者と鐘詰業者の間に利益の争を生じ、鐘詰會社は、同盟して原料の買入を停止せるがために、日本村の經營失敗に歸し、彼れは一人其責任に當りて、艱難辛苦を嘗め、遂に五年間を以て其負債を償却し、明治四十一年、コントラコスタ郡ステージに、土地四英町を買ひて花園業を經營し、以て現時に至れり、弟二人あり、大石誠造、酒井厚太郎といふ、別に二英町半の土地を所有して、また盛に花園業に従事す、サンノゼ地方日本人社會の發達今日に至りたるもの、大石の功多きに居るは人の知る所にして、現時在米知名の士にして、曾て彼れの配下に屬したるもの少からず。

△南豊吉 山口縣熊毛郡阿月村の産にして、明治八年生る、曾て商業に従事せしが、明治三十六年渡米し、マウントエデン、ポールドクリーキ等に於て農園及び伐木の勞働に従事し、三十七年四月デコートの地に入り、歩合作にて五拾英町の胡瓜を作りて損失に歸す、然れども彼れ忍耐して其目的を維持し、再び資本を作りて、明治四十年ニューアークに地を借り、野菜を作りて千數

百弗の利益を得、明治四十二年増して四拾英町と爲し、トメトリーを作りて二千五百弗を得、翌四十三年は更らに其事業を擴張して八十三英町のトメトリーを作り、其利益三千餘弗を得たり、彼れ天性正直、農事に精勵し、頗る経験を有して、今や事業の基礎牢として抜くべからず、デコトに於ける農家の成功者として知らる。

△青見兵松 山口縣熊毛郡伊保庄村の産にして、明治六年生る、二十六年晚香坡に上陸し砂市に留まる事半年、後ちポートランドに至りて居る事三年、農園及び薪炭伐出の事業に従ひたりしが、更に英領加奈陀キヤラポリツラツキといへる地に入り、ウエスリバーの附近に砂金の産出地を借區し、人夫數人を使用して其採取に従事したるも、此年早魃して洗滌水に欠乏したるがために失敗を招き、乃ち白人のコックとなり、旅費を得て其所を去り、バンクーバーより、一旦故國に歸り、留まる事一年半、三十五年三月再び渡米し、加州サンノゼ地方に於て農園を契約する事一年、三十六年千英町の歩合作を爲して配下に五十人の勞働者を使用し、豆、赤茄子、胡瓜、砂糖大根等を耕作する事五ヶ年、已にして三十九年デコトに來り初め七英町の地を借りて農業に従事せしが、爾後年々其事業を大にし、明治四十三年に至り、同縣人熊本平八と共同して二百五十英町の地を借り、之に豆、蜀黍、赤茄子、胡瓜等を作り、アラメダ郡野菜業者として最も事業の大なるものと稱せらる、其姉は南豊吉の妻にして、南の農業に従事するや、また彼の助力を

得たる所少からずといふ、性英敏にして剛氣大膽、よく大事業に當るの資質を有す、また將來有爲の事業家と言はざるべからず。

△熊本平八 福岡縣浮羽郡柴刈村の産にして、明治三十五年山口縣柳井町熊本房吉の養子となり三十五年六月妻と共に布哇に渡航し、白人の商店に勤むる事半年、三十六年二月桑港に上陸して、アラメダ郡ナイルスに入り、暫く勞働して後ち、マウントエデンに於てトメトリーを作りて千四百弗を利し、三十九年四月デコト及びサンレアンドロに於て赤茄子及び胡瓜を作り、翌四十一年は利益千七百弗を得たり、已にして明治四十二年以來、青見兵松と共同して盛に農業に従事す、二人共有の馬八頭、農具四千餘弗を有す、青見と共に地方の大農家たり。

△大江初藏 山口縣熊毛郡佐賀村の産にして、明治七年生る、三十二年布哇に渡航し、砂糖耕地に勞働する事三年、三十六年六月桑港に上陸するや直ちにアルバラドの地に入り、鹽田に勞働する事一年、更らに白人の農園に勞働する事五ヶ年、已にして明治四十二年一英町拾七弗の借地料を拂ひて二十六英町の地を借り、之に赤茄子を作り、明治四十三年は増して三十英町と爲し、別に十英町の農園を契約して之に砂糖大根を栽培し、アルバラドに於ける農業界の成功者として知らる、性勤勉にして、事業の基礎最も確實なりといへり。

△田中米吉 廣島縣佐伯郡古田村の産にして、明治三年生る、明治二十六年渡米し、タコマより

ポートランドに至り、マツチ製造所に労働したるが、後ち加州に入り、二十七年四月アラメダ郡
ナイルスに於ける加州苗木會社に労働し、三十四年六月、日本人労働者の監督者として、爾後殆
んど十年間、勤勉一日の如く、以て今日に至れり、平素二十人内外の労働者を使用し、冬季多忙
の時期に於ては百五十人を使用す、性謹直にして社會の信用を有し、現にアルバラド日本人會の
理事たり。

△中島民造 大分縣南海部郡佐伯町の産にして、明治四年生る、幼にして舊佐伯藩主毛利子爵邸
に仕ふる事六年、明治三十一年布哇に渡航し、居る事四年にして、三十六年英領加奈陀に轉航し
加州サンタローザに來りて、一時農園に労働し、已にしてサンタローザ市に洋食店を經營するに
至れり、偶々地方震災のために、市街全焼に歸し、營業者殆んど其事業を失はざるものなきに、
彼れ獨り其火災を免れ、當時一日の賣上百弗に上り、三ヶ月の間七千餘弗の利益を得たりといふ
經營三年にして之を廢業し、明治四十一年以來、現金借地にて荷蘭五英町を經營して以て現時に
至れり、此外に於て年々ハップス園の労働を契約して、配下に労働者を使用する事少からず、サ
ンタローザ附近、無頼の徒少からず、而かも常に公共の事に努め、地方の惡風汚俗に陥らざる、
彼の如きは稀れなり。

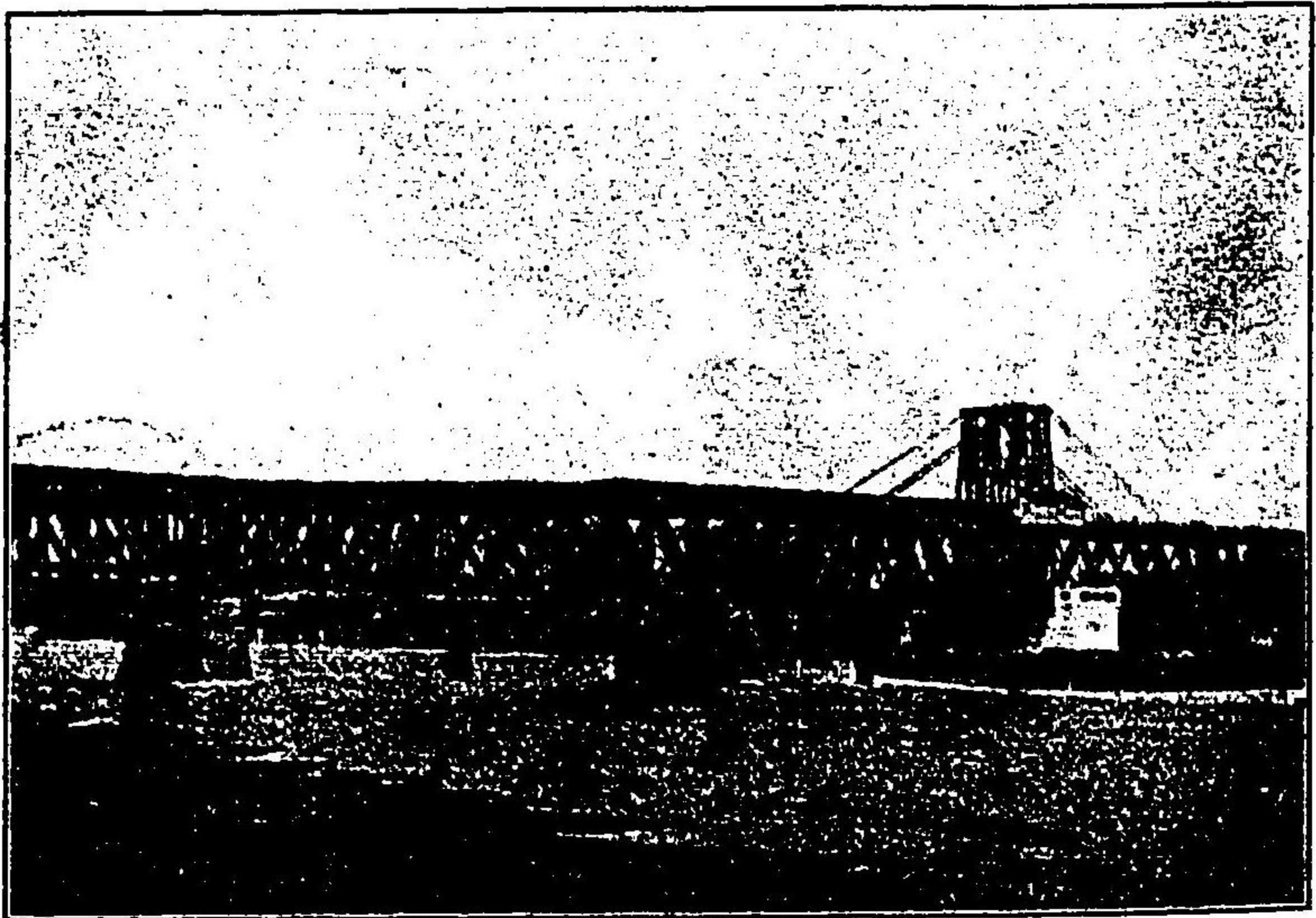
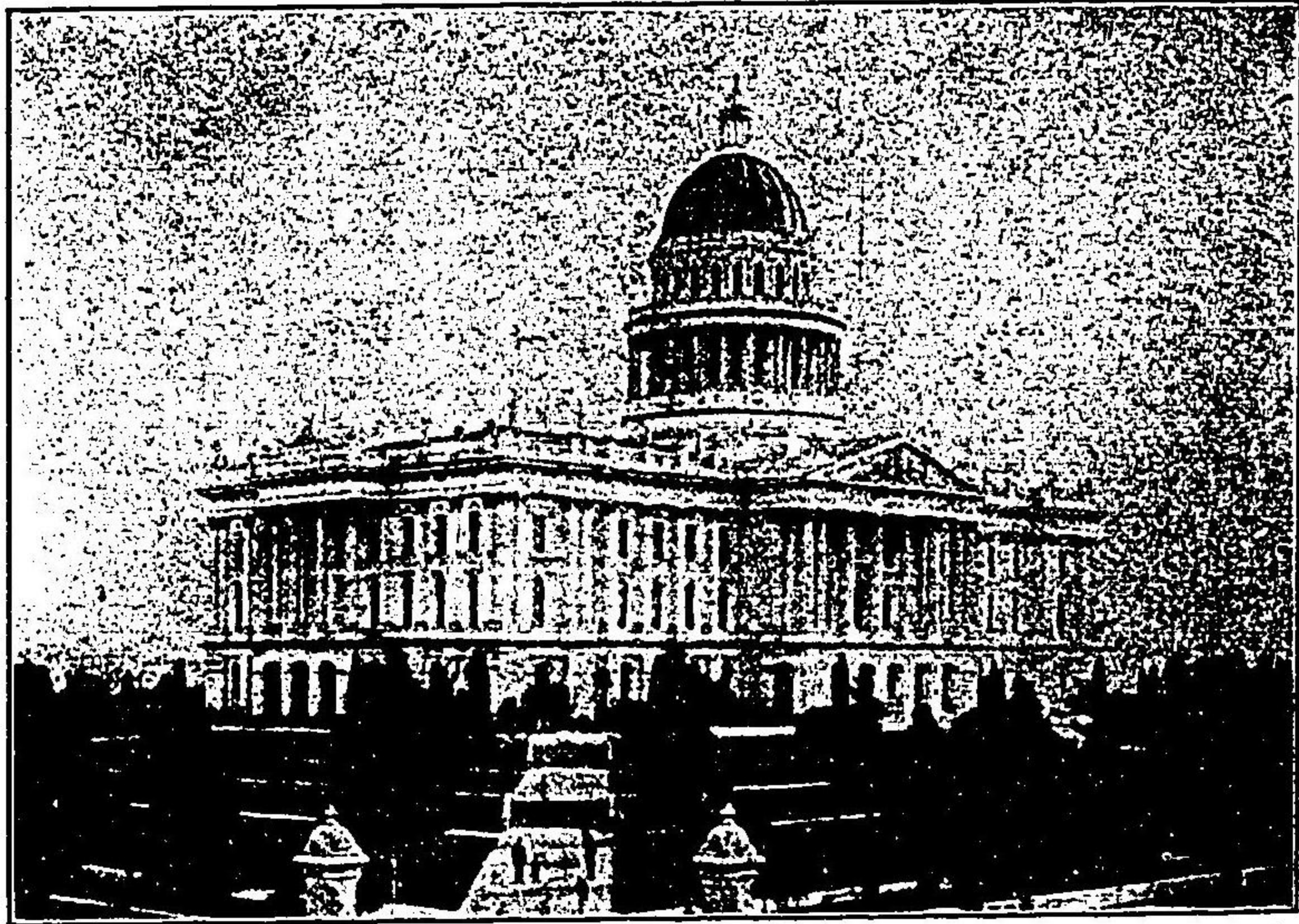
第七章 サクラメント平原の踏査

第一節 桑港櫻府間車窓日記

明治四十二年二月十一日、桑港を發してサクラメントに向ふ、午後五時フェリーデポートよ
り、オークランドへの渡船に乗る、船中玻璃窓を隔て、坐ながら海上の風景を眺望する事を得べ
し、時に細雨霏々として、桑港灣内の水、波少しく高く、對岸オークランドの地、暮雲に隠れて
見えず、顧みればフェリービルディングの高塔、屹立して港頭を壓し、桑港の市街煤烟積糊たり
左はサンパブロ灣の水遠く連り、野羊島の上、標旗の海風に翻るあり、已にして暮色蒼
然たるの裡、灣内を渡航する汽船二隻あり、一は後ろより來りて吾等の乗れるものと相并びて馳
せ、一はパークレーの方面より來りて、吾等の左舷を通過す、何れの汽船にも、電燈花の如く輝
き海上の夕景一段の美觀を添ふ、半時間にして船は棧橋の一端に着し、乗客は此所より專屬の列
車に乗り、已にしてオークランドの市街に達するや、余は此所に下車し、電車を取りてパークレ
ー市に向ふ、時に降雨車軸を流すが如く、周圍の光景夜暗に没して、時々街射る電燈の、兩
脚を照すを見るのみ、九時パークレーに達し、一の旅館に投ず。

二月十二日 降雨殊に激しく、雨水街上に氾濫し、通行の電車、水を切りて進行するの光景うた

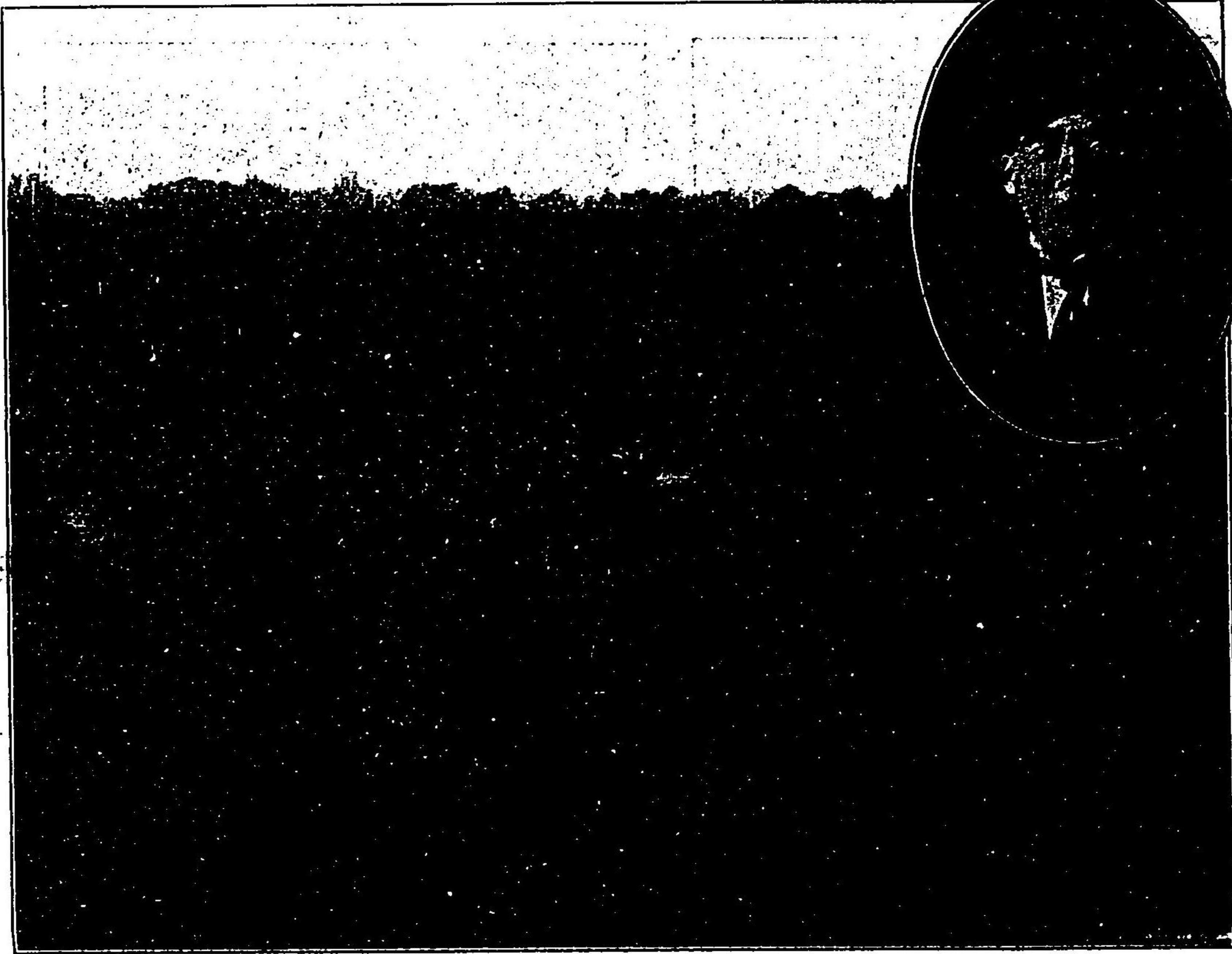
薩州加るけ於に市トメラクサ



(りあ機轉廻に央中) 橋大の市トメラクサ

た凄然たり、午前十時雨を衝て電車に乗り、オークランドに歸る、途中雨少しく止み、兩三日の間、絶えて見ざりし日光、微かに雲間を洩れ、街上の樹葉殊に鮮かなりしが、此光景は暫時にして止み、再び暗黒の雲周圍を鎖し、重雨鉛の如く、下界を壓し來りて、陰鬱の氣言ふべからず、十時三十分オークランドに着し、午後三時エスピー列車に搭じてサクラメントに向ふ、時に大雨漸く止みて、桑港灣内の雲霧れ、夕陽微かに附近の島山を射る、汽車サンパブロ灣の岸に出づるや、窓外黄波の漫漫たるあり、ウニストパークレーを離れてより、丘陵の春雨餘の緑色を増し、山崖雨に崩れて、民家の砂石に埋もれたるあり、パレオジャンクションに達すれば、海灣漸く縮まりて、對岸の翠色暮烟を帯び、風景頗る佳美なり、ポートコスタに到れば、海水いよいよ狭くして、小瀬戸の兩岸、呼べば答へんとす、丘陵の下人家あり、岸邊の舟に、人の棹すものなし、小瀬戸の對岸は乃ちベニシヤの地にして、夕陽を帯ぶる浦村の光景、恰も故國海濱の漁村に似たり、汽車は此所來りて速力を緩にし、小瀬戸を渡す連絡船ありて、其上には複線の鐵道を設け、吾等の乗れる列車は、荷客を積みたるまゝ、靜かに此汽船の上に置かる、是れ未だ我故國に見ざる渡場の装置にして、交通機關の發達せる米國には、所々に斯の如き至便なる連絡法を用ふるなり、斯くして船は徐々として棧橋を離れ、余等は同時に汽車と汽船とに乗りて送られたるあり、偶々二三の少女、列車より出で、船の甲板上に遊戯す、乗客の中、また列車を

ヨロロ郡 駒野清治郎と其經營せる梨園

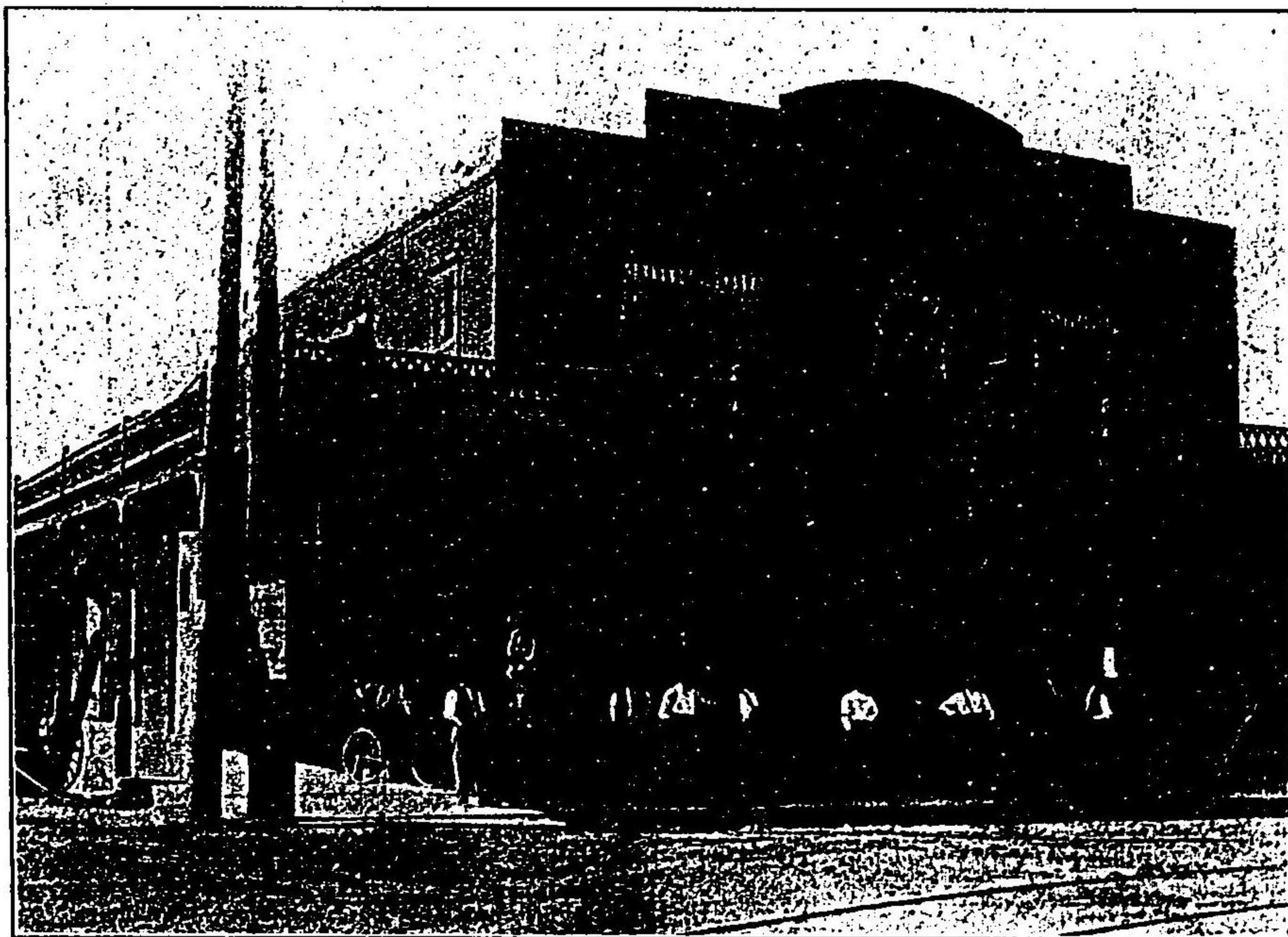


ブンヤキの八乙本介 プーログツナーオウ 下川トンメラグサ

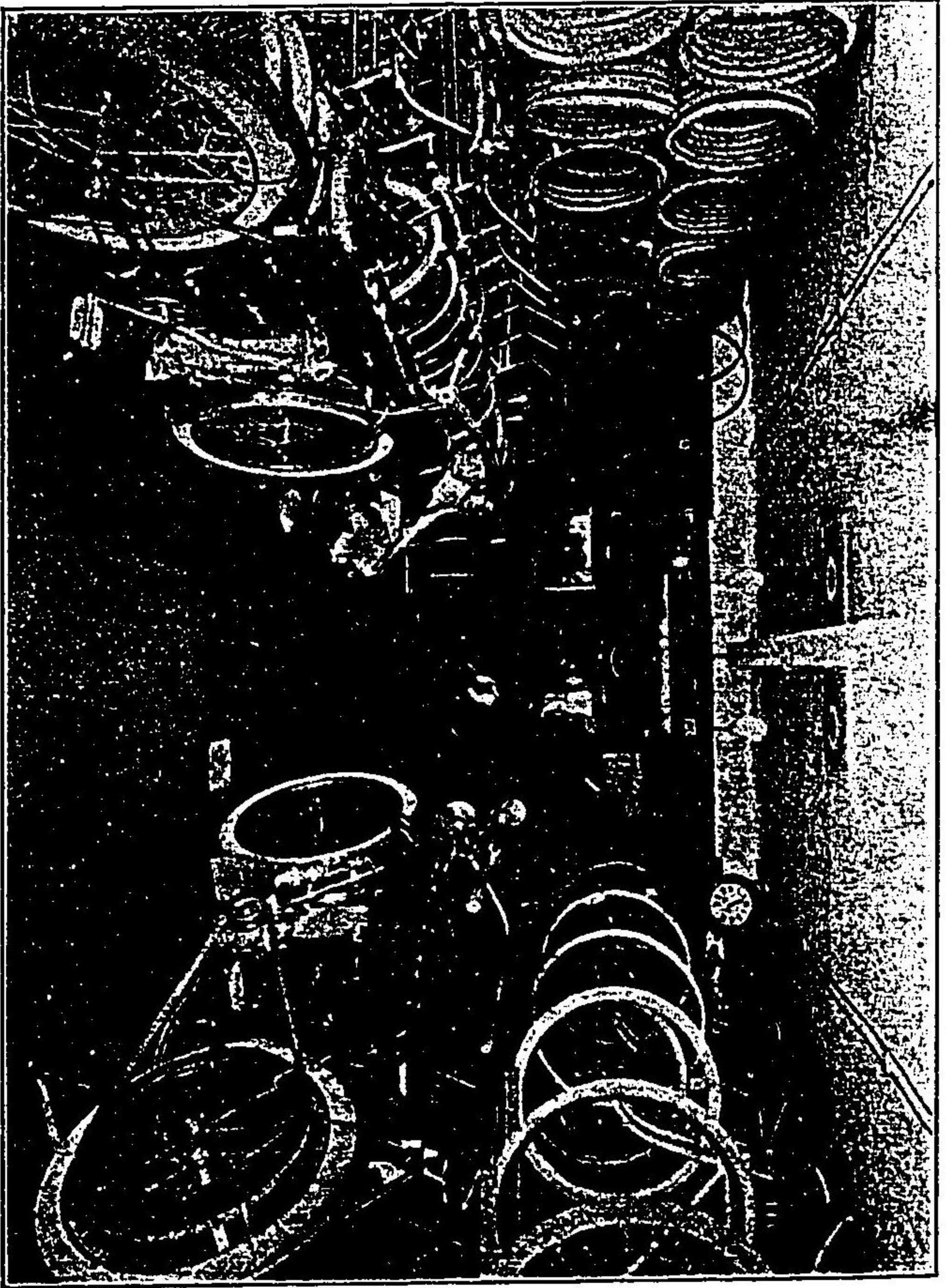
ブーロツナーオ 下川トンメラクサ
宅住とチンラの管經耶太彦葉稻



玉置
商旅館主人
玉置於菟四耶

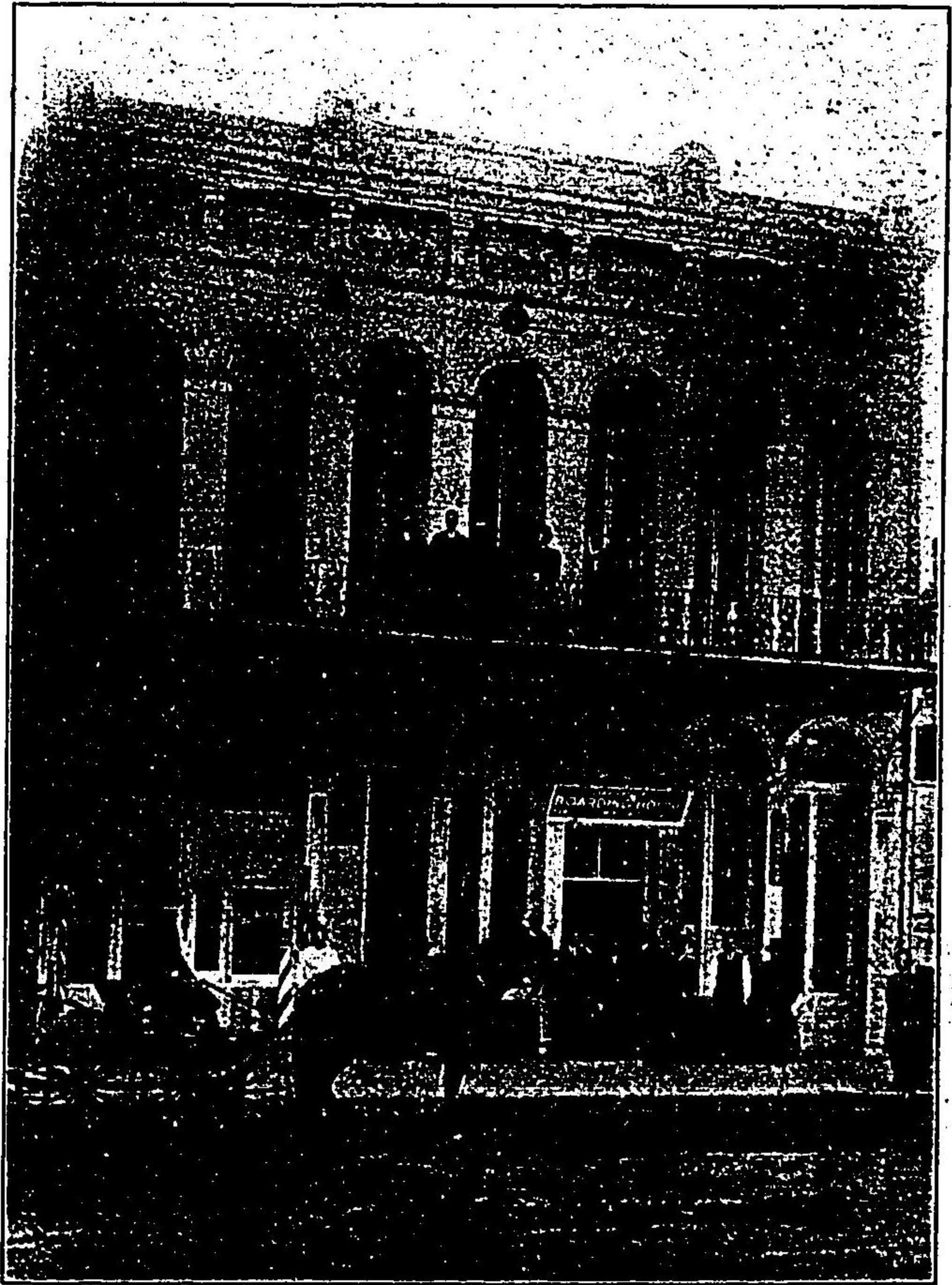


メリスビル市



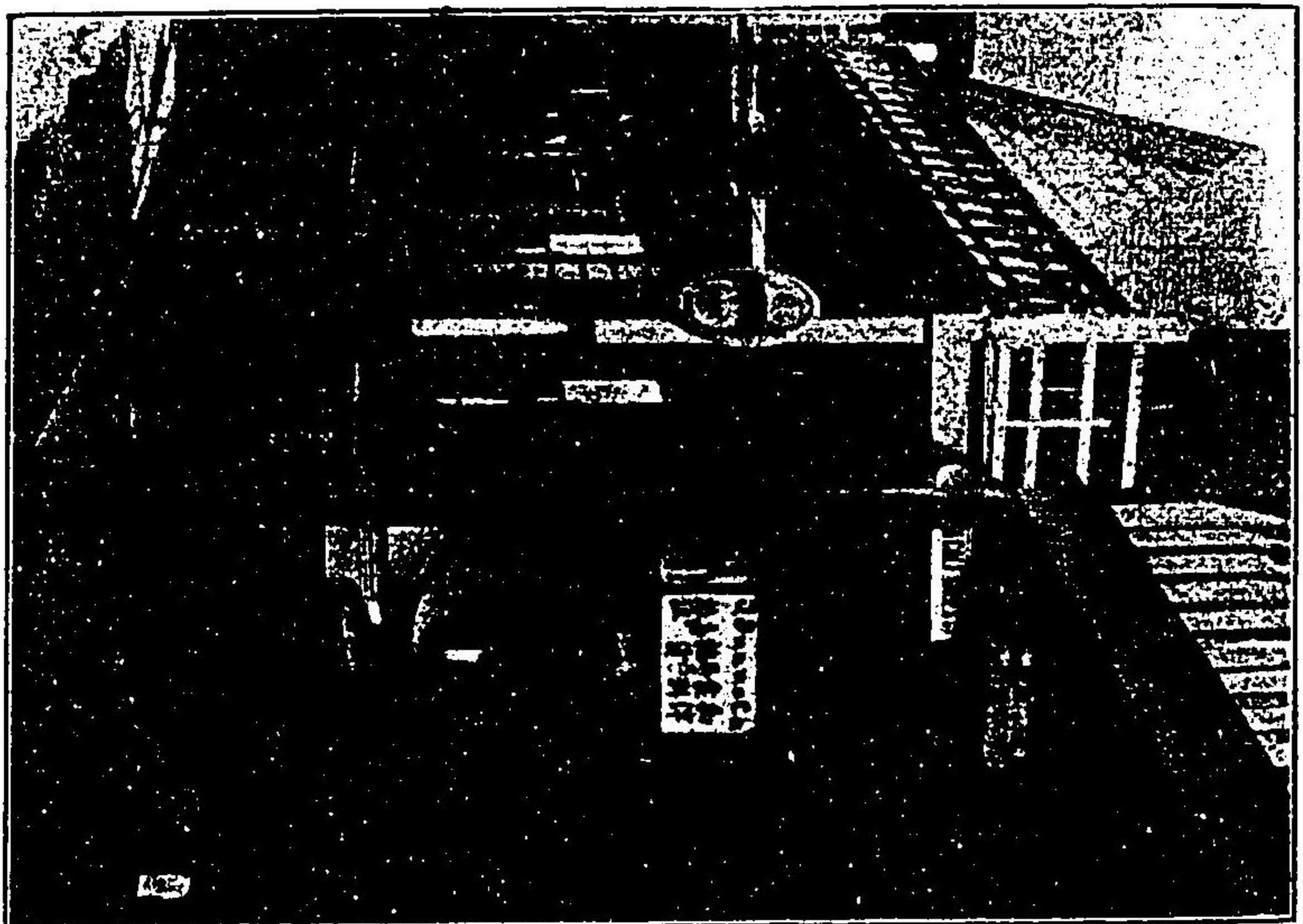
山陽自動車店内部

榎藤 並井 岩米 吉吉 共同經營



メジロビル市國中族館

三津 保田 儀三之助 共同經營



ペンラトローコ 下川トンメラクサ
館 族 野 稻 に 井 店 商 野 稻

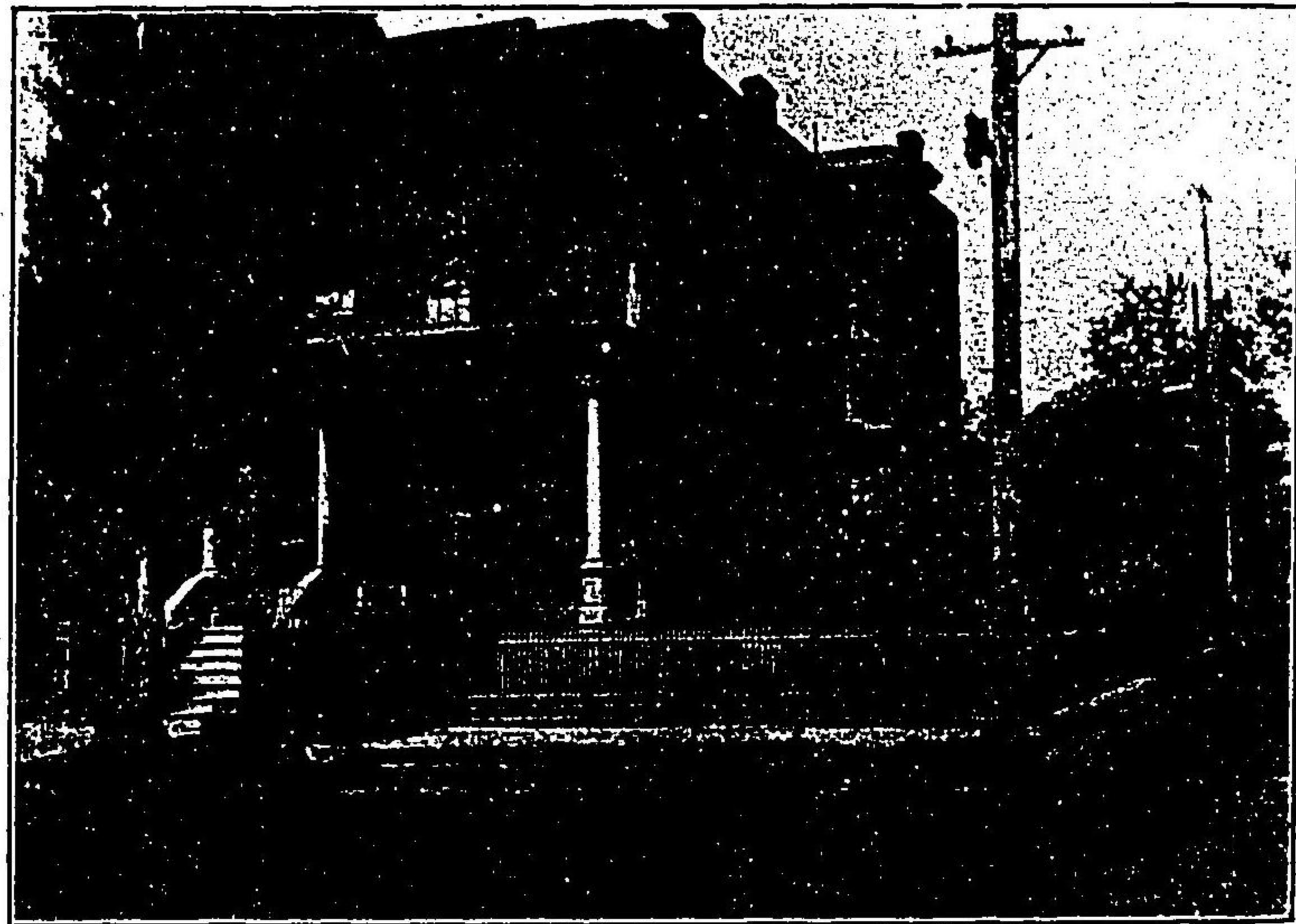


ペンラトローコ 下川トンメラクサ
耶 大 清 口 谷 主 館 族 口 谷 に 井 店 商 口 谷



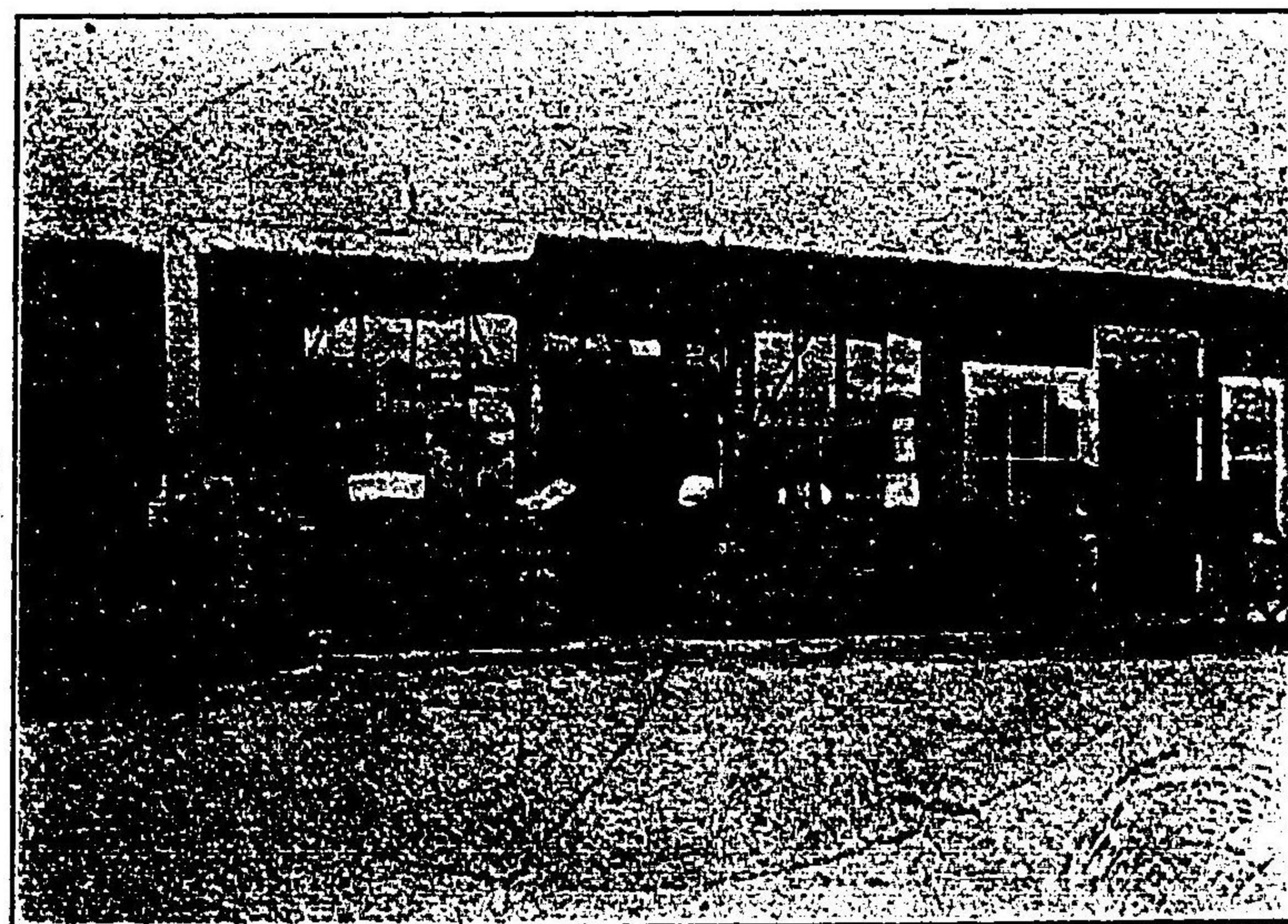
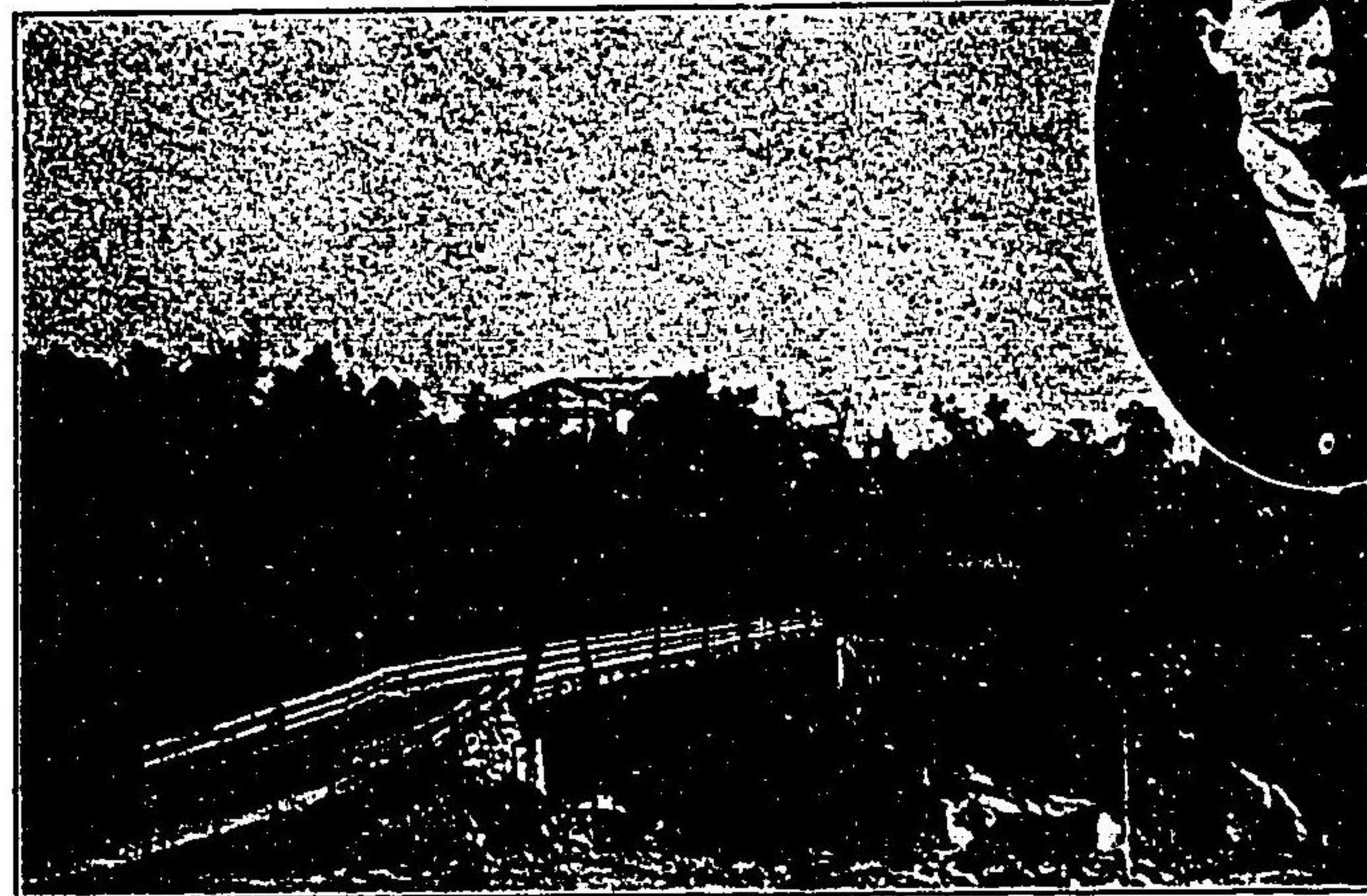
クーバスクラク 下川トンメラクサ
妻 夫 彦 虎 永 富 者 樂 園 農 大

耶太柴主院院病本日市トンメラクサ



(景光の探捕スプハ) 園スプハ管經二健 沖 スレキーバ

と景風の然天ムソルホ流上の河シカリミア
耶太勝道辻 者入先の地同



會商陽紀ルビカバ

族一弟兄田阪 ... ドンラトーコ下川トシメラクサ



後列向て右より

- 一 阪田辰喜 妻八重子
- 二 阪田辰喜 長女 美代子
- 三 阪田辰喜 次女 美代子
- 四 阪田辰喜 三女 美代子

前列向て右より

- 一 辰喜 長男 利英
- 二 辰喜 長女 美代子
- 三 辰喜 二男 慎一
- 四 辰喜 長女 美代子



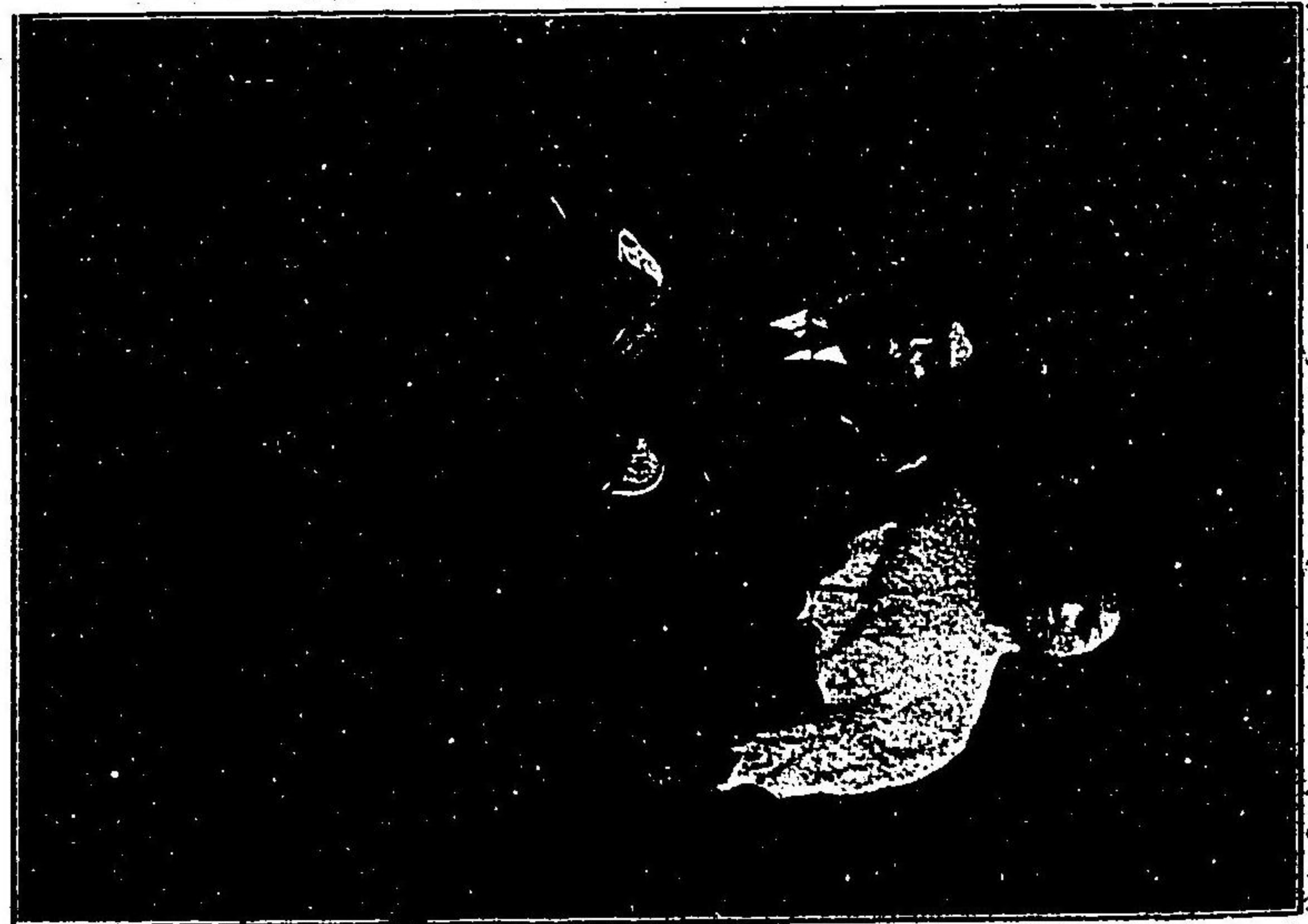
吉原崎竹 専幹會人本日府櫻現



輝公田吉 長會人本日府櫻前



妻夫 植秀井土 主店商中山



妻夫 吉植本藤 主店商本藤



吉榮野上 者營經園樹果 シリンベ



耶太益川樹 者營經同共店商中山 シリンベ



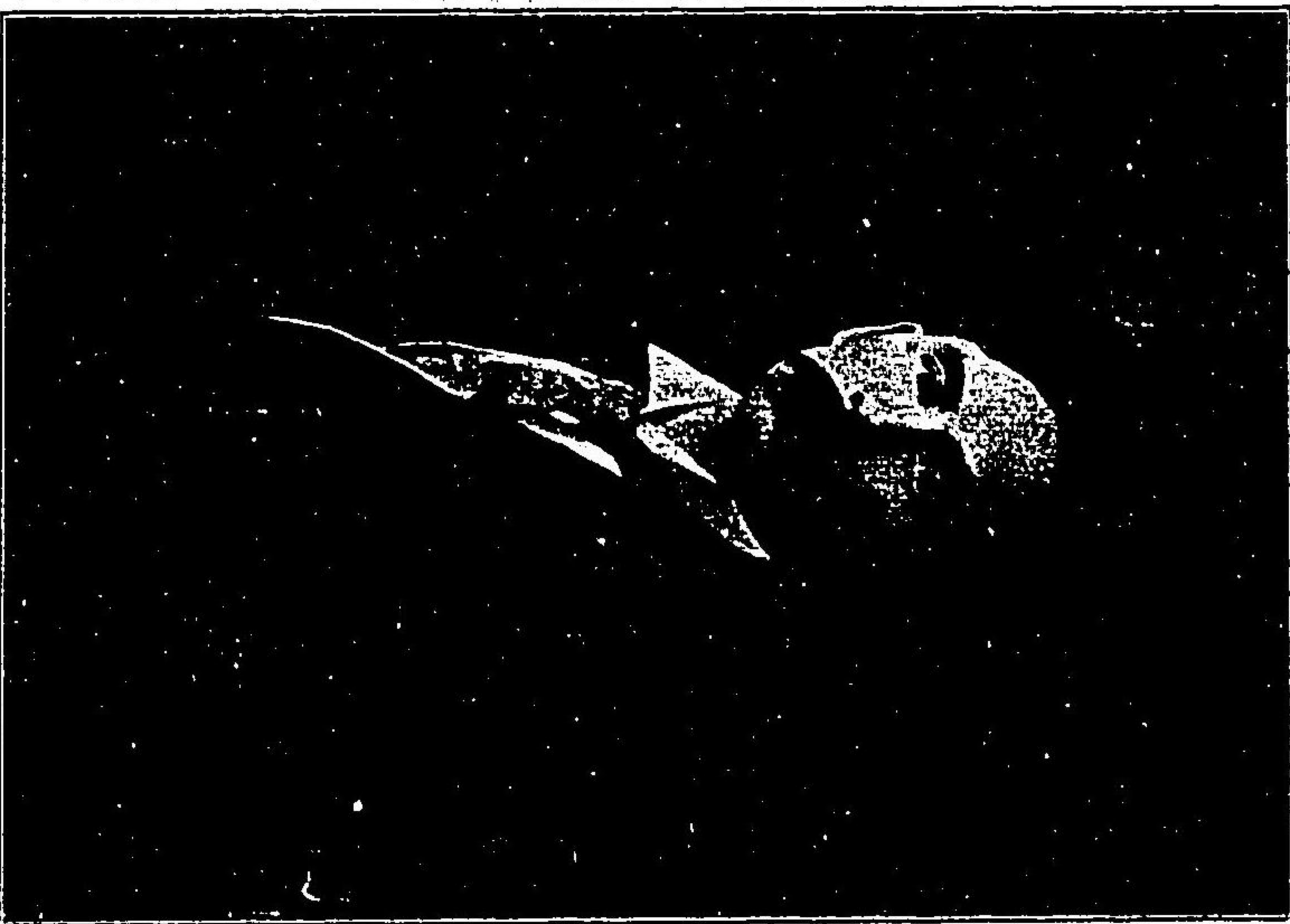
助之光村石 主館族屋本熊 市トメラクサ



族家耶太増井向 人主館族日朝 シリンベ



庚 重田 八 人生會商田八 トンラデーカ



郎 十 佐田 小 人生店食洋スエーホ トンメララカ

出で、兩岸の風景を弄するもの少からず、是れ旅中の一奇観なり、海峡の幅凡そ一哩あり、二十分にして船は對岸に着し、列車は再び進行を起し來りぬ、ベニシヤはスーレン灣とサンパブロ灣とを通ずる海峡の咽喉地にして、數十の人家海に面し、後ろに小丘ありて牧場之に連り、海上には二三の汽船錨を下せるあり、涼車の進行するや、沿岸の低地、蘆葦深く叢生し、四方廣潤、サクラメント平原の光景、茫々また漠々たり、已にして右方遙かに黄波の渺茫として雲に交はるあり、是れ海峡の水再び擴がりてスーレン灣となり、サクラメント河の水、之に合するの邊なり、車窓より遙かにアボンの浦村を眺望すべし、時已に夕陽西に傾き、微雨殘照を帯びて、村樹を掠むるの光景、我が故國の名勝、瀬田の夕照を偲ばしむるものあり、是より海灣盡きて、サクラメント河の流域沃野千里、水艸高く叢生し、間々沼池の上、板橋を架して其上に家を造れるあり、此邊家鴨を飼養するもの多く、土地頗る低濕なり、アルミラの驛より、日全く暮れ、窓外の光景、雨夜の寂寥を極む、午後八時サクラメントに着し、一日本人旅館に投ず。

第二節 サクラメント川下紀行

明治四十二年六月五日、櫻府を出發し、汽船にてサクラメント河を下り、所謂河下地方に至る、時に午後四時なり、船の進行すると共に、眼を兩岸の光景に觸るれば、翠柳水に映じ、風趣閑靜

一種の光景を爲す、一時間にしてブライトンに着し、五時四十五分フリーポートに着す、偶々渡船の河流を横ざりて人馬を渡せるを見る、船は長方形の箱に造り、上流より綱を引き、滑車仕掛にて河流を横断するの装置と爲す、其状頗る奇なり、已にして六時三十分、クラークスバーグに着す、時に金鳥西に沈み、河邊の柳樹翠色殊に鮮かに、殘照河面を射て、夕景頗る美なり、左の方遙かに高山の孤立して晚霞を帯ぶるもの、是れダイヤモンド山なるべく、左方曲かに一線の輝けるもの、スースン灣の水、夕陽と相射するにやあらむ、七時三十分、コートランドを過ぎ、ボーデンに達する前、黄昏の裡、河中に一大鐵橋を認む、船の近くに從ひ之を諦視すれば、中央に廻轉機ありて、烟突ある汽船の通行する毎に、一人の運轉手電氣を應用し、橋身を自在に廻轉して其通行に便ならしめ、而して船の通過し終るや、橋は其舊態に復して河流に横架せらる、其装置の巧妙なる一驚を喫するに足れり、已にして午後九時アイルトンに着す、乃ち船を出で堤上に登れば、團々たる紅鏡、夜霧を帯びて、平野の一端に上り來るあり、柳葉影朦朧として、涼風河上より到り、農村の夜景艶なるを覺ゆ、此夜山口屋旅館に投す。

六月六日 アイルトンの附近森本政吉氏を訪ふ、此日アイルトンに一泊す、此地は加州に於て、不潔なる日本人部落の一なり、是れ日本人の支那人化したるもの多きに由らすんば非ず、此夜一人の日本人急遽山口屋に入り來るあり、面色火の如く、眼光殺氣を帯び、ポケットより、刀を出しつゝ、咄々語つて曰く、支那奴を殺さんとすど、其胸透鮮血の斑々たるあり、言終りて其所に作る、旅館の主人、洗濯せる一枚の襦袢を持ち來り、彼を起して衣を更めしむ、間もなく數人の日本人來り、警吏の已に犯人を搜索せるを告ぐ、彼れ遂に捕へらる、是れ此地日曜の夜の殺伐なる光景の一斑にして、乃ち酔漢の賭博のために支那奴と蠻鬪を演じたるものなるべし、以て日本人社會風儀の善良ならざるものあるを知るに足らん。

六月七日 グランド島に渡り、宮本徳三郎、野澤杉松氏を訪ふ、談話一時間餘、夕方野澤氏、馬車にて余を送りて渡場に至る、時に風激しく、河水波高きがために、渡船の綱切斷して船を繰る事能はず、則ち他の小舟にて渡す、河水風に激して、荒波舟を簸盪し、翻々として木葉の風に揉まるゝ如し、無事アイルトンに着し、午後八時郵便汽船に搭じ、オーナツグロップに向ふ、暗夜水面の黒き事漆の如く、只だ天上星斗の爛干たるを見るのみ、十時オーナツグロップに着す、此地また日清兩人種の雜居地にして、其不潔なる事言ふべからず、アイルトンよりも家屋多く、事業盛なりと雖ども、日本人の支那人化したる状態は、彼地と異なるなし。

六月九日 オーナツグロップの附近、堀田鏗治氏を訪ふ、途中沼澤の風致に富めるあり、堀田氏のキャンプは、オーナツグロップの市街地を距る事四哩の所にして、清新の野趣に富み、冷風軒に入りて、また夏熱の何物たるを知らず、談話二時間にして、オーナツグロップに歸る、夕景に乗

じ、獨り河邊を逍遙すれば、萬頃の青圃晚霞を帯び、河水溶々として波紋靜かに動き、清風徐ろに河面を拂ふて、清艶言ふべからず、時に晚鶉の一群、河上を掠めて遠く雲に入るあり、サクラメント平野の晚景何等平和的の詩情ぞや。

六月十日 午前また節を附近の郊村に曳く、桃梨の園、野禽天樂を弄し、美花地を彩り、自然の樂園、武陵桃源の春を尋ね得たるが如し、此日午後三時オーナツグロブを發し、ギヤスリンポイントに搭じて、四時コートランドに歸る、此地はアイルトン、オーナツグロブに比すれば、較や清潔の地なり、果樹摘採の時期近きたるを以て、勞働者の入り來れるもの少からず、午後五時阪田龜喜氏をサター島に訪ひ、談話一時間にして出づ、主人馬車にて渡場まで送る。

六月十二日 午前八時、メーリット島に渡り、山本喜熊氏を訪ふ、氏もまた此地方の大農家にして、地方の農況を語る事詳かなり、午後一時別を告げて、歸途に就く、主人また馬車にて余を渡場まで送る。

六月十三日 古谷旅館を出發し、汽船に搭じ、午前七時歸途に就く、船中日本人多く、以て此地方に於ける、日本人農業者の勢力侮るべからざるものあるを知るに足れり。午前十一時サクラメントに歸る。

第三節 ホルソムに遊ぶの記

川下地方の踏査を終りたる余は、更に山岳地方を視察せんとし、六月十五日午前十時半、エスピ一の汽車にて、ホルソムに向ふ、此日天氣清明、サクラメント河の水溶々として平かなるを見る已にして汽車は河堤を去り、市街地を通過し、東に走る事二十分、ブライトンを過ぎ、間もなくパーキンスに着す、此地方は有名なるハツプスの産地にして、大なるハツプス園には、ハツプスの蔓十呎ばかり延び、絲に纏はりて連柱の高さに達し、遠く翠簾の横はるが如きを見る、農家には大抵二個の乾燥小屋を有し、短き煙突の、屋上に立ちたる、恰も二個の徳利を立てたるが如きも奇觀なり、メーヒュー、ミールス邊より、葡萄園多く、土地高燥にして、牧野の所々に檜樹の青く茂れるあり、已にして東方の連山髣髴として、煙霞の間より現はれ來り、白雲綠樹、遠近を點綴して、風景頗る快濶なり、十一時二十五分ジュラに達し、是より左の支線に入りて、フエヤオークに達す、此地方丘陵諸所に起り、傍らにアメリカン河の上流あり、砂金の産出地にして、所々に鑛山會社の建築物あり、汽車は、此地の貨客を下して、初めの線路を歸り、再び本線に復してイミルに至る、此地また鑛山地にして、路傍の水赤色を帯び、黄色の建物多し已にして十二時ホルソムに着す。

此地はサクラメント市及びプレスビルの中央にありて、線路中山間の市街地を爲す、丘陵背後に
 速り、河流其前を走り、山河襟帯、自然の要害地たり、加州重罪犯の囚徒を收容せる監獄署の所
 在地にしてまた此附近砂金の採掘を爲す、鑛山會社及び石材會社あり、市街の小なるに拘はらず
 一種の活景を帯ふる固より偶然に非ず、余は此日辻道勝太郎氏を訪ふ、辻道氏のキャンブは、市
 街より三哩の所にあり、清風疎林を掠め、小流庭前にあり、此日氏のキャンブに一泊す。

六月十六日 辻道氏余の爲めに馬車を用意し、附近の地を視せしむ、氏の勤務せる鑛山會社の
 工場及び石材會社を視て、監獄署附近の地形を視る、途中水力電氣發電所あり、是れサクラメ
 ント市に於ける電氣の發動所にして、貯水深碧を湛え、鑿々として地を動かすの音を聞く、之を
 過ぎて鐵橋を渡る、其長さ三百呎、高く崖巖に架せられ、碧水其下を流る、橋上に立ちて眺望す
 れば、上流の急潭、渦紋を爲して壁巖の間に屈曲し、下流は白砂に添ふて一帯の丘陵に隱る、更
 に橋を過ぎて小阪に達し、顧みて市街地を望めば、紅瓦白壁綠樹の間に參點し、溪水の清冽なる
 シーラネバタの雪、溶けて未だ塵界の汚濁を交へず、秀岩の松樹、自然の神韻を傳へて、太古の
 色を變へず、余は此光景に接して、始めて身の仙裳に在るを知り、久しく途塵に汚れたる旅袖、
 頓に清風に拂はれたるが如きを感じ、曾て防州岩國に遊び、錦川の水清冽砂を嚙んで流れ、横山
 の城趾、蒼々千古の色あるを見て、襟懷の颯然たるを覺えたりしが、今ホルナムの地形、岩國の

景勝に似たるを見て、米國の山水、また悔るべからざるものあるを知れり、已にして一の葡萄園
 を過ぎ、小丘の上に登れば、此所より獄舎の全景を俯瞰し得べし、只だ見る、アメリカン河の清
 流高地の崖腰を廻り、河流の水勢、急峻矢の如く、白沫岩を嚙で流るゝあり、煉瓦の宏屋、巖々
 として樹林の間に聳え、三四の高檜、屹立して附近の警戒を備ふ、其狀態、眞に堂々たる一個の
 城砦を見るが如し、余停立之を觀望する事久しうして、一種の感に打たる、已にして馬首を回へ
 し、巖に渡りたる橋袖に出で、馬を其所に繋ぎ、二人松林を穿ちて怪岩亂立の河岸に出づ、此所の
 岩石、赭黒色にして光澤を帯び、稜々層層截るが如く、また突くが如く、危然として、溪の兩岸
 に迫り、河水深くして、龍蛇蛟龍を潛ますべく、淵面靜かに波紋を卷き、凄婉の光景、久しく見
 るに堪えず、若し夫れ、月明かにして風清きの夜、舟を此水に浮べて、松籟に吟し、巨航を引き、
 一世の英雄と天下の形勢を談せんか、米國加州の地、また一個赤壁の活畫なきに非ず、傍らに二
 三の日本人、來りて魚を漁するあり、彼等果して天下の風流を解するや、否やを知らず。
 已にして市街に歸り、支那人街の附近、彼等の砂金採集地等を一見し、午後一時辻道氏と別れ、
 ギヤスリン自働車に塔じて歸途に就く、途中パーキンスに沖健次氏を訪ひ、佐伯又一氏の宅に一
 泊し、十七日サクラメントに歸る。

第四節 サクラメント平原の地理

サクラメント平原とは、北加州サクラメント河の流域を總稱するものにして、地理學上よりすれば、其廣袤無慮一萬九千八百八十六方哩に亘り、北加州の大部分を占有するものとす、然れども別に狹義のサクラメントバレーあり、延長百六十哩、幅七哩より六十哩に亘り、面積約四千餘方哩の平地を稱し、普通之れをサクラメント地方と稱す、記者は今此地方の事を説くに當り、暫く廣義の區域に從て之を記さん。

此一大平原はシヤスタ山脈と、シーラネヴァダ山脈の間に開展し、地勢北東より西南に向て、緩き大傾斜面を爲す、乃ち平原の北端カストルクラッグは、二千餘呎の高度を有すれども、テハマ郡レッドブラツフは、三百八呎の高度となり、サクラメント市に至りては、更に七十一呎となり河流の南漸するに従ひ、其高度を遞減するを見る、而してサクラメント市以東は、シーラネヴァダ山脈に近づくに従ひ、漸次に其高度を増加し、ブラサ郡ロースヰイルは百六十三呎、ロクリンは二百四十九呎、ルーミスは三百九十一呎、ベンリンは六百三十五呎、トラツキーに至れば、更に其高度を増して、五千八百二十呎に達するを見る。

平野内の人口、千九百年度の調査にて、十八萬七千餘人なりしが、爾後大に増加して、明治四十

二年末の調査にては、二十七萬七千五百人に達せり、此一大平原地を分ちて、ビユーツ、コルサ、エルドラド、グレン、ネヴァダ、ブラサー、サクラメント、シヤスタ、ソラノ、サター、テハマ、ヨーロー、ユバの十三郡と爲す、地域の廣大なるを以て、土地の氣候一ならずと雖も、夏期に於て華氏九十五六度を以て極度と爲し、冬期二十七八度迄を以て普通と爲す、時として夏期百四五度に上り、嚴寒の日二十一二度に下る事あれども、斯の如きは寧ろ異例なりとす、今千九百七年加州氣象臺の調査に成れる、此平原の氣象比較表を掲ぐれば左の如し。

測候所	所在地	所屬郡	高	低	最高	最低	平均	降雨量	晴天
サクラメント	サクラメント		七一	一〇四	三〇	六〇四	三〇	七二	二二八
ヅアカヰイル	ソラノ		一七五	一〇九	二四	六〇七	三七	二三	二二〇
ウイロース	グレン								
ウツドランド	ヨーロー		六三	一〇五	三一	六四八	三一	二四	二三四
チー	コビユツツ		一九三	一一〇	二一	六二二	三七	二七	二三三
メリスヰイル	ユバ		六七	一〇九	二七	六二三	三六	六八	二二一
オーバン	ブラサー		一三六〇	一〇〇	二七	六四一	六〇	六三	二三七
オロヰイル	ビユツツ		二五〇	一一〇	二九	六三〇	四二	三七	二〇五

ロックリン プラサー 二四九 一〇七 二二 六四一 四五、四一 二四五
 レッドブラフ テ ハ マ 三〇七 一一〇 三〇 六三〇 四〇、三七 一九三
 トラツキヤー ネヅアダ 五、八一 九二 一二 四五四 三二、五二 一三三
 同平原中斯の如き差異を見る所以のもの、土地の高度、河海水氣の關係に因るや固より論を俟たず。

而して千九百六年度の調査に依れば、加州全部の生産額中、雜穀三千九百六拾貳萬弗、ヘー參千六百拾貳萬弗、果實四千五百五拾萬弗、野菜五百拾八萬弗、乳座物貳千貳百七拾五萬弗、家禽千貳百貳拾四萬弗、雜類壹千七百八拾四萬弗、合計壹億七千四百七拾五萬弗の中、サクラメント平原全部の産額、參千四百貳拾四萬九千八百五拾貳弗にして、此平原の産額は乃ち、全加州産額の五分の一に當り、此中サクラメント、ビュート、ヨロー、ソランの四郡に於て、其七割を占有す、今更に平原内、農業經濟上の比較統計表を掲ぐれば、左の如し。

郡名	總面積	耕地反別	總價	格一エーカ	總收益	一エーカ一總收益	一エーカ一純收益	資本	利子
ビュッツ	一、〇〇、八〇〇	八七九、四八	一、四六、六六三	一、六四	五、八〇、〇三三	六、二四	二、八〇	三	三
コルサ	六九、二〇〇	六〇九、五九六	九、九八、八二	一、五	二、三三、〇三七	三、七五	一、三〇	八	八
エルドランド	一、〇四、四〇〇	六六七、九四五	三、〇〇、三七〇	四、五	三、八三、五五	三、八	三	三	五

グレン	九四、五四	九四、五四	八四、二六三	六、五	二、八六、一九	九、七	三、三	五	五
ネヅアタ	六五、〇四〇	四九、八二九	四〇、四九五	七、九	五、二〇、五五	九、四	三、二	四	四
ブラサー	八八、九〇〇	六四、五七〇	五、三三、六〇	七、七	一、六四、七五	二、〇	六、七	九	九
サクラメント	六三、一〇八	六〇、七五〇	三、〇三、九三〇	一、九六	八、五九、九三三	一、四二	四、七	二、四	二、四
シヤスタ	二五、九二〇〇	一、三五、四七九	八、五〇、六五〇	六、二	七、五九、六五五	四、九	一、七	二	二
ソラノ	五八、〇〇〇	五八、七七	二、五三、二〇〇	三、三	三、八八、六〇〇	七、三	二、四	一、一	一、一
サタ	三七、五五五	三三、〇〇〇	四、九八、二〇五	二、二	一、四七、三三	三、八	一、〇	九	九
テハマ	二〇、四八、〇〇〇	一、三三、七四二	七、五二、三三	三、六	二、〇五、五五〇	九、八	三、三	九	九
ヨロー	六五、〇八四	五七、七三三	二、四二、七五八	一、九〇	五、〇四、六七〇	八、三	二、七	一、三	一、三
ユバ	四〇、〇〇〇	三六、〇五八	二、六三、三〇〇	七、七	六、四三、六〇五	一、六	五、三	七	七
合計	二、五九、六二七	九、〇〇、一六二	一、〇三、三六、八三三	一、〇三	三、四三、四九、五八	三、九	一、七	九	九

此平原に於ける日本人の事業地は、サクラメントを中心として諸方に發展し、川下地方の農業は就中最も注意すべき價を有し、將來の富源量るべからざるものあり、其他ヅアカビル地方及びペンリン地方の果物園に於ける、同胞農業者年々の收益少からず、フロリン村の苜蓿は、今や昔時の盛觀を留めずと雖も、苜蓿の失敗を償はんが爲に、近時苜蓿園の經營稍々其緒に就き、また日本

人發展地の一部として數ふる事を得。

第五節 サクラメント郡日本人發展地の調査

サクラメント郡は、サクラメント平原の中央にありて、周圍に十郡を繞らし、其面積千〇〇七方哩、人口七萬二千、サクラメント河流域の重要部分を占有して、土地極めて豊饒、運輸の便頗ぶる可なり、地勢平坦にして、海拔僅に三十呎乃至七十五呎の間にあり、今を去る事七十年前、サタ一將軍、印度人の襲撃に抵抗して、周圍に城砦を設け、農業に従事したる事跡あり、郡内氣候の等一にして、一年の温度平均六十二三度、葡萄、梅、無花果、アーモンズ、梅、梨、杏、蜜柑、檸檬、柿等を産し、其他馬鈴薯、豆、キャベージ、カリフラワー、葱、アスパラガス、セロリ、トマト、人参等の野菜を産す、ハツプスは此地方の特産にして、其産出額また極めて大なり、サクラメント市を中心として、日本人の發展地多し。

(一) サクラメント市及び市内の日本人社會

サクラメント市は、加州の首府にして、州政府の所在地なり、人口五萬六千、土地の高度三十呎市俄高の西二千二百三十七哩、桑港の東九十哩の所にあり、サクラメント河の東岸、アメリカン河の南に位置し、二流の河水は此地に相合し、西流して桑港灣に注ぐ、此市は曾て千八百五十年

大火の爲に全焼に歸し、また千八百五十四年再び火災に罹り、千八百五十一年及び五十二年、千八百六十一年及び六十二年に於て、洪水氾濫し全市を浸没したる事ありしが、其後一大工事を起して、市街の土地を高くし、以て河水の氾濫を防ぐに至り、爾後市街地の浸水を見ざるに至れり、現時加州に於ける、都會地の第三に位し、陸上の交通機關としてはカリホルニヤ及オレゴン鐵道ウエスタンパシフィック鐵道、セントラルパシフィック鐵道、カリホルニヤパシフィック鐵道、サクラメント、エンド、ブラザヴィル鐵道ありて、何れも南太平洋鐵道と連絡し、水上の航路は汽船に依り、下流は遠く桑港灣に通じて、オークランド、アラメダ、桑港への航路を有し、更にサンオークン河を溯りて、スタクトン市に通じ、北はサクラメント河を溯りて、レッドブラツフに及び、平原内の豐産物此地に輻輳して、更に諸市に輸出せられ、加州産物の果物は、其四分の三を此地より輸出すと云へり、市街は平坦にして、一の坂路を有せず、街路の兩側に樹木を植へ、街上に電車を通ず、政廳の建築物は、第十街より十二街、エル街よりエヌ街に至る間、全部四街區の敷地を占有し、周圍を公園と爲して、其中央に堂々たる白壁の大建築物を建つ、此建築物は加州に於ける初代の建築物にして、鐵材及び煉瓦を以て之を建築し、室内は鐵及び石膏を混じて、堅牢なる屋壁を作り、ローレルと稱する堅材を使用す、ローレルは桂の一種にして、加州産の材木中有名なるものに屬す、下層の室内には、胡桃樹の良材を用ひたる所多く、床上に歴史

上の人物畫を描き、其畫趣頗ふる古雅なり、園内老樹多く、政廳の建築物は巨城の如く、松樹の翠色を抜いて高く屹立し、巍々たる高塔より、全市の光景を眺望すべし、政廳は千八百五十四年二月二十五日を以て置かれ、其建築物は千八百六十九年、三百萬弗を投じて建築せしものなりといふ、其他サクラメント郵便局、郡高等裁判所、郡立病院、州立圖書館、加州印刷局、加州農産物陳列場、また有名なる大建築物なり、其他南太平洋鐵道會社の工場には、常に二千人乃至三千人の職工を使用し、其工場は二十五エーカーの敷地を占有す、市の傍ら、サクラメント河上に架したる巨橋、長さ六百呎あり、橋上は馬車道及び人道を區別し、橋下更らに流車道を架して、之に鐵道を敷き、其橋の兩端は切斷しありて、其中心点に電力を裝置せる廻旋機を設け、煙突の高き汽船の此所を通行する毎に、一人の番人は電力を以て橋身を廻轉し、其橋架形を變じて、川の中心に縦形を造り、以て汽船をして其兩側を通行せしめ、船の通行終るや、橋は再び舊形に復して橋架形を爲す、對岸は乃ちヨーロー郡ワシントンの村落にして、柳樹堤防に生じ、野趣愛すべきものあり。

此市は桑港及び羅府の如く、白人の好住地ならざるを以て、從て日本人の家内の勞働を爲す者少く、只だ地方農園の廣大なるを以て、農業者の集散地として相當の繁榮を見るのみ、日本人街は、第三街とエル街及びエム街の交叉點を中心として、附近十二三街區に亘り、各種營業の盛なる事、羅府及び桑港に優るも劣る所あらず。

今櫻府日本人社會の沿革に付て少しく記さんには、明治十六年の頃、十四五人の日本人此地に入りて、農園の勞働に従事したる事あり、是れ櫻府日本人社會發達の端緒にして、其後明治二十四五年の頃、百餘人の勞働者を見るに至れり、當時未だ此地方の農業盛ならず、彼等はハツプス園及び葡萄園にて、僅かの勞銀を得て生活したるに過ぎず、斯くて此等勞働者を指揮し、常に白人傭主との交渉に當りたる主要の人物として中畑六郎、玉置於兔四郎、山田義雄、渡邊四郎、村上信四郎、築山才一等あり、桑港は一時市内勞働者の試験場たりしが如く、櫻府は農園勞働者の最初の試験場たりしなり、彼等は言語不通、境遇不如意なる間に立ちてよく奮闘し、遂に白人をして日本人勞働者の、支那人勞働者よりも優れる事を認めしむるに至りたり、日本人にして始めて農園勞働者の受負を爲したるは、明治二十五年、鳥居某パーキンスに於て、勞働者供給の契約を爲したるを初めと爲し、爾後笹井某、山本某、堀尾某、沖健治等續々として、ハツプス園の請負を契約し、明治二十八年沖健治は、現金借地を爲してハツプスの耕作を爲すに至り、日本人の歩合及び現金借地をなして、農作に従事するもの多く、爾後十數年間、時に盛衰なきにわらずと雖も、日本人發達の迅速なる事、實に驚くべきものあり、農園に於ける發達に伴ひ、市内日本人居住者も漸次其數を増加し、明治二十四年二月二日始めて美以教會を創立せり、當時の牧師は、木原外

七にして、一部の青年は此教會に寄宿するものあり、此年廣島縣人山田、白井、山崎等小ざり日
 本人下宿屋を開業するに至り、之に次で熊本縣人向井、平田等益城屋を開業し、野林米藏玉川旅
 館を始め、次で白山資一郎旅館業を始め、服部、山崎、中村の三人共同にて、また旅館を開業せ
 り、明治二十六年日本人社會の歩武を一にせんが爲に、辨理公所なるものを設け、旅館、桂庵業
 其他對白人の事務の取扱ひを爲すと稱す、之れ松岡謙、青柳幾太郎、峰島義一、野田音三郎の共
 同事業にして、後ち今城長緒、山崎勝五郎、渡邊四郎、大石彦巳、西博夫、中田光則、高尾庄太
 郎等之れに加はり、其目的は同胞社會に便利を與へんとするにありしも、當時此等の輩、故國政
 海亂潮時代の氣風に感化せられたるものありて、彼等は表面労働者なりと雖も、元來の労働者に
 あらず、從て書生の空論を喜び、穩健なる實地の計畫に疎なるを免れず、左れば支那人の役所め
 さたる名を付せし辨理公所も、豫期の實効を擧ぐる事能はずして、遂に解散を見るに至りたり、
 然れども此等血氣の青年が、漫論放談して平素の懣憤を洩すには好當の場所たりしなり、是より
 先き、東京の人平田智慧人は、此の辨理公所の階下にて、蕎麥屋及び豆腐屋を開業し居たりしが、
 日本人社會の漸く發達するを見て、此營業を廢止し、食料品及び雜貨の販賣に従事せんとし、桑
 本孫三、松井某等と共同し、明治二十六年二月、東京商會なるものを開店したり、後ち平田の歸
 朝するや、桑本孫三は他と共同して、都商會なるものを起し、其後此共同事業を脱して、明治二

十七年十一月安藝商會を創立したり、斯くして明治二十八年市内日本人營業者としては、旅館三
 商店二、醫師一、料理屋一を見るに至りたるが、爾後年々居住者の數を増加し、明治三十七八年
 の頃より、更らに長足の發達を爲して、現時市内に於ける日本人の居住者一千人、定住の戸數二
 百戸を數ふるに至れり。

今市内日本人の團體及び營業者に付て記すれば左の如し。

- | | | | | | | | | |
|------|---|--------|----|-----|-------|-------|-----|----|
| 社會團體 | 七 | 齒科 | 醫 | 二 | 食料雜貨商 | 二二 | 理髮店 | 二四 |
| 宗教團體 | 四 | 自轉車店 | 一 | 通辯業 | 二 | 旅館及貸室 | 三六 | |
| 湯屋 | 九 | 蒲鉾屋 | 一 | 小學校 | 一 | 製造所 | 四 | |
| 魚屋 | 四 | 運送業 | 一 | 煙草店 | 一 | 銀行 | 一 | |
| 書林 | 二 | 洗濯業 | 七 | 大工 | 一一 | 竹細工店 | 一 | |
| 新聞社 | 一 | 賣藥舖 | 二 | 料理店 | 七 | 看板師 | 二 | |
| 新聞支社 | 三 | 豆腐屋 | 四 | 時計店 | 四 | 飲食店 | 二四 | |
| 靴屋 | 三 | 蓄音器販賣 | 一 | 印刷所 | 二 | 寫真館 | 三 | |
| 洋食店 | 八 | 菓子屋 | 四 | 桂庵 | 一 | 病院 | 四 | |
| 洋服店 | 五 | 玉塲及射的塲 | 二〇 | 果物店 | 三 | 人夫募集所 | 一 | |

活動寫真 二 歌舞伎座 一 廣ト者 一 按摩師 一

△櫻府平原日本人會 會員に正會員及び會友あり、正會員は毎日五拾仙を出費し、會友は一ヶ年貳弗の會費を納むるものとし、會員の數は明治四十二年の現在にて、三百六十三名あり、更に之を地方別とせば、(市内)二二六、(地方)七五、(川下支部)三三、(アイルトン農進會所屬)四八、(メリスヰイル)二八、(コトランド)六六と爲す、然れども此等支部は、近時地方の發達と共に、各々獨立の傾向あり、明治四十三年二月新に役員を撰舉し、會長に青木儀一、副會長に沖健次、幹事に竹崎厚吉を擧げ、其他専務委員十一名、評議員二十五名あり。

△櫻府佛教會 明治三十二年の創立にして最初の開教師は佐賀縣人原田了哲なりしが、山口縣人原知象之を繼ぎ、其時代會堂として現時の家屋を購入し、明治三十七年日本人小學校を創め、翌三十八年三千五百弗を投じて、校舍を建築す、後明治四十年工藤慧達本願寺より派遣せられて現に開教師たり、工藤開教師は本願寺佛敎大學及び、東京外國語學校を卒業せるものなり、佛教會の會員は四百名にして、附屬小學校の入學兒童數五十五人あり、教員二名にて其教授を擔任す、また青年夜學校を設け、入學生徒二十五名あり。

△美以教會 明治二十六年二月二日の創立にして、明治四十一年三月、五千三百弗を以て土地及び家屋を購入し、現時百四名の會員と二十三名の會友を有し、創立以來の受洗者三百餘名あり、

太平洋沿岸の教會總理シヨルダン博士の監督せるものにして、附屬の英語夜學校あり、白人の教師三四十名ありて、毎夜二三人宛交代して、同胞の青年に英語を教授す、教會内にエボース同盟會なるものあり、會員數十名ありて、心愛部、傳導部、慈惠部、文學部、社交部等に分ち、各部に部長を置き、教會の事業と相俟ちて活動しつゝあり、最初の牧師は木原外七之を敎し、藤原俊雄、平賀剛、平野淺之助、森本得三郎等之に代り、森本牧師は兵庫縣の出身にして、職に在る事三年九ヶ月、其時代に於て教會はデ―街よりエム街に移轉し、宗教的感化事業の外、疾病者を看護し、重要事件の起るや、領事館または白人方面の交渉に當り、現時に於ける慈善病院と日本人會との事務を兼ねたるが如き位置にありて、一時日本人社會對する支配權を有したるの觀ありしが、千八百九十八年森本牧師の去るや、木村克己、中野忠藏、時政飯作、河澄明澄、工藤陽太郎等相次で牧師となり、長きは一年三ヶ月短きは四ヶ月にて去りたり、工藤牧師の去るや、吉田森藏來り代るに及び、教會は再び中興の盛運を見るに至りたり、當時の日本人社會は、秩序未だ立たず、無頼の博徒暴威を恣にして良民屏息し、殺人事件の如き頻々續出、殺氣紛々たる状態なりしが、此際教會の會員は、盛に街頭演説を爲して、風紀の刷新に努めたる事尠ならず、吉田牧師四年六ヶ月にして去るや、其後久しく牧師を置かず、谷繁治幹事として其業務を維持し、王府美以教會の相原牧師之を兼任する事一年、後ち鶴田源七一時牧師たりしが、明治四十一年二

月十六日、吉田牧師故國より再渡米を爲して、再び此教會の牧師となり以て現時に至れり、吉田牧師は東京の人にして、安政三年を以て生る、曾て英國の宣教師ワデル、米國宣教師タムソン及びグリーング等の感化を受け、また東京芝の神學者木曾五郎に就て學ぶ所あり、後ち明治二十七年渡米して美以派の神學を研究す、已にして砂市より加州に入り、サンノゼ、ロースアンゼルス等に於て、日本人基督教會の牧師となり、多年一日の如く、宗教的感化に努めて、ロースアンゼルス及びサクラメント地方、日本人青年を教育し、社會の風紀を刷新せる所少からず。

△聖公會 明治三十七年六月十二日の創立にして、最初の牧師を徳島縣人堀六郎と爲す、堀牧師の歸朝するや、明治四十二年大阪三一神學校の出身、群馬縣人梶塚敬次郎聘せられて牧師たり、會員三十五名悉く受洗者なり、他に十數名の會友あり、明治四十二年十二月、六千弗を投じて土地及び家屋を買ひ會堂を定む、而して其出費三分の二は白人の寄附に係ると云ふ、加州聖公會のビショップ、ニコラス及び櫻府の監督牧師モラーは、最も日本人に同情を有し、此教會の爲に盡したる事少からず。

△日本人獨立教會 第五街一三一五番にあり、ミセス、ゾオーエンの、日本人の爲めに、經營せる基督教主義の獨立教會にして、會員二百四十餘名あり、明治三十五年頃の創立にして、日本人社會の幼稚時代に於て、此教會の經營者、ミセス、ゾオーエンの、日本人社會に盡したる所少からず。

らず、ミセス、ゾオーエンは、西曆千八百四十九年、バージニア州に生る、彼女生れて六歳、半身不隨症に罹り、是より體質羸弱を免れず、其母彼女をして、音樂及び油繪を學ばしむ、彼女幼にして聰慧、十三歳にして已に作詩を爲し、十五歳にして自作の文章を、雜誌に投書したる事あり、已にして十七歳にして結婚し、伉儷睦まじかりしが、不幸にして其三十一歳の時、夫ゾオーエンの病死したるを以て、人生の果敢なきを嘆じ、始めて身を宗教界に投じ、異人種の教育に従事せんとするの志あり、是に於て始め印度人の感化に従事したりしが、東部を去りて南加州に來るに及び、屢々日本人に接するに及び、遂に日本人教育の事業に、其の半生を捧げん事を決心し、一時ロースアンゼルス及びリバーサイドに於て、日本人の教育に従事し、後ちサクラメントに來るや、當時多くの日本人労働者は、此地方瘴癘の氣に冒されて、病死するもの少からず、彼女常に之れを慰解介抱して至らざるなく、其熱心人を感せしむるものなきに非ず、其自ら教會を起すや、經費常に欠乏し、其維持に困難なるを以て、夜間の授業時間を終るや、自ら洗濯物をなして、深夜三時に達し、時々教會より退刊する、ミメオグラフの小雜誌を、出版するが爲めには通宵終に眠らざりし事屢々なりしと云ふ、彼女の感化に依て、洗禮を受けたる日本人二百三人、臨終の際、天父の存在を説きて、最後の慰解を與へたるもの、百餘人に上ると云ふ、日本人排斥問題の起るや、屢々公衆または、新聞紙上に於て、其非理を辯駁し、日露戰爭の起るや、日本に

對する同情の詩を作りて之を人に唱せしめたるが如き事あり。

△同郷人團體 櫻府に於ける地方人の團體としては、愛知俱樂部、中櫻和歌山縣人會、熊本縣人會、藝備同志會、福熊會、愛媛縣人會、備前備中美作縣人會、靜岡縣人會、北米土佐協會等あり、何れも相當の會員を有し、就中愛知俱樂部及び、中櫻和歌山縣人會等其會員多く、勢力また大なり。

(二) 市内日本人の營業

此地は桑港羅府に比して、周圍の事情を異にすると共に、市内營業の狀態、自ら特種の發達を爲すに至れり、桑港は加州商業の中心地にして、半ば白人に對し、半ば加州各地の日本人商店に對する卸賣の位置を占有し、羅府は白人の居住者多きを以て、直接間接に白人の生活と、重要なる關係を有す、獨り櫻府にありては、市内に於ける白人の數少なく、地方に於ける日本人農業者の多きを以て、市内營業の性質は、自然地方に於ける、日本人農業者を對手とするにあり、今其重なる營業に付て、列擧すれば左の如し。

△銀行事業 明治三十五年愛媛縣宇和島の人、今城長緒、一の金融社を起し、後ち合資組織に改めて、之を櫻府銀行と稱し、勞働者の預金、送金、保護預、及び貸付手形割引等を營業と爲し、

更に資本金拾萬弗の株式會社と爲し、此年また鹿兒島縣人松崎愛熊等の、一小貯蓄銀行を設立し四十二年資本金を五萬弗に増加し、株式會社櫻府日本銀行と稱す、此年七月十五日、加州銀行監督官の報告に依れば、當時櫻府銀行は、預金拾壹萬五千參百參拾壹弗、貸附金拾四萬壹千七百八拾九弗貳仙、櫻府日本銀行は、預金貳萬六千〇〇貳弗四拾貳仙、貸附金貳萬貳千參百參拾參弗六拾壹仙なりしなり、然るに明治四十二年加州日本人經濟界の恐慌を來すや、櫻府銀行は之れが爲めに破産し、櫻府日本銀行は一時營業を停止したるが、後ち再び開業して現時其營業に従事しつつあり。

△新聞業 市内日本人の發行せる、日刊新聞として櫻府日報あり、明治四十年三月地方出水の爲め、桑港の通信杜絶し、同胞社會一時諸方の狀況を知る事能はず、是に於て桑港新聞支社員、メオグラフにて、當時洪水被害の狀況を報導したるもの、之を櫻府日報の濫觴と爲す、後之を活版所と爲し、桑港新聞櫻府附録として發刊したるが、其二百號に達するや、獨立して櫻府日報と改題す、水谷白嶺、森田沼水の經營に係るものにして、現時七百枚を發刊し、サクラメント平原に於ける、唯一の獨立日刊新聞たり、其他日米新聞支社は、鷲津尺魔最初の主任たりしが、其後前田切水、山村四郎、岡部天行、山崎池峰等相代りて主任となり、山崎池峰明治三十九年、羅府に開かれたる、加州日本人聯合代議員會に出席し、病の爲めに羅府に於て死去するや、開原五

雨、其後を襲ふて現時に至れり、支社員四名ありて、サクラメント平原に於ける發賣紙數、六百乃至七百あり、新世界新聞支社は、今城長緒創業の主任たりしが、現時の主任を鷲津尺魔とす、桑港新聞支社は、水谷白嶺最初の主任たりしが、後ち水谷の櫻府日報を創立して其主任を辭するや、棚瀬善十郎代つて其主任たり。

△醫業 サクラメント平原の大部分は、農園の開拓、河流の修治せらるゝ前、一帯の沼澤地にして、其後生産に富める、一大農園地となりたるも、自然濕氣の多きを免れず、市街地の如きも、サクラメント河の上流、砂金鑛山の採掘されしもの多く、土砂水に混じて黄濁色を帯び、飲料水として、清良なるものに非ず、従つてマラリヤ熱、腸窒扶斯病等に罹るもの多く、桑港及び羅府に比して、疾病者を出す事多し、従て早くより醫業の繁榮せるを見る、明治二十二年の頃、新潟縣人竹山祐嗣始めて醫業を開きたるが、固より正式の醫師に非ず、後ち鹿兒島縣人長井彌吉福井某等あり、已にして明治三十三年に至り、町田某、竹岡亥之吉、唐木某等醫業を開きたるが、後ち町田及び唐木は歸朝し、竹岡は東部を経て、歐洲に渡航するや、鶴岡欽二、吉田俊造、柴太郎等開業するに至り、明治四十一年竹岡の歐洲より歸り來る頃より、學識經驗ある醫師を見るに至れり、現時の開業には、日本病院、竹岡醫院、日米醫院、吉田醫院の外、齒科醫としては、吉永齒科醫院、大久保齒科醫院あり。

△食料品及雜貨店 地方の農園發達すると共に、日本人向の食料品及び日用雜貨品の需用少からず、従て此種の營業大に繁榮するを見る、安藝商店、津田商會、神保商店、山陽商會、よろづ商會、有明商會、遠藤商店、田舎商店、等は其中の大なるものにして、安藝商店の規模は、桑港の北米貿易、布市の神川と其營業の盛大を、競ふに足るものあり。
△旅館業 日本人宿泊の旅館また頗ぶる多く、其中營業の盛なるもの少からず、其重なるものを擧ぐれば左の如し。

- 岩立旅館 益城屋旅館 田山旅館 宇土屋旅館 肥後屋旅館
- 大島屋旅館 東洋旅館 千歳旅館 嚴島ホテル 圓光寺旅館
- 福岡屋旅館 南海屋旅館 九州屋旅館 熊本屋旅館 常盤館
- 不知火旅館 櫻府旅館 敷島旅館 日の本旅館 北米旅館
- 陽明館 白銀旅館 富士山旅館 岩國屋旅館 砂田ホテル
- △洋食店 桑港及び羅府に比して、其規模の小なるを免れず、其中の重なるものを擧ぐれば、左の如し。
- ユーエス洋食店 エムエム洋食店 チェリー洋食店 ニューセンチュリー洋食店
- スター洋食店 日本洋食店 加州洋食店 豊田洋食店

△日本料理店 他の營業に比して、頗る盛況なるものを、日本料理店と爲す、室内及び外部の狀態之を故國の料理亭に擬し、門を造り、板塀を廻らすものあり、二階に欄干を附くるものあり、室内に障子、唐紙を建つるものあり、彫刻の欄間を設くるものあり、料理屋の數は七軒に限られ、大抵七八名の酌婦を備ひ、客席に侍して、三絃を弄し、農園の收穫時を終りて、多くの勞働者市街に出で来る頃、日本街の般賑なる事、想像の外なり、松江亭、いろは亭、日本亭、菊水亭、旭亭、浮世亭、二葉亭、之を七軒の料亭と爲す。

△其他の營業 以上掲げたる營業者の外、自轉車店には、山陽自轉車商店、洋服店には、藤井洋服裁縫所、崎山洋服支店、寫眞師には、吉田寫眞館、藥舖には、則近藥店、活版所には、東洋活版所、日本活版所、菓子屋には、並木菓子屋、魚店には、みかど魚店等皆其營業の盛大なるものとす。

△遊藝界及見せ物 總ての點に於て日本人風の色を露出せるものは、櫻府日本人社會の狀態なり、歌舞伎座の此地に組織せられたるは、また此地の特色なりとす、斯の如き團體の發達は、之を白人と融合せる日本人發展地には、之を認むる事能はず、羅府、桑港、布市の日本人社會に於て、屢々日本人向きの劇の興行を見る事あれども、其根底また斯の如き深きものに非ず、櫻府歌舞伎座なるものは、明治三十九年山口縣人嵐橋葉之助等主唱して、之を組織し、其年八月十一日を

以て初興行を爲し、明治四十一年の暮に至る迄、都合三十三回の興行を爲し、其都度非常の人氣を博し、書出役を嵐橋葉之助とし、女役に市川鯉三郎、市川千代枝あり、三味線に鶴澤彌壽司あり、淨瑠璃に都玉あり、其他斯技に熟達せる俳優數名之に加はり、木戸鏡を五十仙と定めて、別に座料を徴せず、他は看客の繩頭に任じて、場内の賑ひ故國普通の劇場よりも、人氣の旺盛を極ひ、看客には地方農園の勞働者多きを以て、新劇よりも舊劇を歓迎するの傾きあり、白狂言よりも淨瑠璃ものに趣味を有するが如し、別に山田美夫、改發思舟等、新派の俳優團を組織し、之を櫻美團と稱す、嵐橋葉之助の友人として、常に興行の際下座立唄の役に當れる三好新吉等主唱となりて、近時エル街二三番に、間口五十呎、興行百五十呎の劇場を新設するの計畫あり、其費豫算五千弗と稱す、また盛なりといふべし、新劇團の外に日本人自營の活動寫眞あり、明治四十一年三月二十一日、三好新吉、エル街の一家屋を借りて之を開業し、爾後毎夜開場して日本人其他異人種の來觀するもの少からず、此家屋は同年四月二十一日火災に罹りたるを以て、福岡縣人野林米藏、三好と共同して、同年七月十三日再び設備を整へて開業するに至れり、之れを日本座と稱し、一ヶ年の收入七千弗に上ると云へり。

△市街附近農園地 リバーサイドロードは、市街の中央より二哩の南にあり、オークパークは、市の東に位置し、共に日本人の野菜を栽培せるもの多く、地代は一英町普通三拾弗なり、日本人借

地の總面積五百十六英町、農家の數四十五、野菜の外は、果物及び葡萄、トマト、苺等を作るものあり、日本人借地農家の外、土地を所有するもの十二名、總面積百三十六英町にして、其所有者名左の如し。

- 横井新左衛門(愛知縣) 四〇英町 (葡萄、苺) 佐藤力太郎(山梨縣)
- 武田正男(廣島縣) 三〇英町 (同) 三浦進(宮城縣) 六英町(花園)
- 竹岡熊吉(廣島縣) 一五英町 (同) 相原武男(山梨縣)
- 桑本吾一(廣島縣) 一〇英町 (養鶏) 吉武長一(山口縣) 五英町(野菜)
- 島田茂(宮城縣) 五英町 (野菜) 武内由太郎(和歌山縣) 五英町(野菜)
- 藤岡政次郎(岡山縣) 一〇英町 (苺) 宮本廣吉(山口縣) 一〇英町 (苺)

(三) 市外農園地方

フロリン サクラメント市の南方哩にして南太平洋鐵道に添ひ、夙に日本人の苺村として其名を知らる、明治三十一年廣島縣人中川某此地に農園を創め、後ち和歌山縣人阪上某白人と契約して農作に従事し、斯くて明治三十三年、河本和吉等雜園を經營するに至りて、漸次發達し、現時の状態を爲すに至れり、借地料普通一英町參拾弗乃至四拾弗にして、初め苺のみを栽培したるも、苺の供給超過となりて市價の暴落せるより、葡萄を栽培するものあるに至れり、給水は石油揚水器を用ひ、葡萄植付地は、大抵一英町參百弗を値す、土地所有者三十七人、其所有總面積九百二十七英町、現金借地者九十九人、此面積千八百二十九英町、收穫分配作者十八人、此面積二百五十六英町あり、(明治四十二年十二月現在)

土地所有者

- 石川才次郎(富山縣) 三〇英町 (苺、葡萄) 河本六松(和歌山縣) 四〇英町 (苺、葡萄)
- 山本市藏(福岡縣) 二五英町 (苺、葡萄) 吉野松太郎(福岡縣) 四〇英町 (苺、葡萄)
- 原倉吉(廣島縣) 八〇英町 (苺、葡萄) 横井新松(愛知縣) 三六英町 (葡萄)
- 西本滿之助(同) 四〇英町 (苺、葡萄) 武田正夫(廣島縣) 三〇英町 (苺、葡萄)
- 川西良平(同) 二〇英町 (苺) 丹原長一(岡山縣) 一七英町 (苺、葡萄)
- 川崎庄太郎(同) 二〇英町 (苺) 瀧谷嘉一郎(兵庫縣) 五九英町 (苺、葡萄)
- 田中榮次郎(和歌山縣) 六〇英町 (苺、葡萄) 竹岡熊吉(廣島縣) 一五英町 (苺、葡萄)
- 田中清次郎(和歌山縣) 六〇英町 (苺、葡萄) 塚本九藏(廣島縣) 四〇英町 (苺、葡萄)
- 田端政吉(和歌山縣) 一〇英町 (苺、葡萄) 宮川常三郎(岡山縣) 三四英町 (苺、葡萄)
- 村井逸太郎(山口縣) 一〇英町 (苺、葡萄) 増山鶴吉(廣島縣) 二三英町 (苺、葡萄)

- 村上新吉(廣島縣) 一〇英町 (苺、葡萄) 梅田政太郎(和歌山縣) 二二英町 (葡萄)
- 向井三之助(廣島縣) 一五英町 (苺、葡萄) 小柳平吉(山口縣) 八〇英町 (苺、葡萄)
- 上田六太郎(福岡縣) 一五英町 (苺、葡萄) 大谷友三郎(和歌山縣) 二〇英町 (苺)
- 野尻信三(和歌山縣) 津田八平(廣島縣) 二〇英町
- 古川友吉(同) 二〇英町 (苺) 梅田政太郎 (和歌山縣) 二〇英町 (苺)
- 筒井熊吉(同) 中野捨松 (和歌山縣) 二〇英町 (苺)

寺西善作(同) 六〇英町 (苺、葡萄) 重野彦熊(鹿兒島縣) 一七英町 (苺、葡萄)

福島常太郎(廣島縣) 一六英町 (苺、葡萄)

農園の發達斯の如くなるに拘はらず、サクラメント市に近きを以て、營業部落は割合に發達せず、只だ停車場の附近に日本人の營業者として商店、土地賣買周旋業、洋食店、理髮店、玉場、湯屋、鍛冶屋、豆腐屋、各一軒あり、明治三十四年櫻府勸業社より一商社を開きたる事ありしも、此地苺業の失敗に歸したるより、此商店は其影響を受けて破産し、後ち明治三十六年谷川玉藏、玉場及び理髮店を開き、明治四十年廣島縣人河本和吉、河本商店を開くに至りて遂に現時の部落を形成するに至れり、附近農業者、櫻府平野日本人會と獨立して、フローリン村日本人會を設く、會員百五十名あり、會費を年六弗と定む、會長に宮崎常三郎、副會長に武田正夫、會計監査役に西

本滿之助、河本和吉、會計に谷川玉藏、幹事に角田千萬太を推す、他に區長兼評議員十五名あり。

『エルクグロップ』フローリン村の南に隣し、また日本人農家の部落として發達せる地なり、南太平洋鐵道に添ひ、苺及び豆等の栽培を爲し、また養鶏園を經營するもの多し、土地の狀態及び諸般の事情畧ぼフローリン村に同じ、現金借地農家七、借地面積合計百七十五英町、收穫分配作四人、其面積二百〇五英町あり。

『パーキンス』フローリン村の東方にあり、日本人のハツプス、果物及び苺を栽培するもの多し、現金借地者九人、借地面積三百四十七英町あり、櫻府興業社及び沖健次(同)の借地を以て其中の大なるものとす。

『ミールス』現金借地者五名、借地面積五百十八英町あり、苺、果物及びヘーを産す。

『ローテヤ』ミールスの西に接し、廣島縣人田原某の果物園百五十英町を歩合耕作す。

『フエヤオーク』櫻府の北東三哩の所にあり、現金借地者四人、此面積三百四十英町あり、果物及び苺を産す。

『メーヒュー』南太平洋鐵道ブラサビル支線に添ひ、フエヤオークの西に接す、日本人の現金借地者四人、借地面積三百五十英町、收穫分配作二人、作地二百英町あり、苺及び果物を栽培す。

『ホルナム』明治三十五年和歌山縣人琴浦某、始めてフォルナム、デバトメント會社に八人の勞働

者を入れたるが、三ヶ月後にして同縣人辻道勝太郎之れに代り、現時十五六人の労働者を入る、現金借地者十一人、借地面積六百〇六英町あり、就中辻道勝太郎の借地三百英町は、其内の大きなものなり、此地高度二百五十二呎、桑港を距る事東百二十哩、砂金鑛山あり、從て土地農業に適せざる所多し。

附II ハツプスの事

ハツプスは今より百年前、獨逸植物學者の發見せるものにして、後ち米國に輸入せられ、千八百五十七年初めて加州に試植せられたるものなり、之を作るには、初め蔓にて植え、十年乃至十五年間、年々花を開き、其生殖力を保つといふ、花は毎年七月に開き、三四十日の間に、之を摘取り、乾燥室に運びて、一尺乃至二尺五寸の厚さに積置き、百三十度の火力にて七八分間温度を與へ、時々攪拌して十時間にて終り、後ち冷室に移して一週間乃至十日間空気に曝し、二百斤入の袋に入る、米國にては一年間の産額二十四五萬バール（一バールは二百斤）にして、其三分の一は歐洲に輸出さる、醸酒の原料または、麵包の原料たるイーストの中に混入する材料に用ゐられ、日本にては多く獨逸産のものを使用すといへり、作費は十エーカーにて貳千弗の耕作を有し、一エーカーにて十バールを作り得べく、而して最近五ヶ年に於けるハツプスの平均價額は一バウンド十六仙なりといへり。

(四) 櫻府及附近成業列傳

△桑原孫三、東歸惠吉 サクラメント平原は、加州農業地の雄大なるものにして、勢ひ市街發業者に多少の成功兒を生ずるは、固より怪しむべき事に非ず、安藝商會の經營者、桑本及び東歸の如きは乃ち是れなり、桑本孫三は廣島縣安藝郡牟田村の産にして、文久二年八月十三日生る、現時廣島市京橋町五十三番地に籍を有し、東歸惠吉は、同縣同郡戸阪村の産にして、明治四年生る二人は始め東京に出で、年少氣鋭まことに爲す所あらんとす、乃ち明治二十五年七月、互に志を語りて米國に渡航し、桑本は一時桑港に於て、家内の労働に従事し、東歸は體力剛健なるを以てサクラメントの川下、スースンの地に入りて、農園の労働に従事せり、已にして桑本は、サクラメントに來り、明治二十六年二月、平田某、松井某等と共に、東京商會を起して之を經營し、已にして松井の東京に歸るや、一時平田と二人共同たりしが、桑本は時勢の趨向、別に一商店を創立するの必要なるを知り、從弟東歸のスースンにあるを呼寄せ、始めて安藝商店を開業し、一年の後、平田と東京商會の關係を絶ちて、爾後専ら力を安藝商店の經營に盡せり、始め二人相語りて曰く、虚名は益なし、事業は只だ誠實を主とするにありと、乃ち日夜心膽を碎きて業務を經營し、孜々として怠る所なく、當時日本人の、サクラメント平原に入りて、農業に従事するもの、

年々増加し、彼等の多くは、安藝商店の忠實にして、事を辨するの敏捷なるを以て、喜んで其顧客となり、商店の事業年々盛大となりて、經營已に十五年間、年々其販路を擴張して、曾て一年だに賣上の増加を見ざる事なし、現時一日の賣上高平均三百弗、多きは一日千弗乃至貳千弗に達し、明治四十一年度の總賣上高、實に貳拾四萬弗と稱す、商品は野菜及び雜貨等を主とし、エル街と第四街の街角に蟠居する一大商店、附近を歴して營業の盛なる事、他に其比を見ず、桑本は業務を專一として、多く人に知られざれども、商店の經營其手腕に依るもの多く東歸は、濃厚の資、恰樹の才、決斷に富み、社交に長じ、サクラメント日本人社會に最も信用を有す、二人の共同は乃ち二人の長所を調合して、以て此事業を築きたるものといふべく、其事業の盛大なる事加州日本人商業者の二三に數へらる。

△吉田公輝 東京の産にして、幼にして福井に在り、年甫めて九歳、單身福井を發して東京に出づ、聞くもの之れを奇とす、時恰も明治十五年にして、西南戦争の終りたる時代に屬す、西南戦争は、征韓論破裂の結果にして、征韓論の出来ざりしは、日本に軍艦の乏しきが故なりしなり、彼れ殊勝にも此事を小耳に挿み、海外壯遊の氣茲に萌したりといふ、曾て東京の寫眞師丸木利陽に寫眞術を學び、朝鮮、支那、西比利亞の地を踏破す、已にして日清戦争の起るや、參謀本部の寫眞隊に編入せられて、軍に従ひ、臺灣征討の擧あるや、また之れに従ふ、斯くて明治二十九年

渡米し、桑港に在りて家内労働に従事し、傍ら英語を學ぶ、後アルトリヤといへる地の養生園に備はれ、郵便物の配達等を爲し居たるに、偶々二百弗金貨の落ち居たるを見て之を拾ひ、直に園主に渡したるが、爾後深く園主の爲に信用せられ、漸次増給せられて、一ヶ月六拾弗を得るに至れり、當時園内に使用する人夫八百八人あり、皆支那人の労働者なりしが、園主の始めて日本人を知るや、支那人を出して、代るに日本人を以てし、吉田をして農具の保管に當らしむ、彼れ曾て陸軍部内用度の事務を知れり、是に於て管理其當を得、園主大に其才を稱したりといふ、彼れ此所に在る事一年餘、身體頗る健康となりて、貯蓄した千弗に達す、乃ち櫻府ゼー街に、一の寫眞館を開業す、是れ明治三十一年の事にして、創業の當時或は白人同盟の脅迫を受け、或は日本人同業者の爲めに、苦しめられたる事なきに非ず、然れども忍耐刻苦、業務に奮勵して大に其技倆を發揮し、漸次に其名を知られて、今や加州有名の寫眞師たるに至れり、天性義侠に富み、殊に公共の爲めに盡す事尠からず、曾てサクラメント平野日本人會の會長に推薦せらるゝや、日夜公務に奔走し、會の事業之れが爲に振張したるは、世人の已に之れを熟知せる所なり。

△野中俊三 熊本縣玉名郡銅村の産にして、弘化三年生る、曾て布哇移民第二回目渡航者として布哇に來り、砂糖耕地に労働する事三年、後鐵道に働きて資金を得、熊本屋旅館を開業して、日本人の爲めに便利を圖りたる事少からず、曾て渡航者の事故にて上陸する事能はざるや、餘旋